

---

---

## 第2章 調査結果

---

---

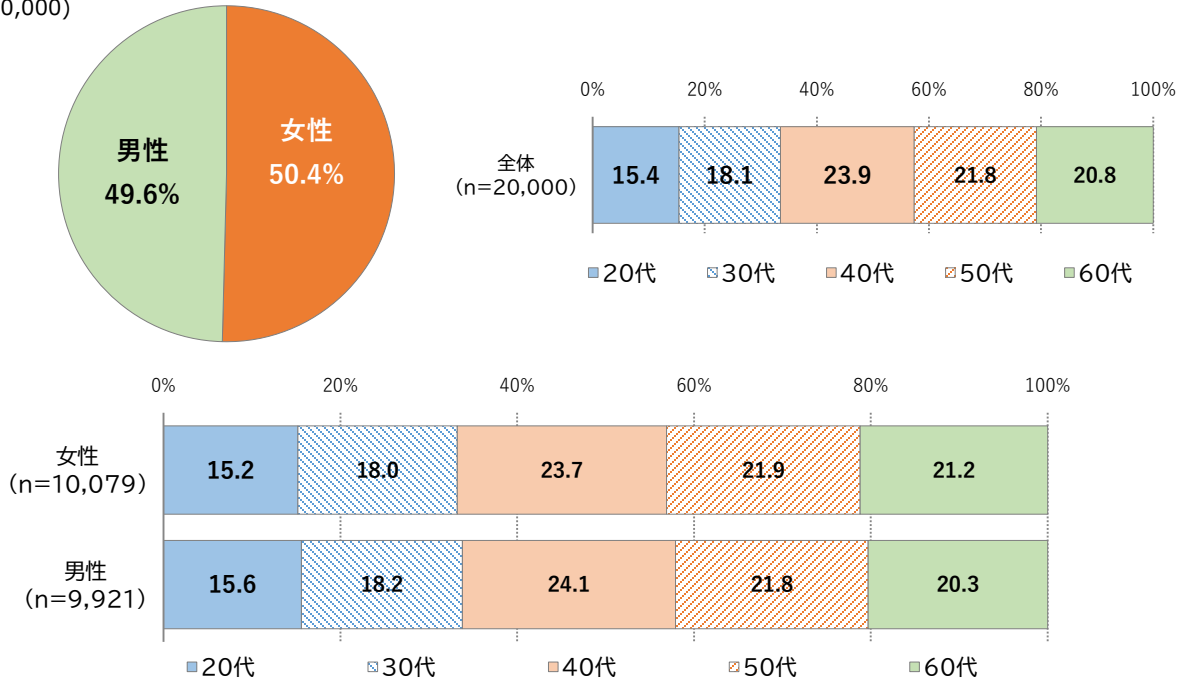
## 第2章 調査結果

### 1. 基本属性

・本調査における回答者の基本属性を以下にまとめる。

#### (1) 性別・年代

(n=20,000)



#### (2) 居住地

・都道府県ごとの回収数は以下の通り。

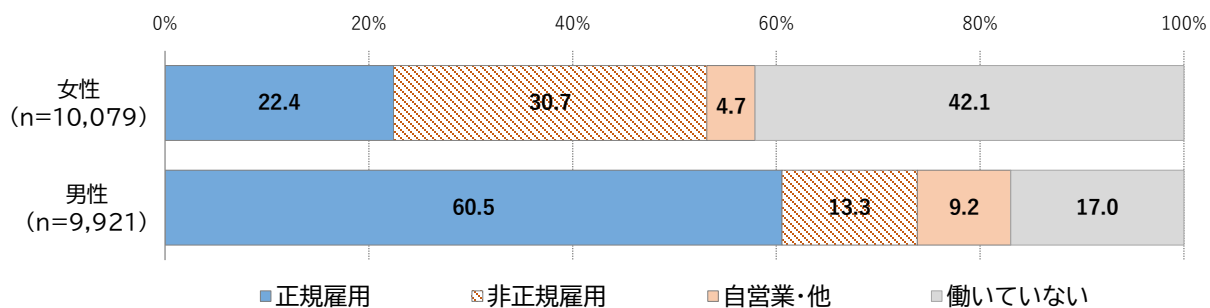
(人)

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山
全体	926	154	128	348	121	125	188	321	241	201	1335	1062	2701	1679	314	142
女性	510	81	62	182	65	75	96	170	120	99	632	541	1318	791	159	70
男性	416	73	66	166	56	50	92	151	121	102	703	521	1383	888	155	72

	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根
全体	134	99	76	239	326	480	1393	271	236	453	1714	1030	245	127	77	68
女性	72	38	35	127	160	245	692	143	118	220	915	529	116	60	36	20
男性	62	61	41	112	166	235	701	128	118	233	799	501	129	67	41	48

	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
全体	306	488	173	89	157	189	63	714	77	145	162	116	96	144	127
女性	169	258	90	38	87	89	25	401	40	80	79	54	40	67	65
男性	137	230	83	51	70	100	38	313	37	65	83	62	56	77	62

### (3) 就業状況



(%)

	正規雇用		非正規雇用					自営業・自由業・その他					働いていない		
	正規の会社員・職員・従業員	会社などの役員	パート・アルバイト	労働派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他の形で雇用されている	自営業・自由業 (従業員がいる)	自営業・自由業 (従業員がいない)	自家営業の手伝い (家族従業員)	家庭内の賃仕事 (内職)	その他	主婦・主夫	学生	その他 (働いていない)
全体 (n=20,000)	40.0	1.4	15.2	2.2	3.5	0.8	0.3	1.2	4.5	0.7	0.4	0.2	16.1	2.7	10.8
女性 (n=10,079)	21.9	0.5	24.0	2.8	3.2	0.4	0.4	0.6	2.5	0.9	0.6	0.2	31.0	2.2	8.9
男性 (n=9,921)	58.3	2.2	6.3	1.6	3.8	1.3	0.3	1.9	6.4	0.5	0.2	0.2	0.9	3.3	12.8

### (4) 産業

(%)

	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
全体 (n=14,073)	1.0	0.2	5.4	18.9	1.4	5.3	5.4	3.5	8.0	3.8	2.3	4.2	5.3	11.3	18.3	5.7
女性 (n=5,838)	0.8	0.1	3.8	12.7	0.9	2.8	3.0	3.0	11.8	4.4	1.8	6.0	6.8	17.6	19.4	5.1
男性 (n=8,235)	1.1	0.3	6.6	23.3	1.7	7.0	7.0	3.9	5.3	3.4	2.8	2.8	4.3	6.9	17.4	6.1

### (5) 職業

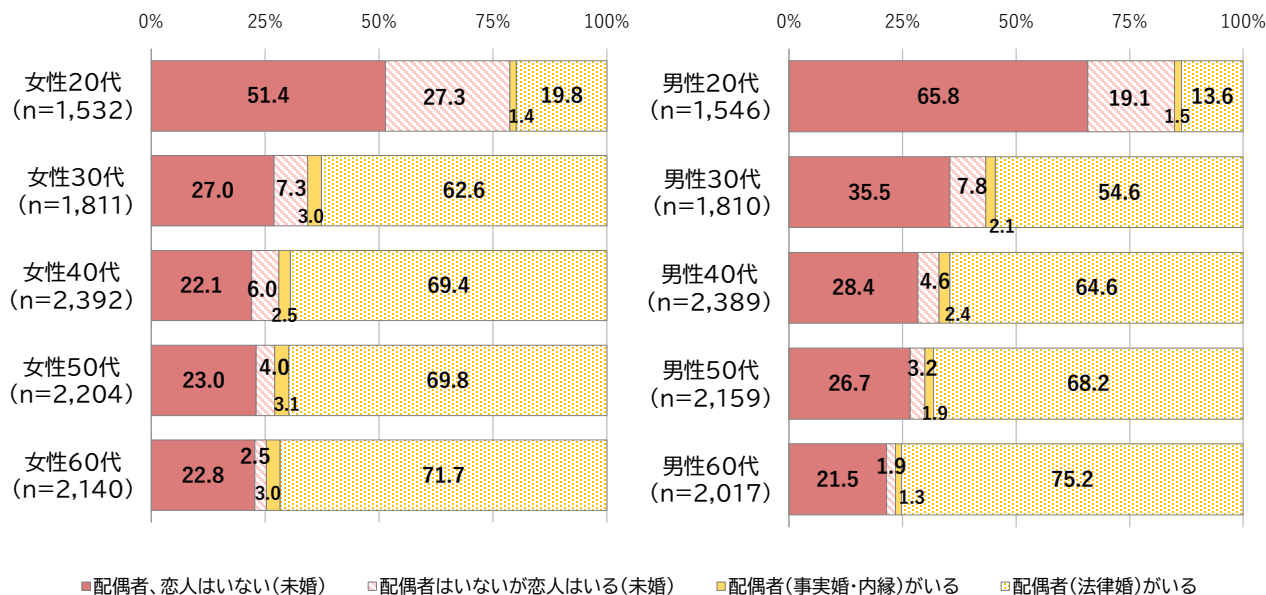
(%)

	事務職	管理職 ※課長相当以上	専門・技術職	販売	サービス	保安職	農林漁業	生産工程従事	輸送・機械運転	建設・採掘	運搬・清掃・包装など	その他
全体 (n=14,073)	25.4	9.7	18.6	9.1	13.4	1.2	0.7	7.9	1.6	1.6	4.1	6.6
女性 (n=5,838)	35.1	1.5	15.1	11.7	17.4	0.2	0.5	5.9	0.3	0.2	4.1	8.1
男性 (n=8,235)	18.4	15.6	21.1	7.3	10.6	1.9	0.9	9.4	2.5	2.6	4.2	5.6

## 2. 結婚・家族を取り巻く状況

### (1) 現在の配偶者等の状況

- ・現在の配偶者等の状況については、男女とも「配偶者がいる(事実婚・内縁、法律婚含む)」割合は、30代以上では5割以上となり、20代では上の年代と比べて低い。
- ・「女性20代」では、「配偶者はいないが恋人はいる(未婚)」が27.3%、対して「男性20代」では19.1%。
- ・女性では40代以上になると、「配偶者がいる(事実婚・内縁、法律婚含む)」割合は、7割程度と一定。対して、「配偶者はいないが恋人はいる(未婚)」割合は、「女性40代」で6.0%、「女性50代」で4.0%、「女性60代」で2.5%。
- ・男性では、「配偶者、恋人はいない(未婚)」割合は、30代で35.5%、40代で28.4%、50代で26.7%。



### (2) 離婚経験

- ・離婚経験を見てみると、現在独身の女性では、「40代」で31.9%、「50代」で44.7%、「60代」で50.1%。一方、現在独身の男性では、「40代」で13.8%、「50代」で24.3%、「60代」で33.0%。
- ・既婚者の離婚経験率は、男女ともにどの年代でも1割以下。

#### 女性

[現在独身]	過去に離婚したことがある
20代(n=1,206)	1.4%
30代(n=622)	14.5%
40代(n=671)	31.9%
50代(n=597)	44.7%
60代(n=541)	50.1%

[現在既婚]	過去に離婚したことがある
20代(n=326)	4.0%
30代(n=1,189)	6.7%
40代(n=1,721)	7.7%
50代(n=1,607)	9.3%
60代(n=1,599)	7.3%

#### 男性

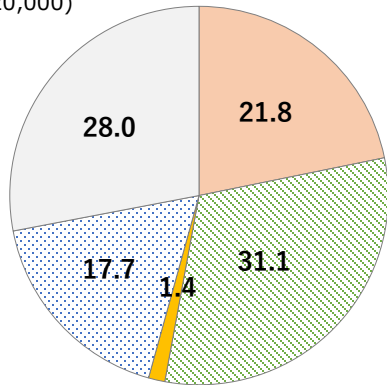
[現在独身]	過去に離婚したことがある
20代(n=1,313)	0.6%
30代(n=784)	4.6%
40代(n=789)	13.8%
50代(n=647)	24.3%
60代(n=473)	33.0%

[現在既婚]	過去に離婚したことがある
20代(n=233)	8.2%
30代(n=1,026)	5.6%
40代(n=1,600)	7.2%
50代(n=1,512)	8.3%
60代(n=1,544)	6.5%

### (3) 家族形態

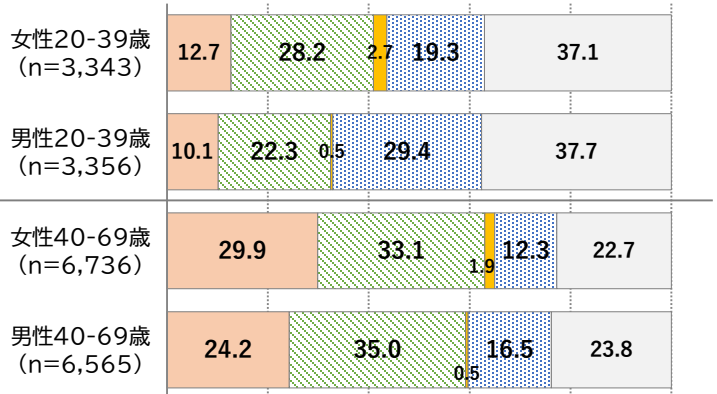
・「女性20-39歳」では、「夫婦のみ世帯」が12.7%、「夫婦と子供から成る世帯」が28.2%、「単独世帯」が19.3%。「男性20-39歳」では、「単独世帯」が29.4%と、「女性20-39歳」と比べて10%ポイント以上高い。  
 ・「女性40-69歳」では、「夫婦のみ世帯」が29.9%、「夫婦と子供から成る世帯」が33.1%、「単独世帯」が12.3%。「男性40-69歳」でも「女性40-69歳」と大きな傾向は変わらない。

(n=20,000)



■ 夫婦のみ世帯   ■ 夫婦と子供から成る世帯   ■ 母子・父子世帯   ■ 単独世帯   ■ その他世帯

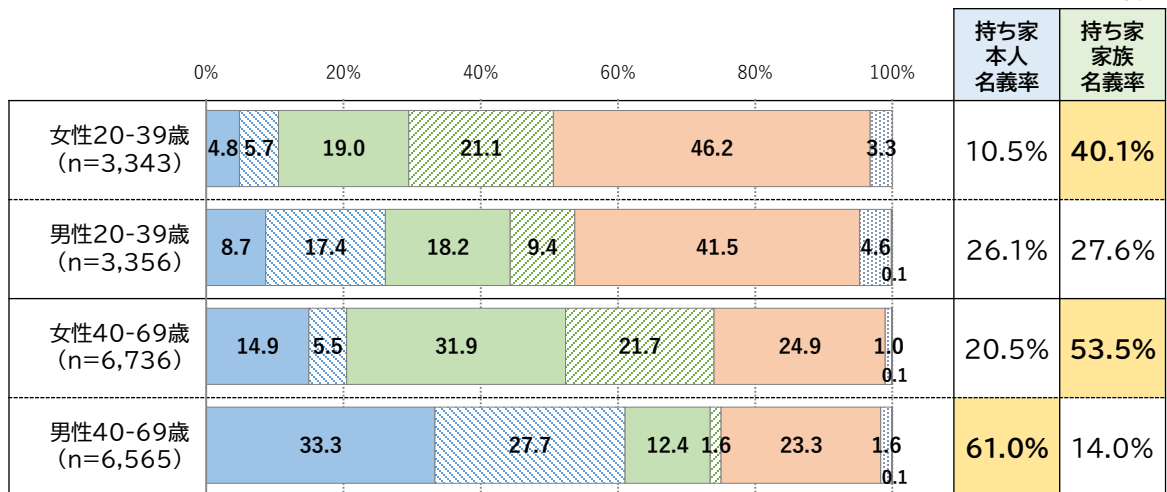
0%   20%   40%   60%   80%   100%



### (4) 現在の住居形態

・男女とも「20-39歳」では、「賃貸住宅」が最も高く、4割強。持ち家の名義で見ると、「女性20-39歳」では「持ち家本人名義」が10.5%、「持ち家家族名義率」が40.1%となる。  
 ・「女性40-69歳」では、「持ち家家族名義(ローンなし)」が最も高く、31.9%。「男性40-69歳」では、「持ち家本人名義(ローンなし)」が最も高く、33.3%。持ち家の名義については、「女性40-69歳」では「持ち家本人名義」が20.5%に対し、「男性40-69歳」では61.0%と差が大きい。

※40%を超えるセルに色掛け



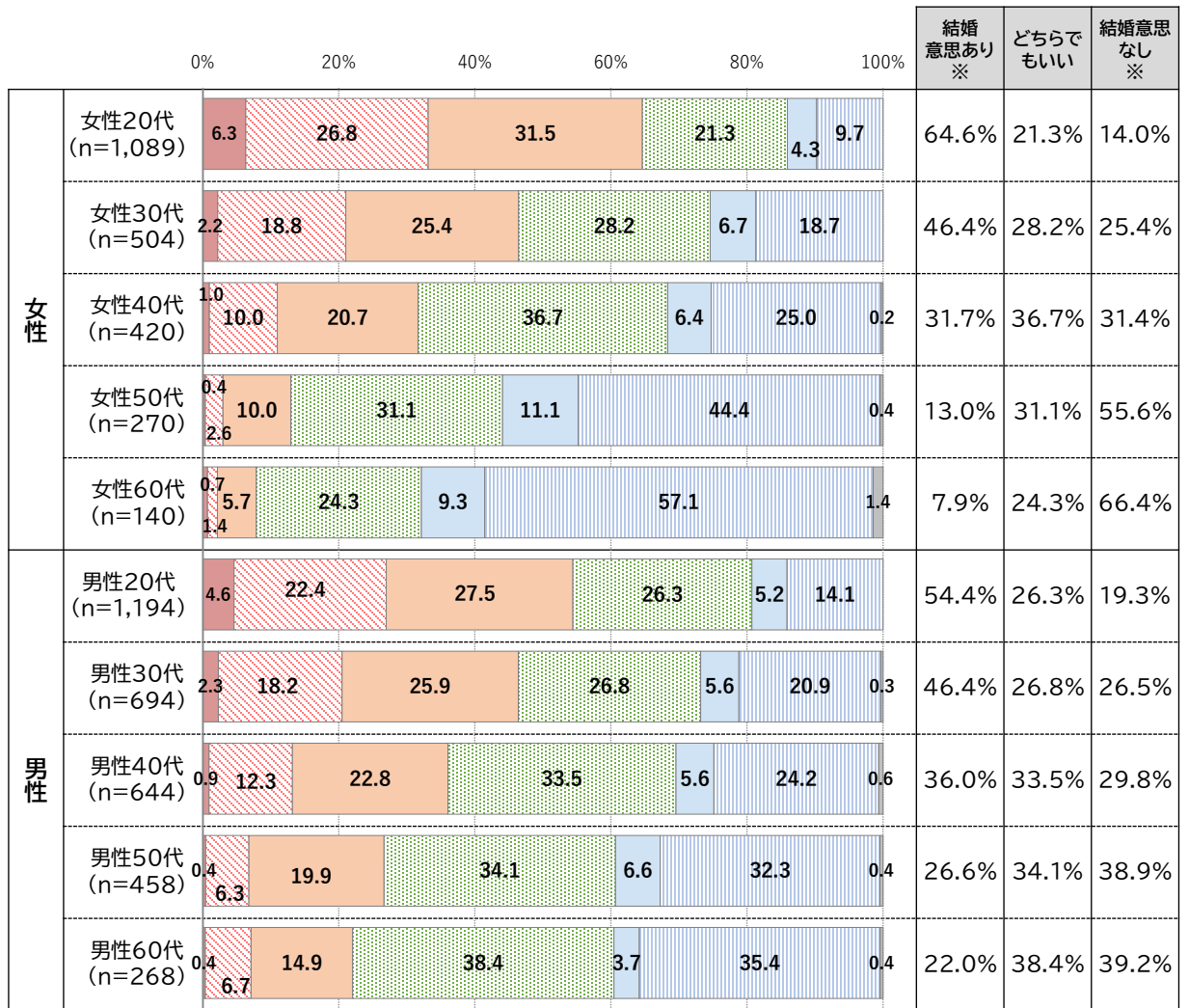
■ 持ち家 本人名義(ローンなし)   ■ 持ち家 本人名義(ローン返済中)  
 ■ 持ち家 家族名義(ローンなし)   ■ 持ち家 家族名義(ローン返済中)  
 ■ 賃貸住宅   ■ 給費住宅(寮、社宅など)  
 ■ その他

## (5) 今後の結婚願望(独身者対象)

・女性の結婚願望については、「結婚意思あり」は20代で64.6%、30代で46.4%。40代では「結婚意思あり」が31.7%、「結婚意思なし」が31.4%とほぼ同程度。50代以上では、「結婚意思なし」が5割を超える。

・男性では、「結婚意思あり」は20代で54.4%、30代で46.4%、40代で36.0%。50代以上では、「結婚意思なし」が4割弱と、同年代女性より低く、一方で「結婚意思あり」は2割強であり、同年代の女性に比べると高い。

### ①独身(これまで結婚経験無し)



■ 現在、既に予定がある・決まっている

■ 現在、予定はないが出来ればしたい

■ 出来ればたくない

■ その他

■ 現在、予定はないが是非したい

■ どちらでもよいと思う

■ したくない

※結婚意思あり…

「現在、既に予定がある・決まっている」  
+ 「現在、予定はないが是非したい」  
+ 「現在、予定はないが出来ればしたい」  
の累計値

※結婚意思なし…

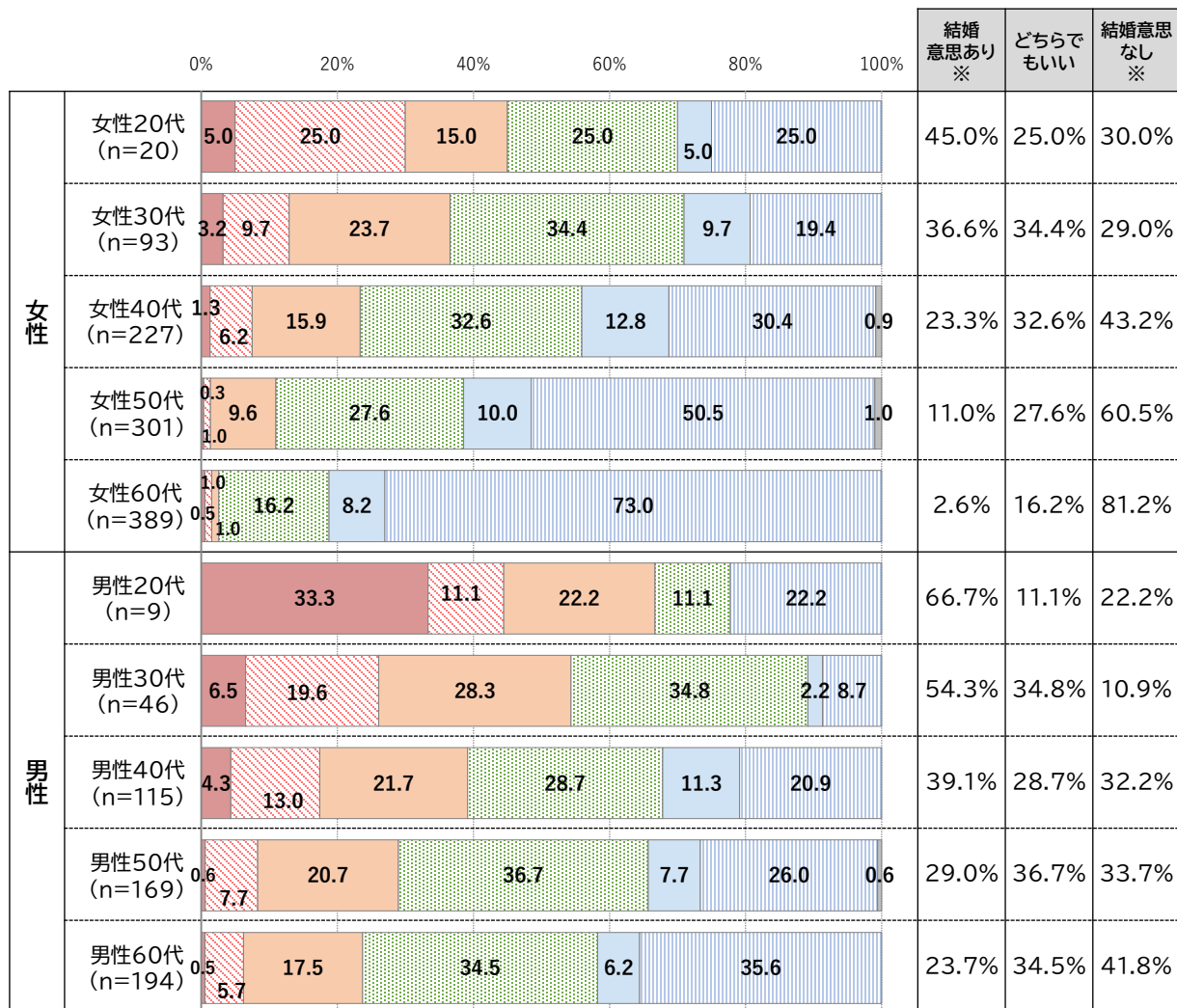
「出来ればたくない」+ 「したくない」  
の累計値

## (5) 今後の結婚願望(独身者対象)

・離婚・死別経験がある女性の結婚願望について、前ページの「離婚・死別経験がない独身の女性※」の数値と比較してみると、「女性40代」では「結婚意思なし」が43.2%（※経験がない40代女性31.4%）、50代以上も同様の傾向となっており、40代以上の女性においては、「離婚・死別経験がある女性」の方が、「結婚意思なし」の割合が高くなっている。

・一方、「離婚・死別経験」がある男性・ない男性で比較してみると、「男性40代」では「結婚意思あり」が39.1%（※経験がない40代男性36.0%）、50代以上でも2～3割と、「独身者(結婚経験なし)」と同様の傾向であり、「結婚意思あり」の割合は、「離婚・死別経験」の有無でそこまで大きな違いは見られない。

### ②独身(離婚・死別経験あり)



■ 現在、既に予定がある・決まっている

■ 現在、予定はないが出来ればしたい

■ 出来ればしたくない

■ その他

■ 現在、予定はないが是非したい

■ どちらでもいいと思う

■ したくない

※結婚意思あり…

「現在、既に予定がある・決まっている」  
+ 「現在、予定はないが是非したい」  
+ 「現在、予定はないが出来ればしたい」  
の累計値

※結婚意思なし…

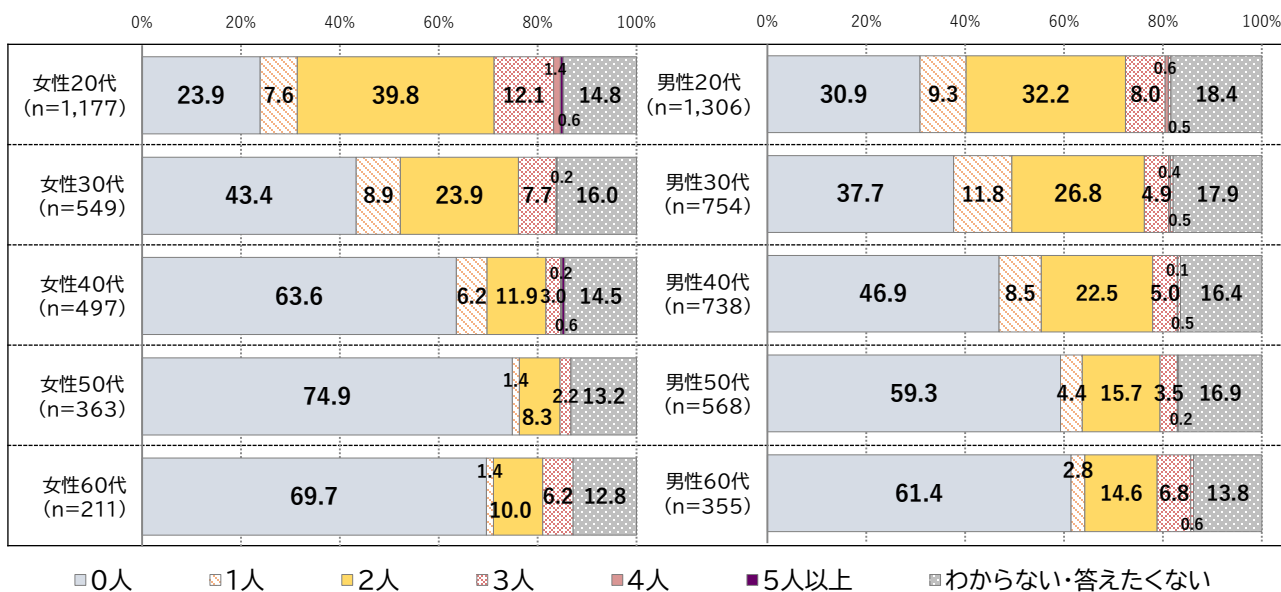
「出来ればしたくない」 + 「したくない」  
の累計値

## (6) 理想の子供の数・今後育てたい子供の数

- ・理想の子供の数について、独身で現在子供がいない女性においては、「女性20代」では「0人」が23.9%、「2人」が39.8%。「女性30代」では「0人」が43.4%、「2人」が23.9%。独身で現在子供がいない男性においては、「男性20代」では「0人」が30.9%、「2人」が32.2%。「男性30代」では、「0人」が37.7%、「2人」が26.8%。
- ・理想の子供の人数を「1人以上」で回答しているものを見ると、男女ともにどの年代でも「2人」が最も高い。
- ・今後育てたい子供の数については、「女性20代」では「0人」が25.5%、「2人」が38.1%。「女性30代」で「0人」が45.4%、「2人」が19.1%。「男性20代」では「0人」が31.5%、「2人」が29.0%。「男性30代」では「0人」が38.7%、「2人」が22.4%。

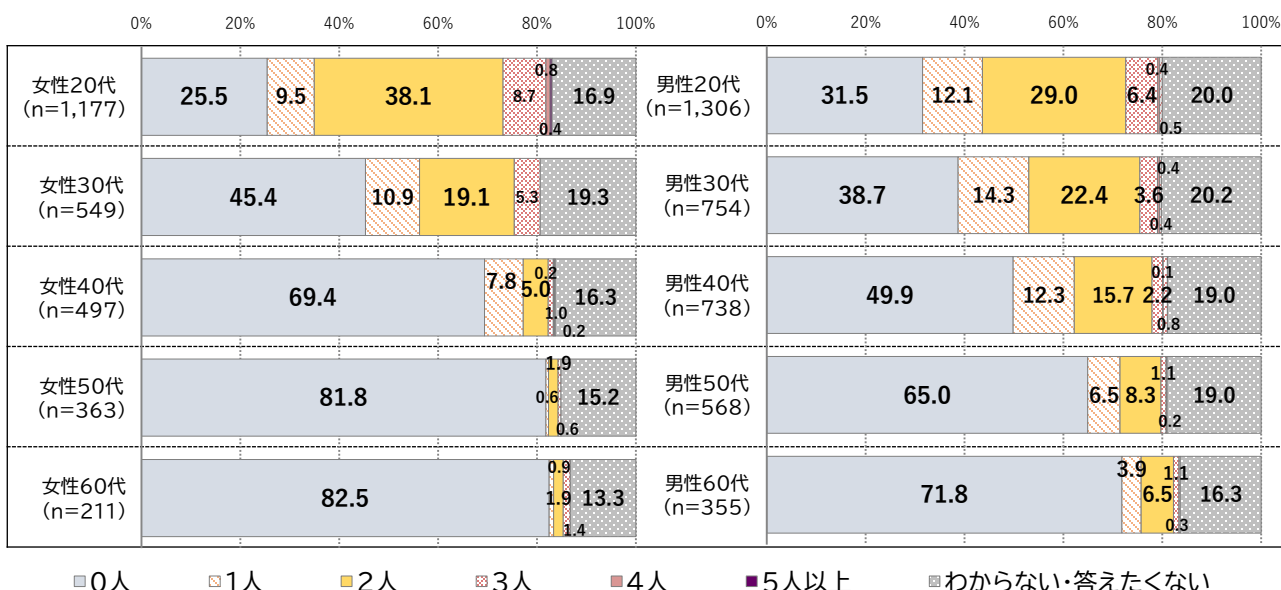
### ①独身(現在、子供がいない人)

#### 理想の子供の数



■0人 ■1人 ■2人 ■3人 ■4人 ■5人以上 ■わからない・答えたくない

#### 今後育てたい子供の数



■0人 ■1人 ■2人 ■3人 ■4人 ■5人以上 ■わからない・答えたくない

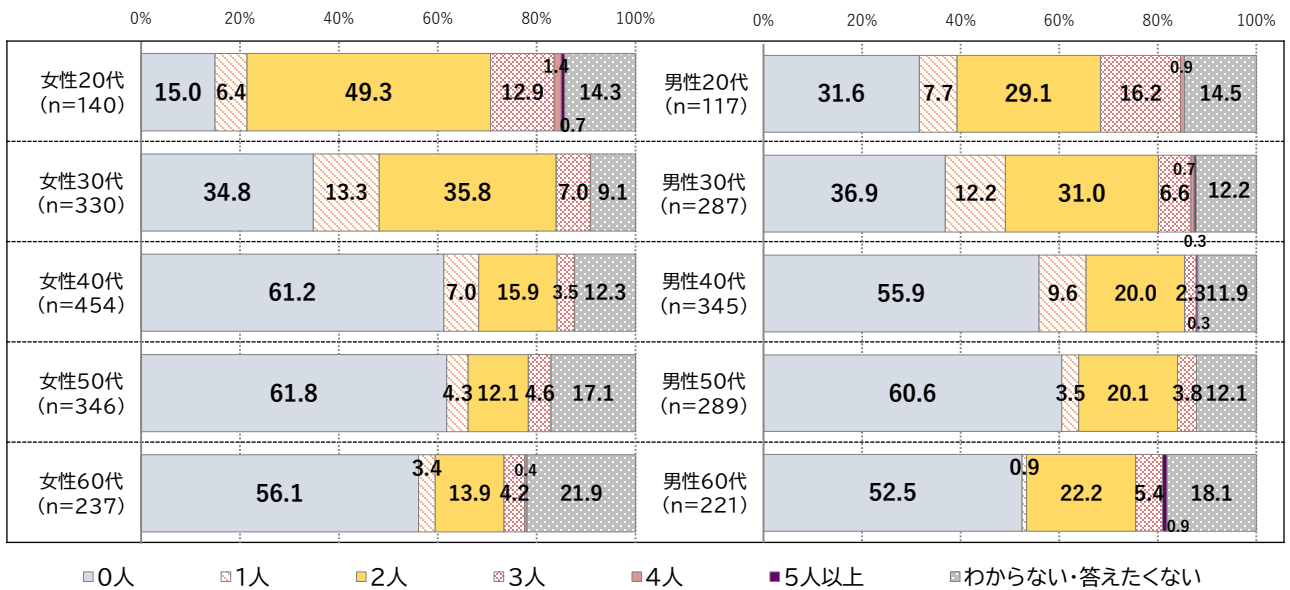


## (6) 理想の子供の数・今後育てたい子供の数

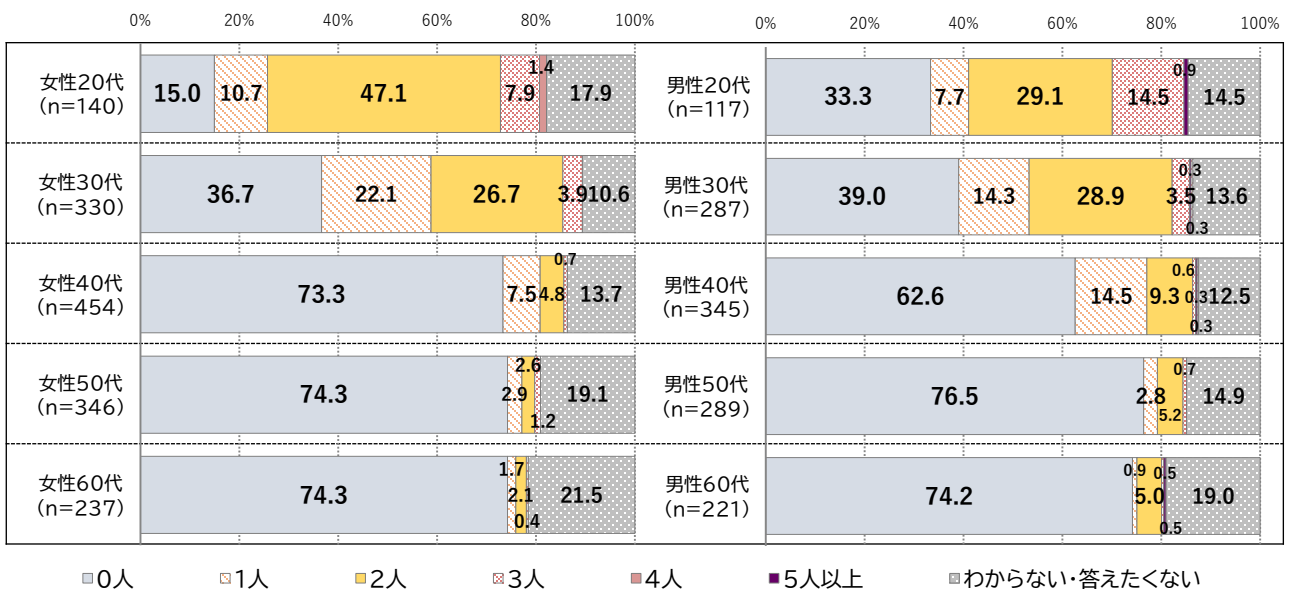
- ・理想の子供の数について、既婚で現在子供がいない女性においては、「女性20代」では「0人」が15.0%、「2人」が49.3%。「女性30代」では「0人」が34.8%、「2人」が35.8%。独身で現在子供がいない男性においては、「男性20代」では「0人」が31.6%、「2人」が29.1%。「男性30代」では、「0人」が36.9%、「2人」が31.0%。
- ・理想の子供の人数を「1人以上」で回答しているものを見ると、男女ともにどの年代でも「2人」が最も高い。
- ・今後育てたい子供の数については、「女性20代」では「0人」が15.0%、「2人」が47.1%。「女性30代」で「0人」が36.7%、「2人」が26.7%。「男性20代」では「0人」が33.3%、「2人」が29.1%。「男性30代」では「0人」が39.0%、「2人」が28.9%。

### ②既婚者(現在、子供がいない人)

#### 理想の子供の数



#### 今後育てたい子供の数



## (7) 各ターニングポイントにおける理想の年齢と現実

### 【理想の年齢】

- ・最初に結婚する年齢は、「女性」26.1歳、「男性」28.0歳に対し、最初の結婚時の配偶者の年齢も、「女性(夫の年齢)」は28.3歳、「男性(妻の年齢)」は26.2歳となった。第一子を持つ理想の年齢は、男女ともに、最初の結婚時の年齢から+2歳ほど足した年齢で、女性は27.8歳、男性は29.9歳。
- ・自分が「この年齢までは働きたい」と思う理想の年齢は、女性で53.8歳、男性で62.0歳。対して、配偶者に「この年齢までは働いて欲しい」と思う理想の年齢は、女性が男性に望む年齢は64.9歳。男性が女性に望む年齢は55.3歳。

### 【現実の年齢】

- ・最初に結婚した年齢は、「女性(妻)」は26.6歳(理想は26.1歳)、「男性(夫)」は28.9歳(理想は28.0歳)と理想と現実の差は0.5~1歳程度。
- ・最初に離婚した年齢は、「女性(妻)」は33.9歳、「男性(夫)」は35.5歳。
- ・第一子を持った年齢は、「女性(妻)」は28.0歳(理想は27.8歳)、「男性(夫)」は30.7歳(理想は29.9歳)と、理想と現実の差は0.2~0.8歳程度。
- ・二回目に結婚した時の年齢は、「女性(妻)」は35.7歳、「男性(夫)」は36.6歳。

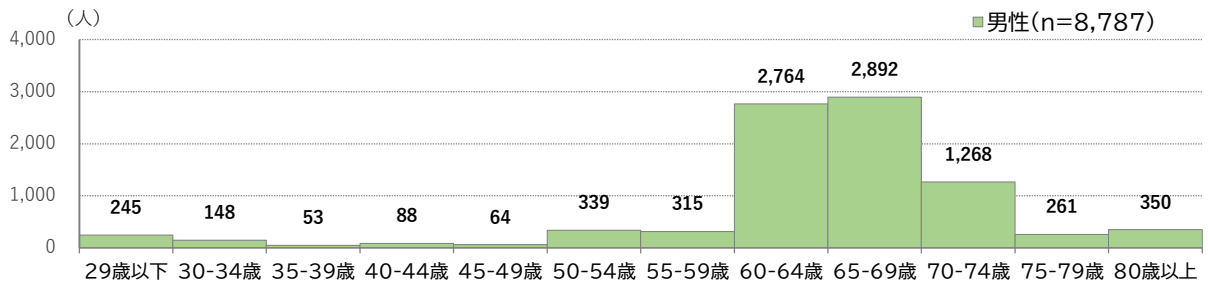
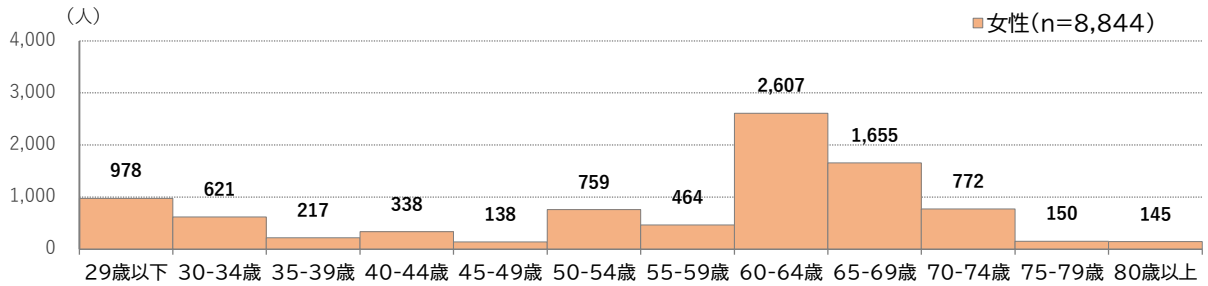
理想の年齢	女性	男性
最初に結婚する年齢	26.1歳 (n=9,030)	28.0歳 (n=8,875)
最初の結婚時の配偶者の年齢	28.3歳 (n=8,924)	26.2歳 (n=8,776)
第一子を持つ年齢	27.8歳 (n=8,840)	29.9歳 (n=8,697)
自分が「この年齢までは働きたい」と思う年齢	53.8歳 (n=8,844)	62.0歳 (n=8,787)
配偶者に「この年齢までは働いて欲しい」と思う年齢	64.9歳 (n=8,881)	55.3歳 (n=8,447)

現実の年齢	女性	男性
最初に結婚した年齢	26.6歳 (n=7,204)	28.9歳 (n=6,138)
第一子を持った年齢	28.0歳 (n=5,576)	30.7歳 (n=4,736)
最初に離婚した時の年齢	33.9歳 (n=1,270)	35.5歳 (n=804)
二回目に結婚した時の年齢	35.7歳 (n=623)	36.6歳 (n=500)

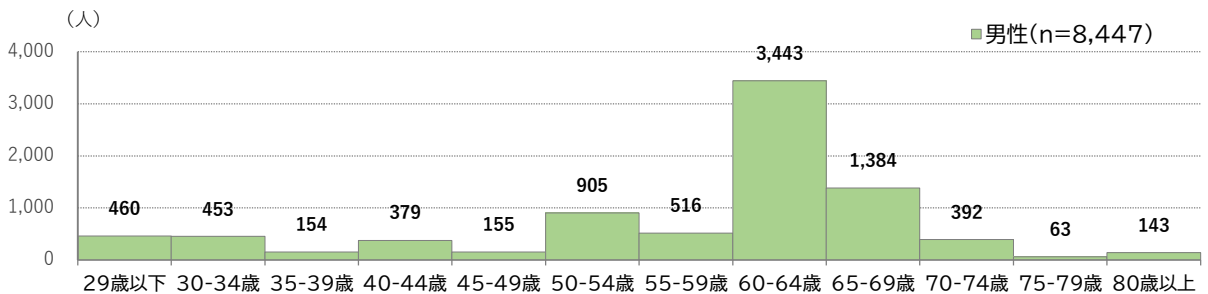
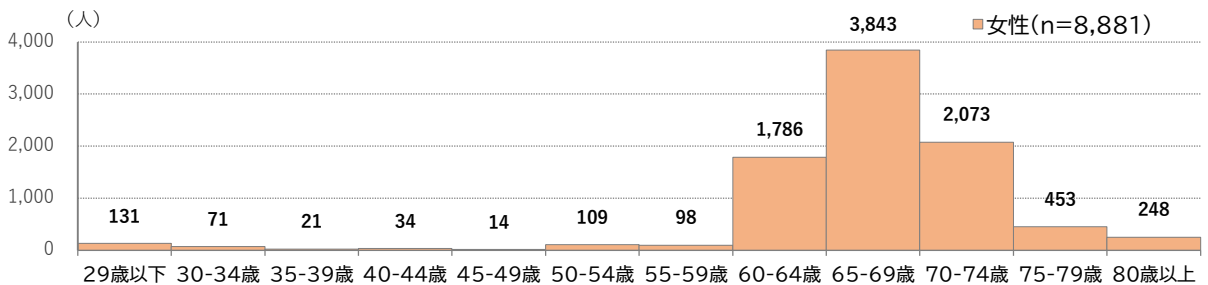
※全て全回答値の平均年齢  
(必須設問としていない為、nが異なる)

## (7) 各ターニングポイントにおける理想の年齢と現実

自分が「この年齢までは働きたい」と思う年齢の度数分布(無回答除く)



配偶者に「この年齢までは働いて欲しい」と思う年齢の度数分布(無回答除く)



## (8) 結婚前に相手に求めたこと(理想)

・20-39歳で見ると、女性で最も高い項目は「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」59.7%、次に「価値観が近い」59.3%、「一緒にいて楽しい」54.0%。男性でも同様の項目が高い。

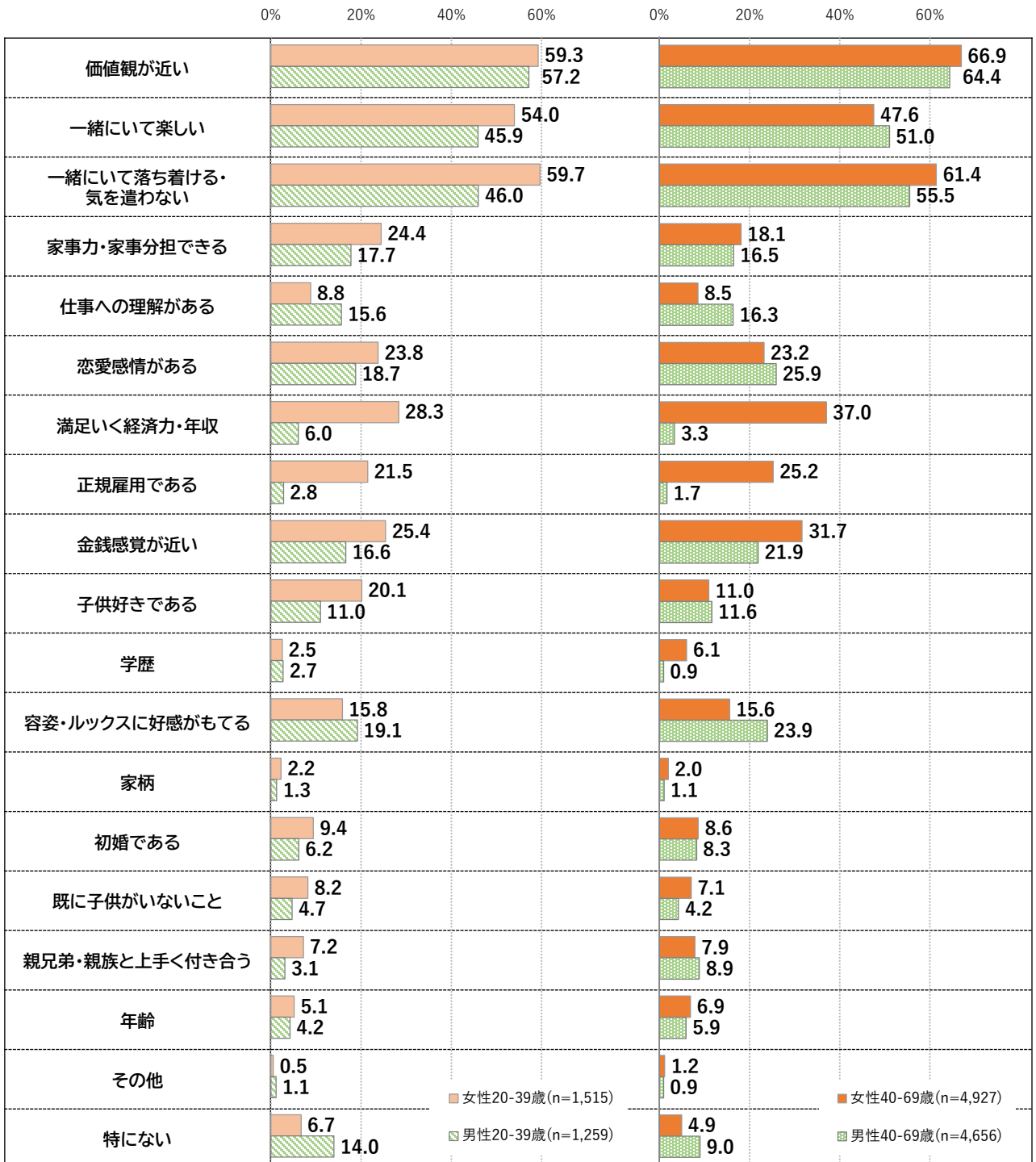
・40-69歳で見ると、女性で最も高い項目は「価値観が近い」66.9%、次に「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」61.4%、「一緒にいて楽しい」47.6%。男性でも同様の項目が高い。

・男女差がある項目について女性の方が高いのは、どちらの年代でも、「満足いく経済力・年収」「正規雇用である」「金銭感覚が近い」等。男性の方が高いのは、「容姿・ルックスに好感がもてる」。また20-39歳では「子供好きである」「家事力・家事分担できる」で女性の方が高い。

### 既婚(事実婚含む)

#### ①20-39歳 既婚男女比較

#### ②40-69歳 既婚男女比較



## (8) 結婚前に相手に求めたこと(理想)

・20-39歳で見ると、女性で最も高い項目は「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」64.4%、次に「価値観が近い」62.7%、「一緒にいて楽しい」49.7%。男性でも同様の項目が高い。

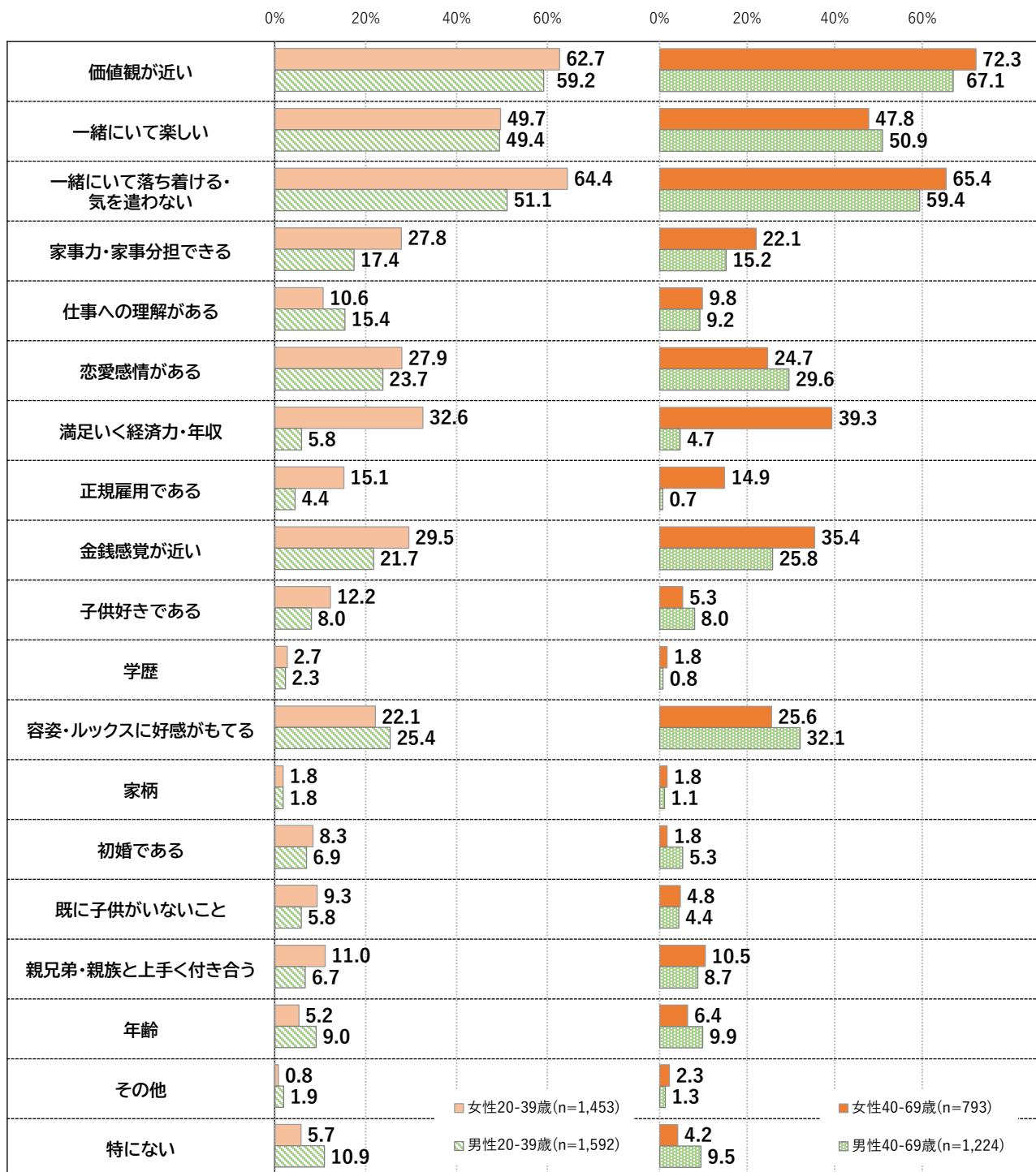
・40-69歳で見ると、女性で最も高い項目は「価値観が近い」72.3%、次に「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」65.4%、「一緒にいて楽しい」47.8%。男性でも同様の項目が高い。

・男女差がある項目については、どちらの年代でも、「満足いく経済力・年収」「正規雇用である」「金銭感覚が近い」「家事力・家事分担できる」等は女性の方が高い。また40-69歳では「容姿・ルックスに好感がもてる」は男性の方が高く、男女差が見られた。

### 独身

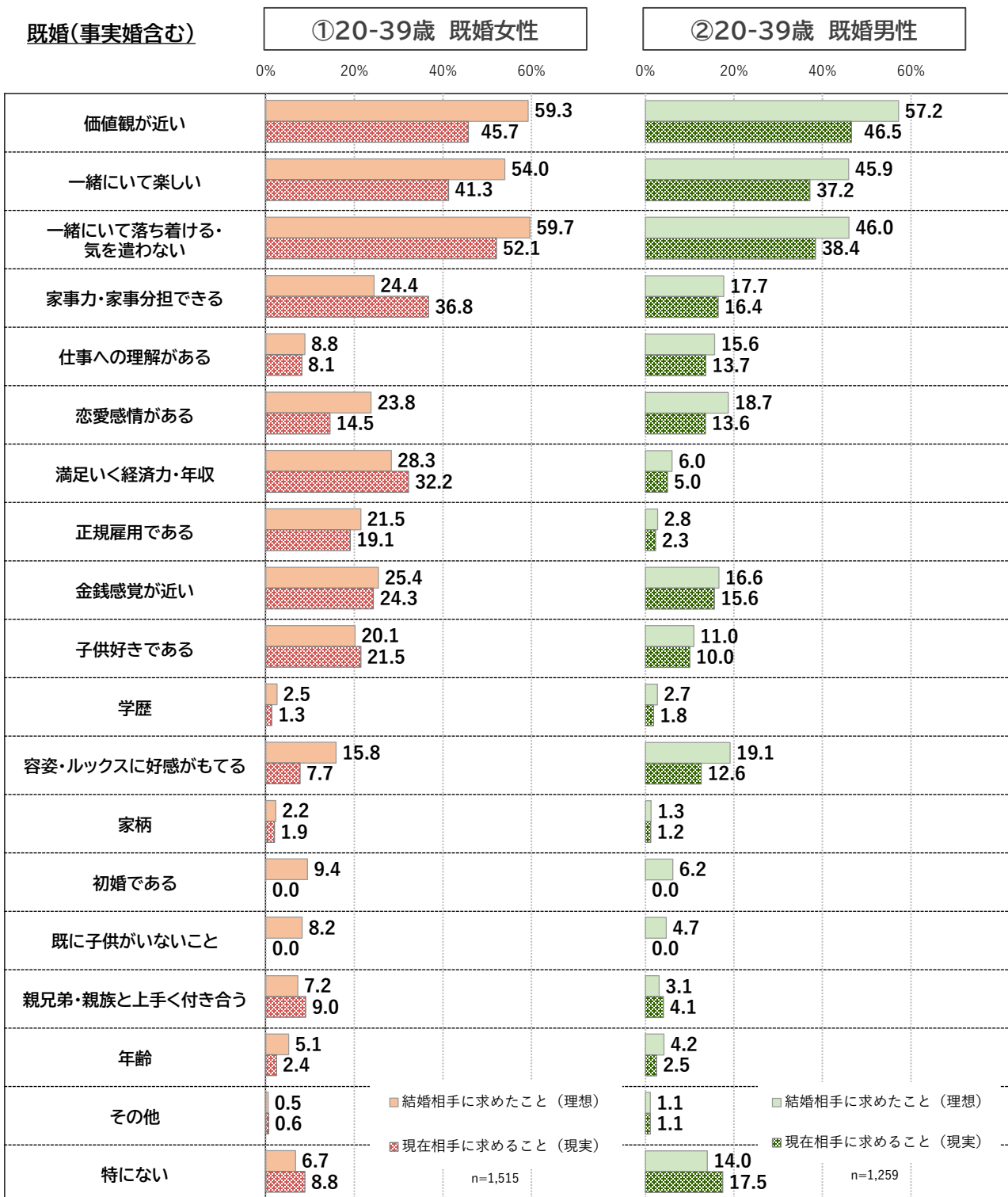
#### ①20-39歳 独身男女比較

#### ②40-69歳 独身男女比較



## (9) 結婚前に相手に求めたこと(理想)と現在相手に求めること(現実)(20-39歳 既婚の男女)

・既婚者の20-39歳において、結婚前に相手に対して求めたこと(理想)と、現在相手に求めること(現実)を比較すると、男女ともに「理想」の方が割合が高い項目が多い。  
 ・一方、「現実」の方が「理想」よりも割合が高い項目(結婚してからの方が相手に求める要素として強い項目)は、女性については「家事力・家事分担できる」「満足いく経済力・年収」等となった。

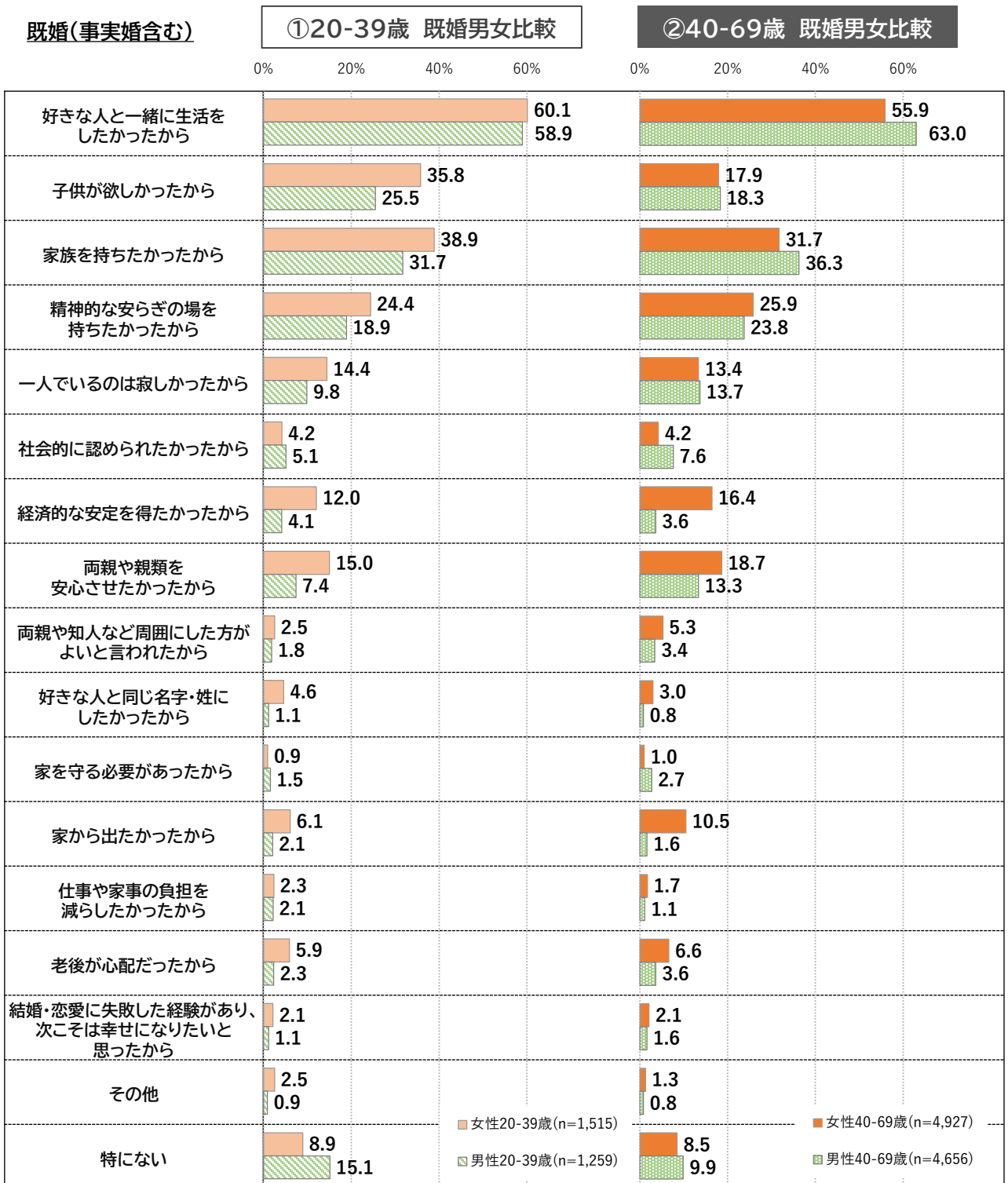




## (10) 結婚した理由

・既婚者の結婚した理由について、20-39歳で見ると、男女ともに最も高い項目は「好きな人と一緒に生活をしたかったから」で6割前後。次に女性では「家族を持ちたかったから」38.9%、「子供が欲しかったから」35.8%。男性も高い項目の順は同じであるが、この2つの項目については女性の方が特に高い傾向にあった。

・40-69歳でも同様に、最も高い項目は男女ともに「好きな人と一緒に生活をしたかったから」、次に「家族を持ちたかったから」、「精神的な安らぎの場を持ちたかったから」の順で高い。また、「経済的な安定を得たかったから」等については男女差が見られ、女性の方で高い傾向にあった。





## (11) 結婚したい理由

・独身者の結婚したい理由について、20-39歳で見てみると、男女ともに最も高い項目は「好きな人と一緒に生活をしたい」で5割前後。次に女性では「家族を持ちたい」30.8%、「精神的な安らぎの場を持ちたい」27.5%、「子供が欲しい」26.9%。男性でも同様の項目が高いが、特に「家族を持ちたい」「子供が欲しい」「精神的な安らぎの場を持ちたい」については、女性の方が高い傾向にあった。

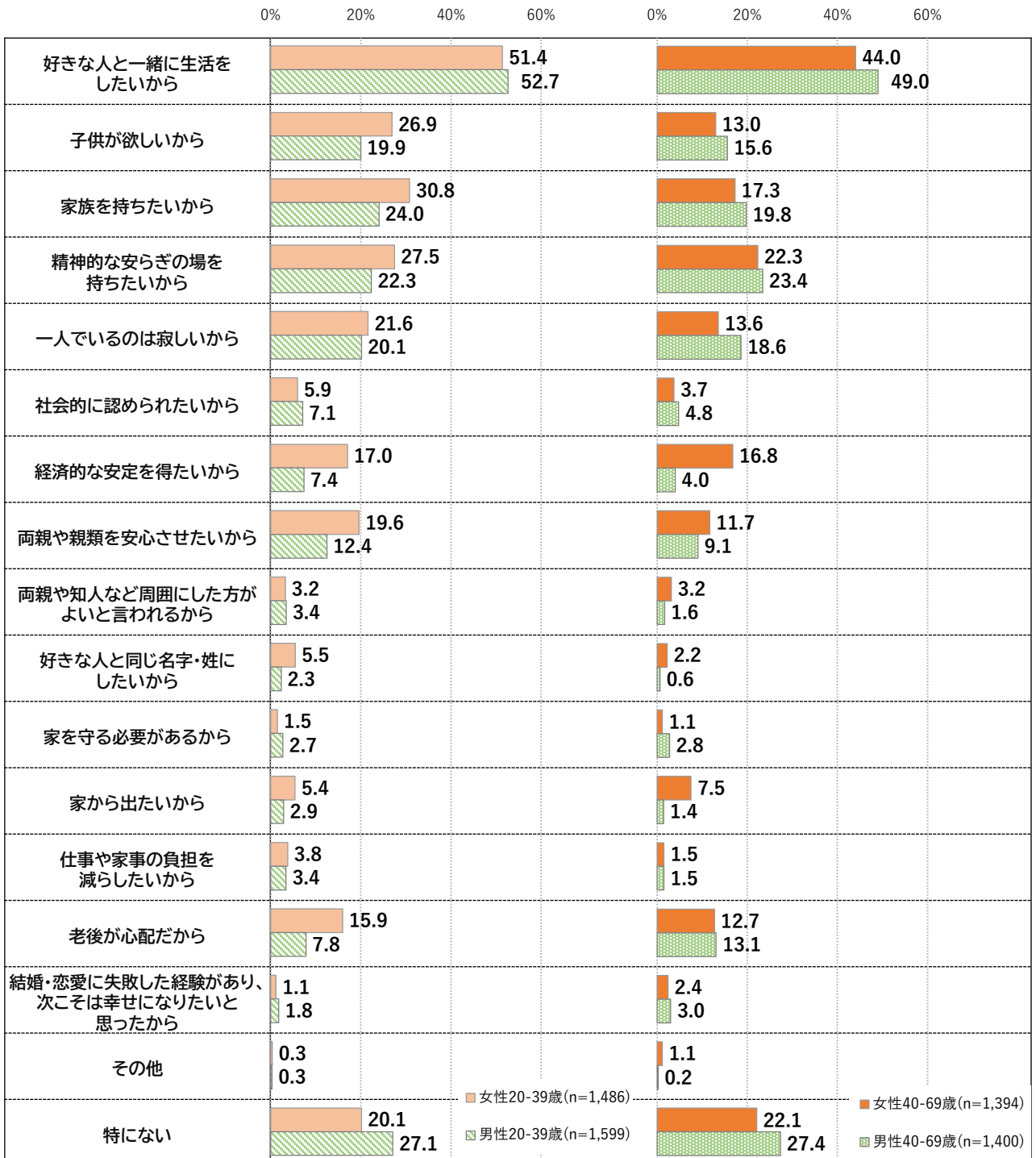
・40-69歳でも同様に、最も高い項目は男女ともに「好きな人と一緒に生活をしたい」、次に「精神的な安らぎの場を持ちたい」。

・どちらの年代でも、「経済的な安定を得たい」については女性の方が高い傾向にあった。

### 独身

#### ①20-39歳 独身男女比較

#### ②40-69歳 独身男女比較



## (12) 結婚前にどのような流れで結婚したいと思っていたか(理想)と実際どうだったか(現実) (20-39歳 既婚の男女)

※「理想」は複数回答、「現実」は単数回答

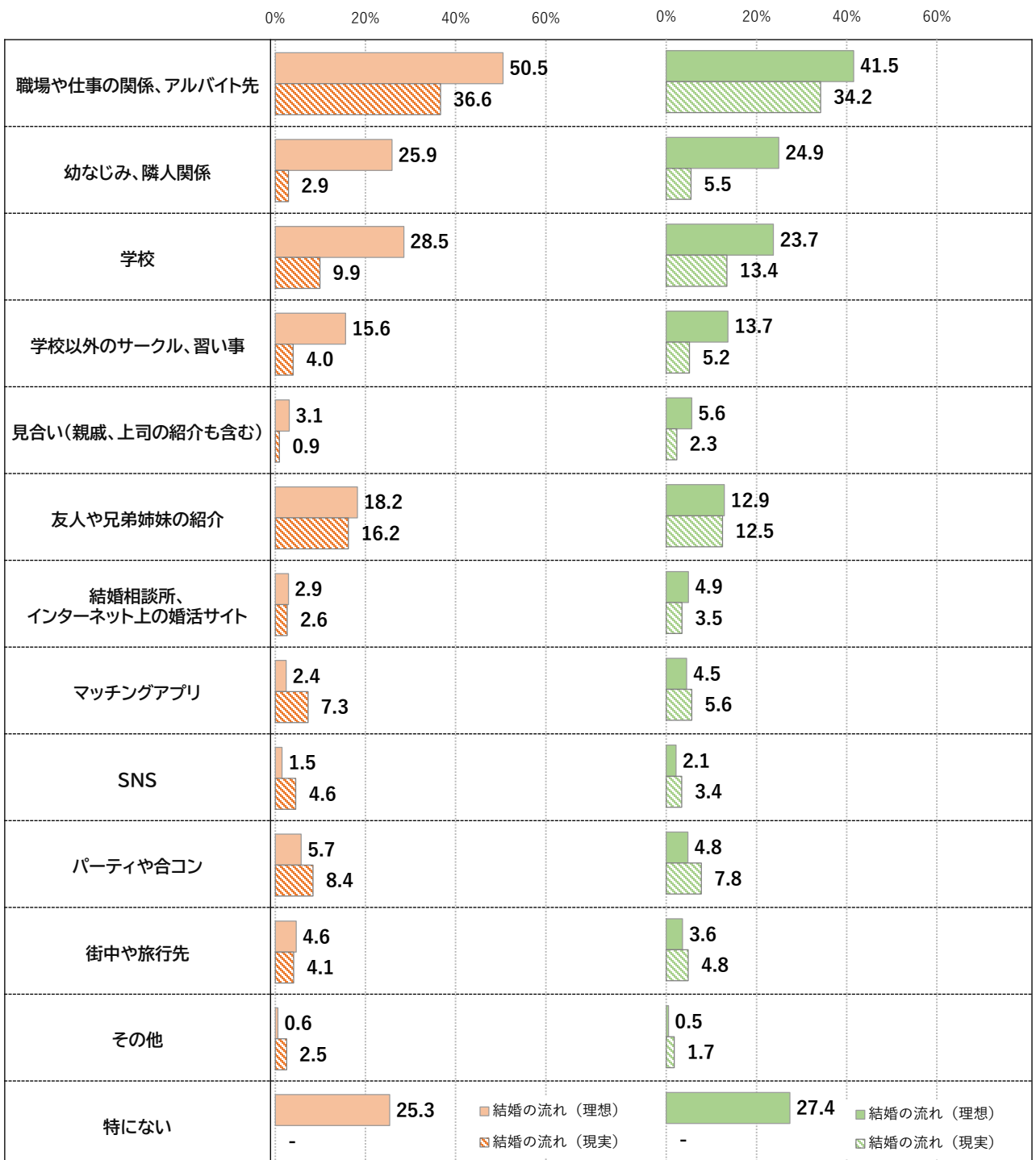
・既婚者がどのような流れで結婚したいと思っていたか(理想)については、男女ともに「職場や仕事の関係、アルバイト先」が最も高い。実際どうだったか(現実)についても、「職場や仕事の関係、アルバイト先」が最も高い。

・「理想」と「現実」で大きな差(15%ポイント以上)が見られるのは、「女性20-39歳」では「幼なじみ、隣人関係」(理想25.9%、現実2.9%)、「学校」(理想28.5%、現実9.9%)。「男性20-39歳」では「幼なじみ、隣人関係」(理想24.9%、現実5.5%)。

既婚(事実婚含む):理想

①20-39歳 既婚女性  
(n=1,515)

②20-39歳 既婚男性  
(n=1,259)



※「結婚の流れ(現実)」は、「特にない」は選択できない

(12) 結婚前にどのような流れで結婚したいと思っていたか(理想)と実際どうだったか(現実)  
(40-69歳 既婚の男女)

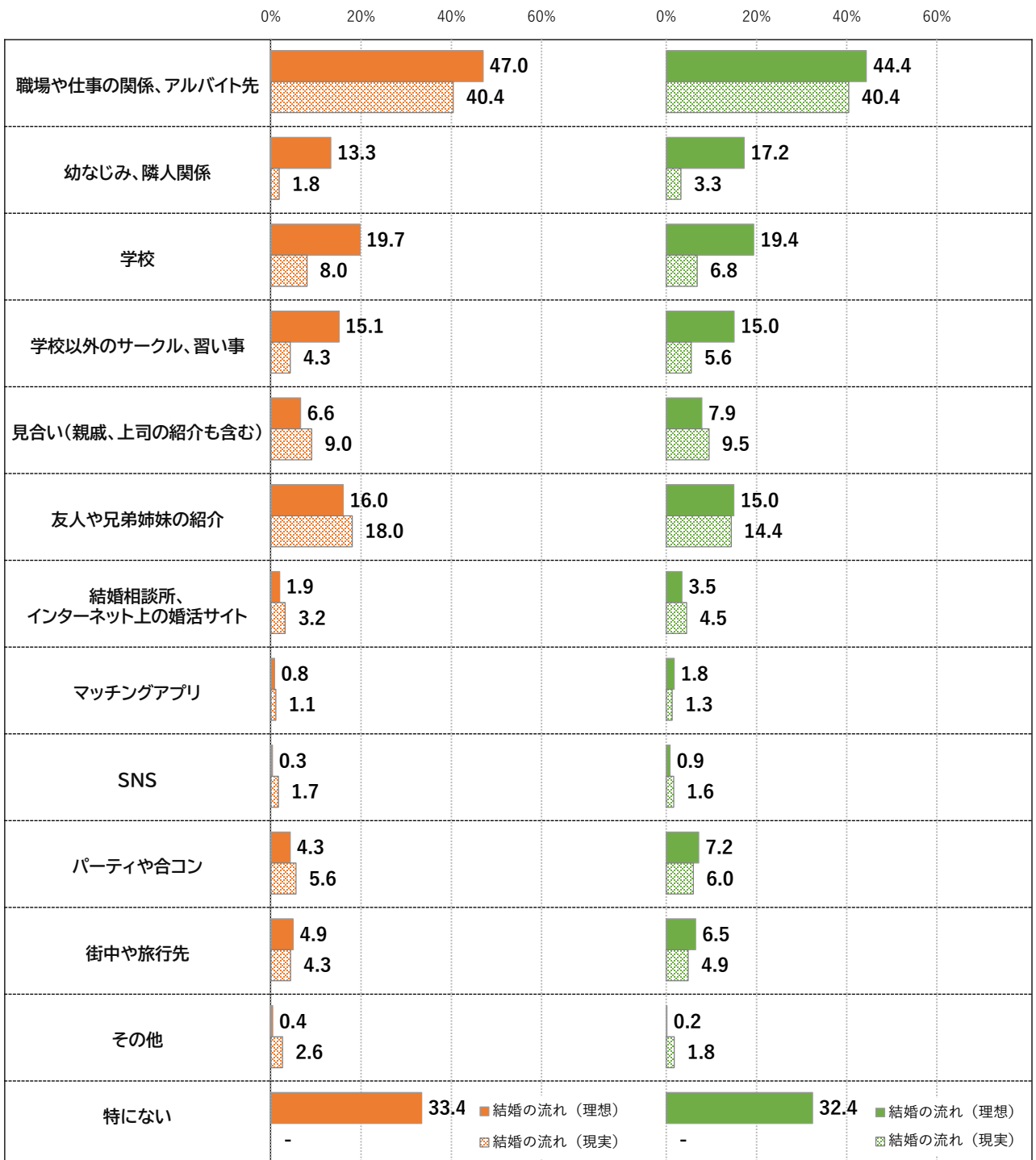
※「理想」は複数回答、「現実」は単数回答

- ・「40-69歳」も「20-39歳」と同様に、「職場や仕事の関係、アルバイト先」が理想と現実ともに最も高い。
- ・「理想」と「現実」で大きな差(10%ポイント以上)が見られるのは、「女性40-69歳」では、「幼なじみ、隣人関係」(理想13.3%、現実1.8%)、「学校」(理想19.7%、現実8.0%)。「男性40-69歳」では、「幼なじみ、隣人関係」(理想17.2%、現実3.3%)、「学校」(理想19.4%、現実6.8%)。

既婚(事実婚含む):理想

③40-69歳 既婚女性  
(n=4,927)

③40-69歳 既婚男性  
(n=4,656)



※「結婚の流れ(現実)」は、「特にない」は選択できない

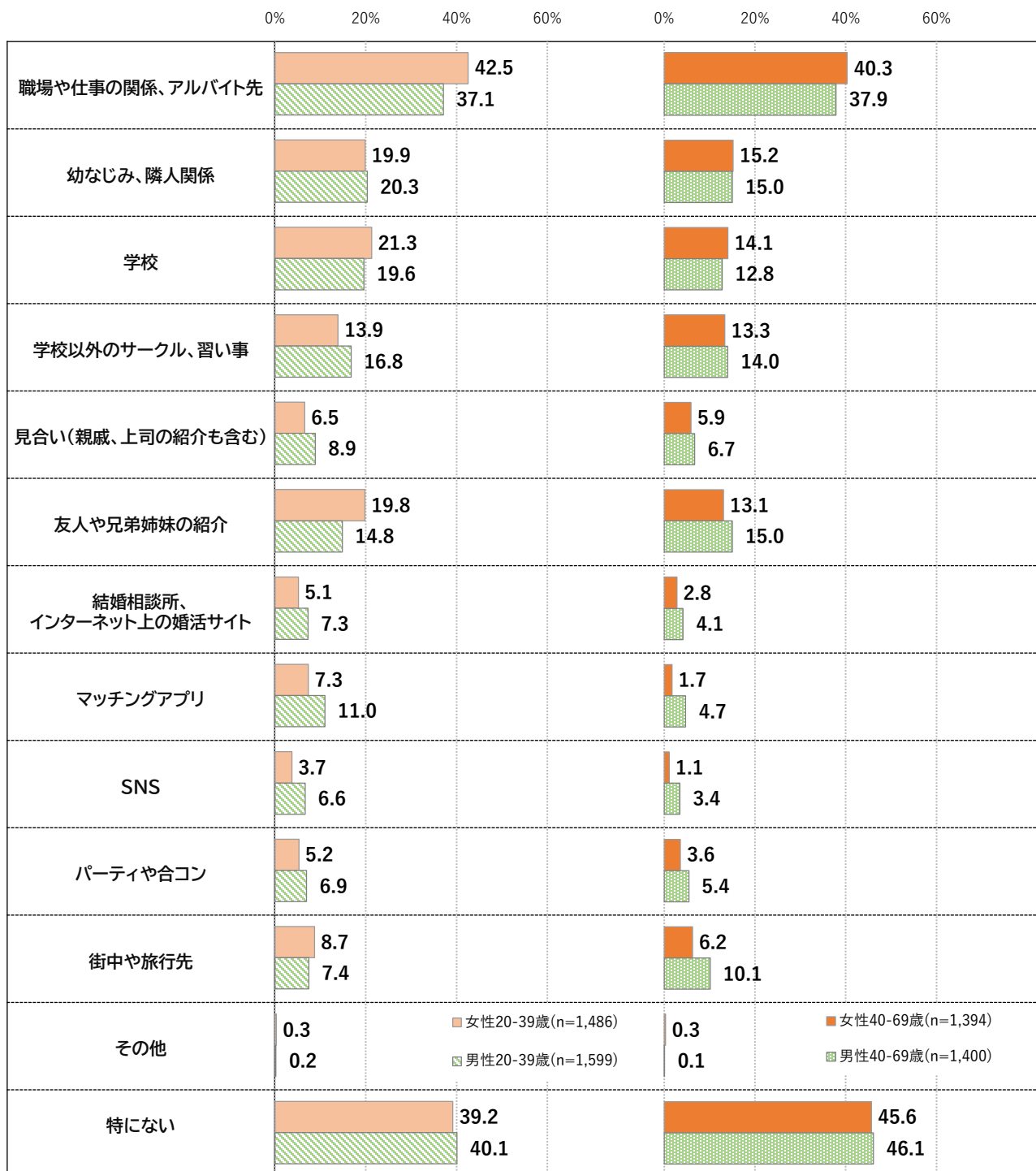
### (13) どのような流れで結婚したいと思っているか(理想)

- ・独身者がどのような流れで結婚したいと思っているかについては、男女ともに全ての年代で「職場や仕事の関係、アルバイト先」が最も高いが、既婚者の割合より低い傾向にある。
- ・20-39歳では、次に「学校」「幼なじみ、隣人関係」が2割前後と高い。また、既婚男性と比べて、独身男性では、「マッチングアプリ」が11.0%とやや高かった。
- ・40-69歳では、他に2割を超える項目がなかった。

#### 独身:理想

#### ①20-39歳 独身男女比較

#### ②40-69歳 独身男女比較

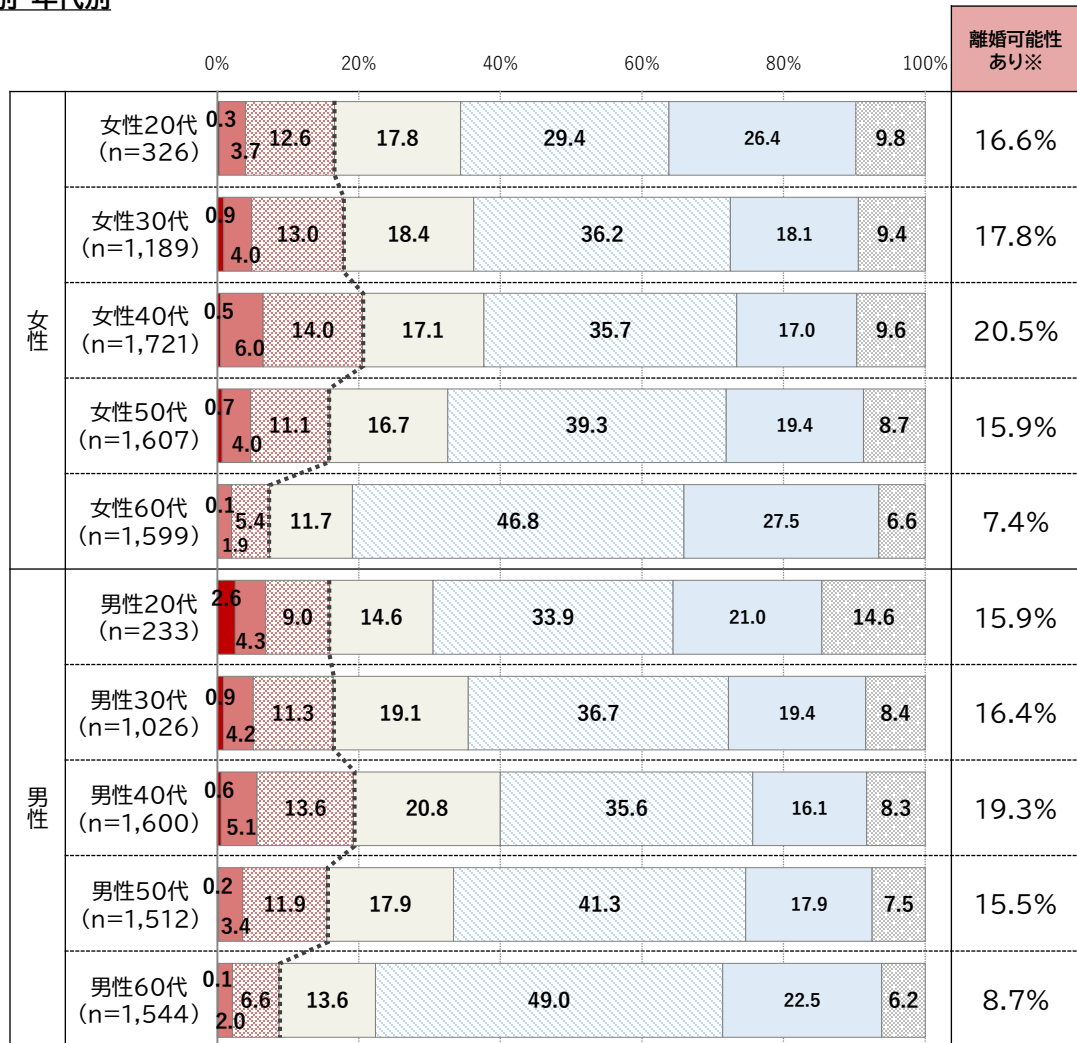


## (14) 今後離婚する可能性 ※現在結婚している人(事実婚含む)

・今後離婚する可能性について、男女ともにどの年代でも「まあないと思う」とする割合が最も高く、3～5割程度。「40代」でやや下がるものの、「20-30代」と比べ「50代」以上で「絶対にならないと思う+まあないと思う」の割合が高くなる。

・「離婚可能性あり」とした割合は、男女ともに40代で最も高くなる(女性20.5%、男性19.3%)。最も低いのは、男女とも60代となった。

### 男女別・年代別



- 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- かなりありそうだと思う
- ▨ あるかもしれないと思う
- どちらとも言えない
- まあないと思う
- 絶対にならないと思う
- ▨ わからない・考えられない

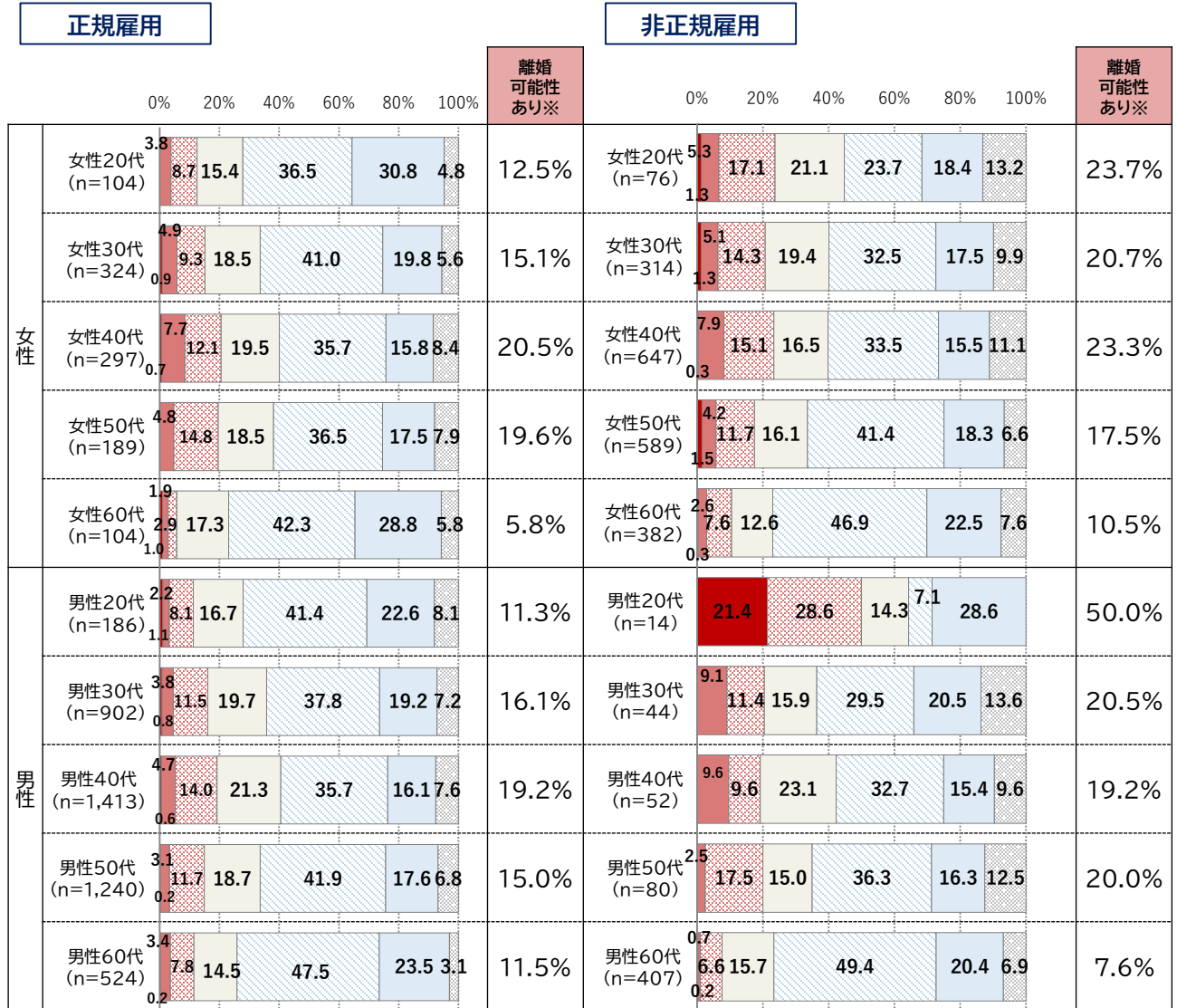
※離婚可能性あり…  
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+  
「現在、離婚準備中」の累計値

## (14) 今後離婚する可能性 ※現在結婚している人(事実婚含む)

※対象者数が50人を超えるものを中心にコメントを記載

・「正規雇用」「非正規雇用」で今後離婚する可能性を見てみると、女性20～30代での比較では、「正規雇用」よりも「非正規雇用」で「離婚可能性あり」とする割合が高い傾向にある。また、女性「正規雇用」で見ると、「離婚可能性あり」とした割合が最も高いのは、「女性40代」で20.5%、次に「女性50代」で19.6%。

### 【就業形態別】



- 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- ▨ あるかもしれないと思う
- まあないと思う
- ▩ わからない・考えられない

- かなりありそうだと思う
- どちらとも言えない
- 絶対にないと思う

※離婚可能性あり…  
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+  
「現在、離婚準備中」の累計値

## (14) 今後離婚する可能性 ※現在結婚している人(事実婚含む)

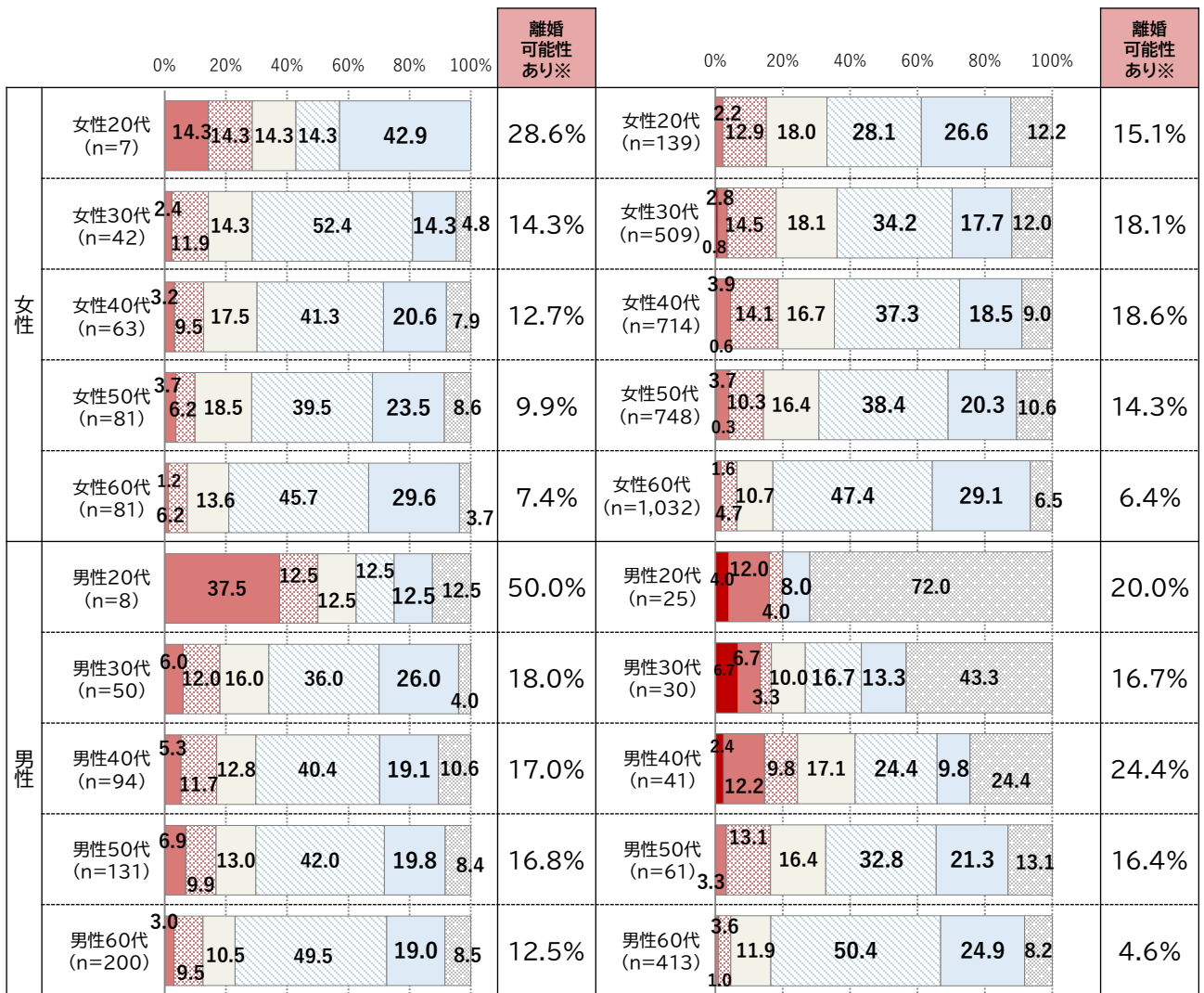
※対象者数が50人を超えるものを中心にコメントを記載

・今後離婚する可能性について、「無職(主婦・主夫含む)」と「正規雇用」「非正規雇用」とを比較すると、「離婚可能性あり」とした人が、40代女性では「正規雇用」20.5%、「非正規雇用」23.3%、「無職(主婦・主夫含む)」18.6%、50代女性では「正規雇用」19.6%、「非正規雇用」17.5%、「無職」14.3%となり、50代女性では、「無職」で「離婚可能性あり」とした割合が最も低い。

### 【就業形態別】

#### 自営業・その他

#### 無職(主婦・主夫含む)



- 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- かなりありそうと思う
- ▨ あるかもしれないと思う
- どちらとも言えない
- まあないと思う
- 絶対にないと思う
- ▨ わからない・考えられない

※離婚可能性あり…  
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+  
「現在、離婚準備中」の累計値

(14) 今後離婚する可能性 ※現在結婚している人(事実婚含む)

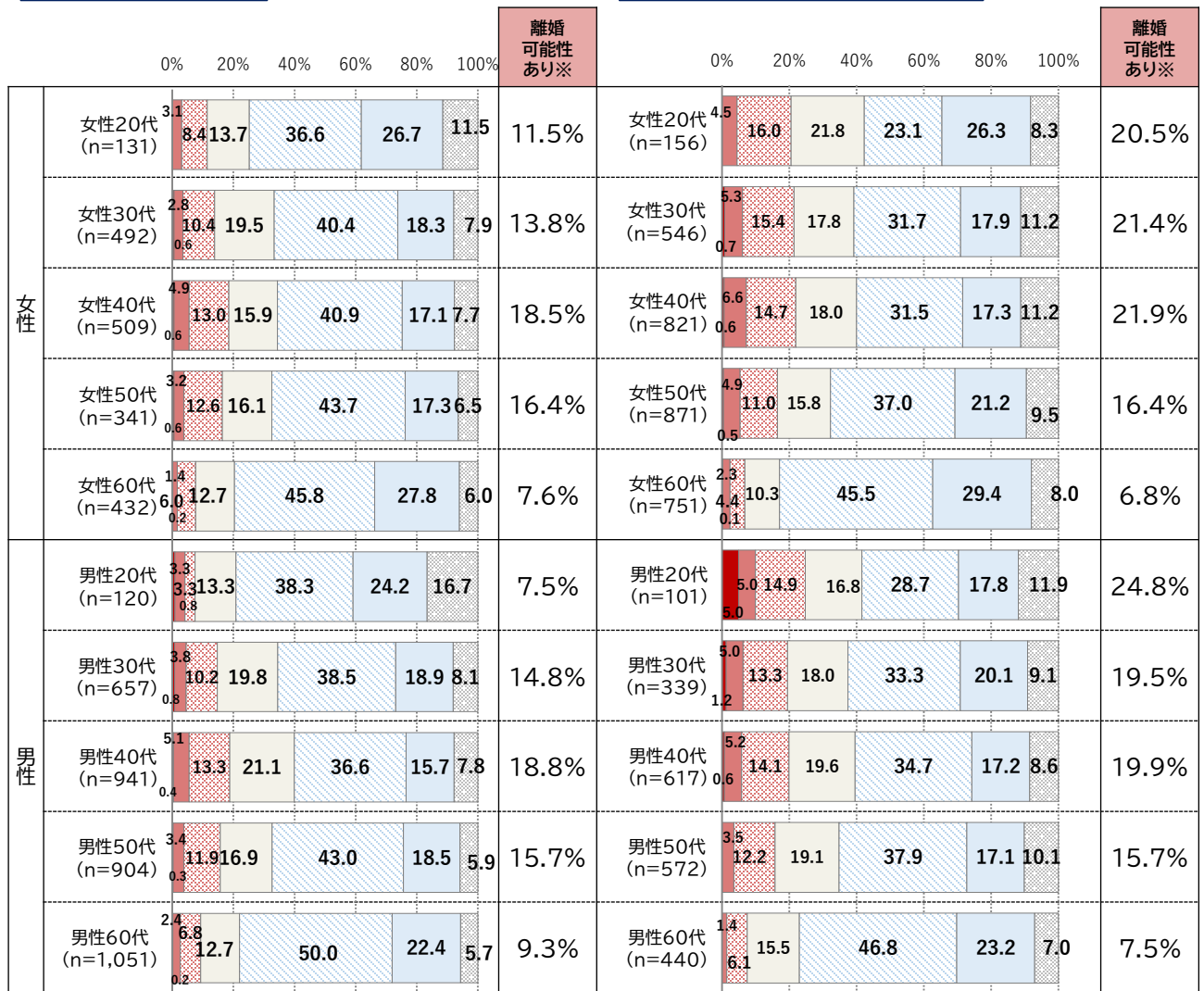
※対象者数が50人を超えるものを中心にコメントを記載

・学歴別に今後離婚する可能性を見てみると、20～30代での比較では、「大学・大学院卒」よりも「高校・中学校卒(専門学校含む)」で「離婚可能性あり」とする割合が高い傾向にあり、特に20代でその差が大きい。

【最終学歴別】

大学・大学院卒

高校・中学校卒(専門学校含む)



- 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- かなりありそうだと思う
- あるかもしれないと思う
- どちらとも言えない
- まあないと思う
- 絶対にないと思う
- わからない・考えられない

※離婚可能性あり…  
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+  
「現在、離婚準備中」の累計値



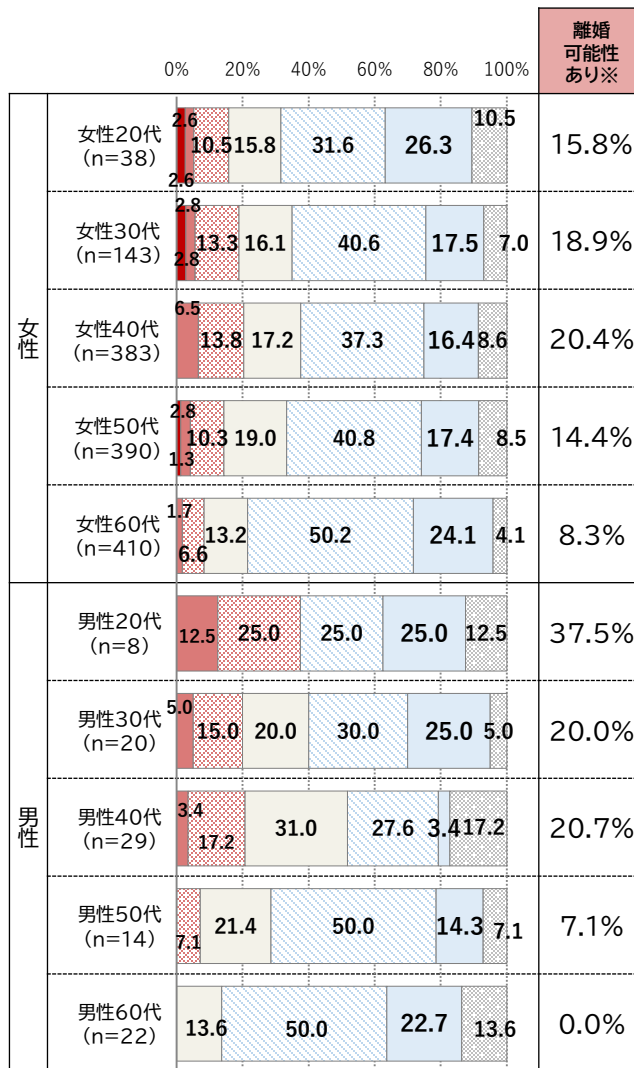
## (14) 今後離婚する可能性 ※現在結婚している人(事実婚含む)

※対象者数が50人を超えるものを中心にコメントを記載

・今後離婚する可能性を、「短大卒」とその他で比較すると、「離婚可能性あり」とした人が、女性30代では「大学・大学院卒」13.8%、「短大卒」18.9%、「高校・中学校卒(専門学校含む)」21.4%となった。

### 【最終学歴別】

#### 短大卒



- 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- かなりありそうだと思う
- ▨ あるかもしれないと思う
- どちらとも言えない
- まあないと思う
- 絶対がないと思う
- ▨ わからない・考えられない

※離婚可能性あり…  
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+  
「現在、離婚準備中」の累計値

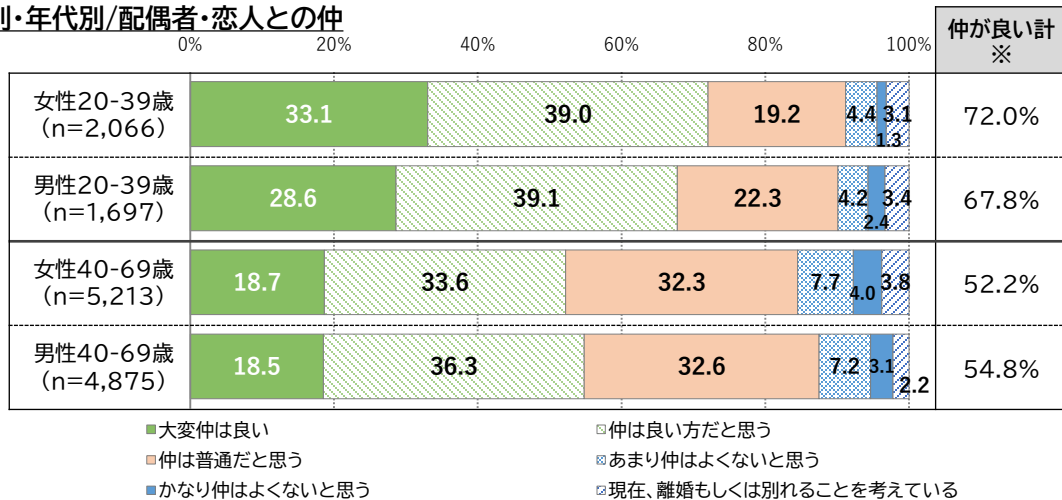
## (15) 配偶者・恋人との仲

・男女別・年代別に、配偶者・恋人との仲を見ると、男女ともに全ての年代で「仲は良い方だと思う」とした割合が最も高い。また、男女とも、40-69歳よりも20-39歳で、「仲が良い(「大変仲は良い」+「仲は良い方だと思う」)」とした割合が高かった。

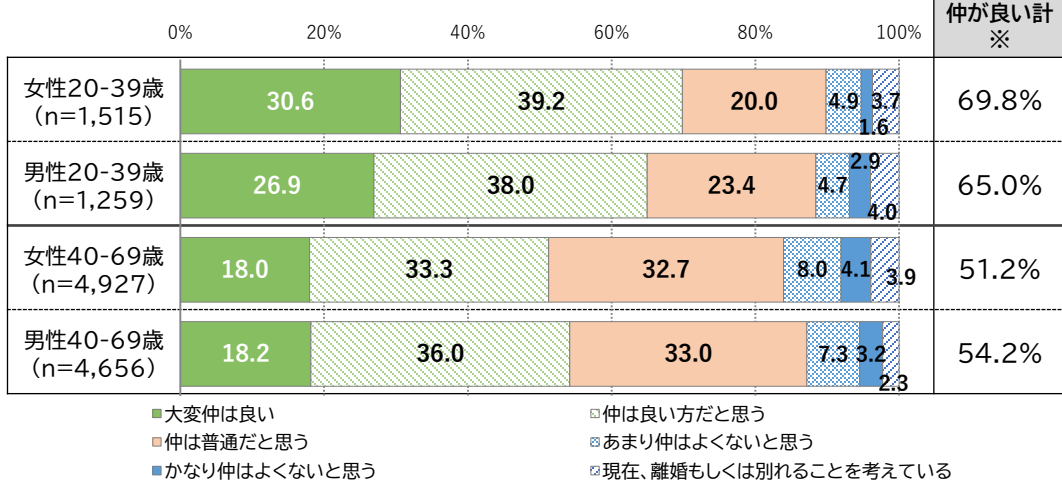
・既婚者の配偶者との仲と、独身者の恋人との仲を見てみると、男女ともに全ての年代で独身者の方が「仲が良い」とする割合が高い。特に、40-69歳の男女で、既婚者と独身者の差が大きかった。

### 男女別・年代別/配偶者・恋人との仲

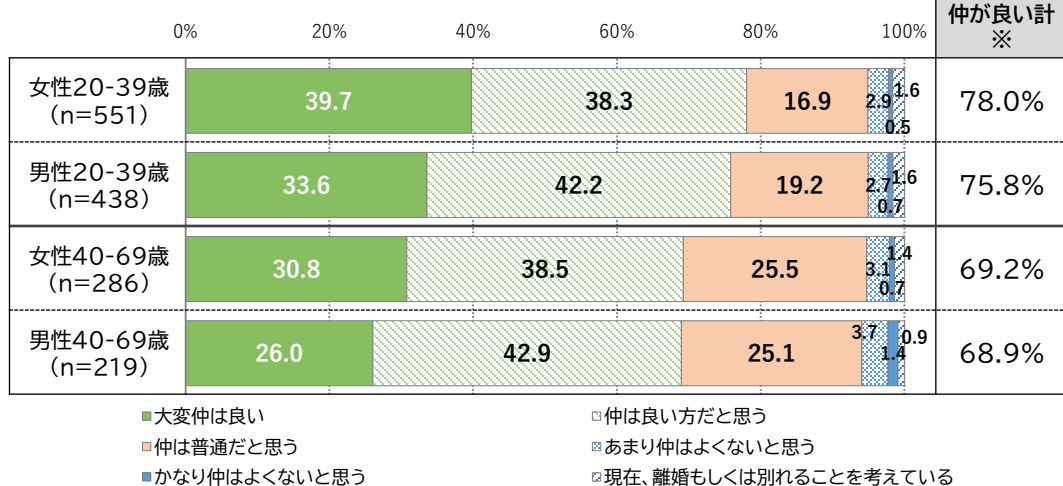
※「大変仲は良い」+「仲は良い方だと思う」の累計値



### 既婚者(事実婚含む)/配偶者との仲



### 独身者/恋人との仲

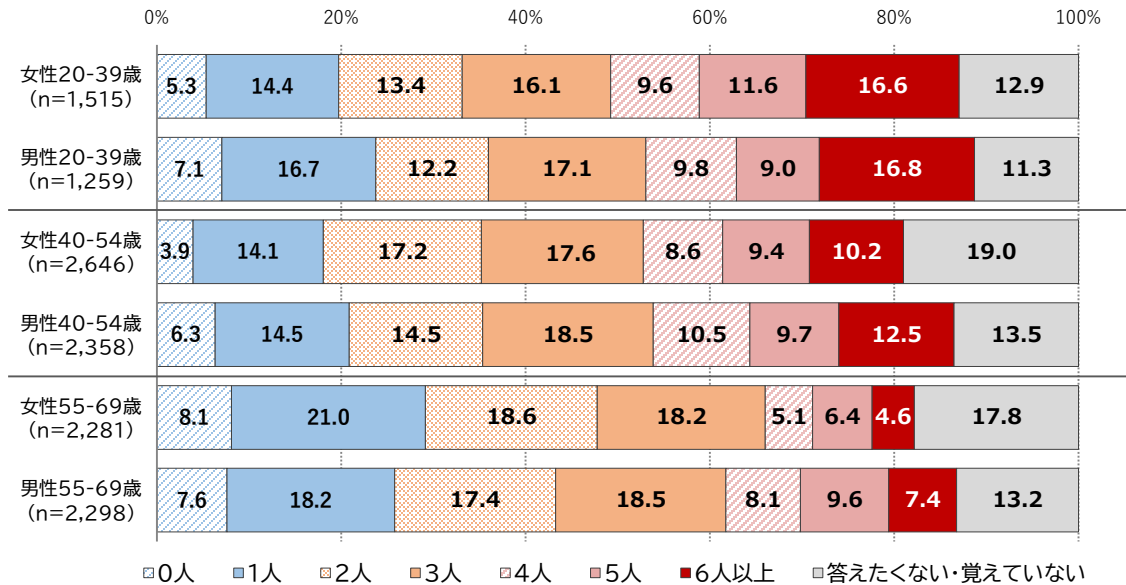


## (16) これまでの恋人の人数

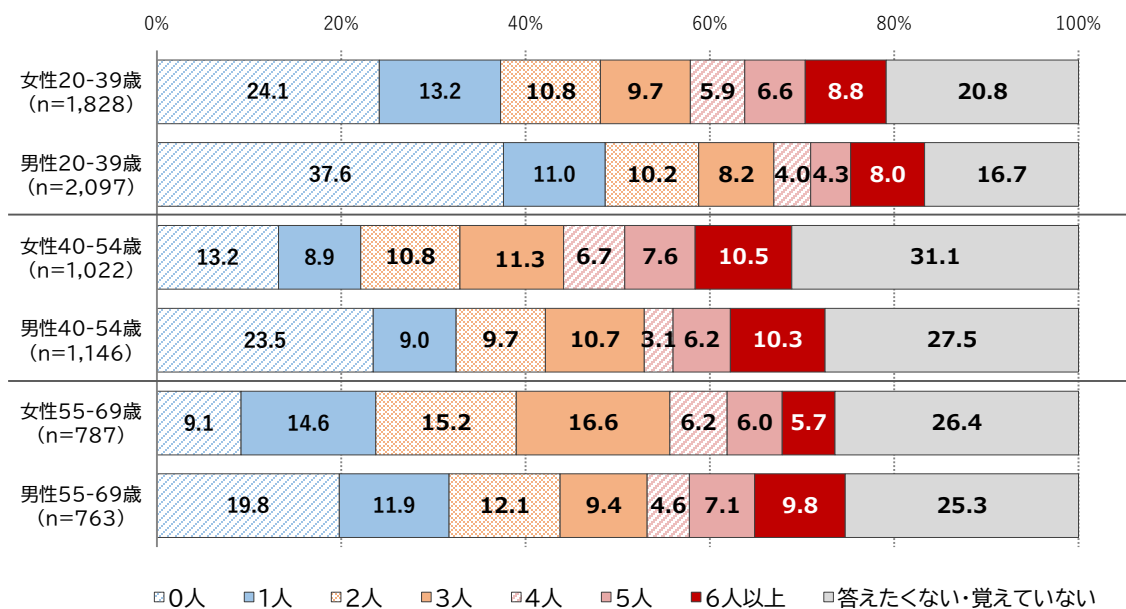
- ・既婚者のこれまでの恋人の人数を男女別・年代別で見ると、男女とも20-39歳では「6人以上」とした割合が17%弱と、上の年代に比べて高い。一方、「1人」とした割合は、男女とも55-69歳で最も高い。
- ・独身者のこれまでの恋人の人数を男女別・年代別で見ると、どの年代においても女性より男性の方で、「0人」とした割合が高い。中でも「0人」が最も高いのは「男性20-39歳」で37.6%となった。
- ・既婚者と独身者を比較すると、「6人以上」とした割合は、男女とも20-39歳では既婚者の方が高く、40-54歳ではどちらも10%強、55-69歳ではどちらも女性で5~6%、男性で7~10%となった。

### ①既婚

※中学卒業から最初の結婚まで、「恋人として交際」した人数（結婚相手含む）  
 ※但し結婚した人で「結婚相手が恋人ではない」とする人もいるため、既婚者で「0人」の場合もある



### ②独身



## (16) これまでの恋人の人数

### ①既婚

(%)

	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	12人	13人	14人	15人以上	答えた くない・ 覚えて いない
女性20-39歳 (n=1,515)	5.3	14.4	13.4	16.1	9.6	11.6	5.5	3.0	1.7	0.9	3.0	0.3	0.3	0.3	0.1	1.7	12.9
男性20-39歳 (n=1,259)	7.1	16.7	12.2	17.1	9.8	9.0	5.1	3.3	2.1	0.9	2.6	0.5	0.4	0.3	0.1	1.6	11.3
女性40-54歳 (n=2,646)	3.9	14.1	17.2	17.6	8.6	9.4	3.4	1.6	1.5	0.3	1.9	0.2	0.2	0.1	0.0	1.0	19.0
男性40-54歳 (n=2,358)	6.3	14.5	14.5	18.5	10.5	9.7	3.5	2.1	1.0	0.7	2.4	0.5	0.3	0.2	0.0	2.0	13.5
女性55-69歳 (n=2,281)	8.1	21.0	18.6	18.2	5.1	6.4	1.5	0.9	0.7	0.1	0.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	17.8
男性55-69歳 (n=2,298)	7.6	18.2	17.4	18.5	8.1	9.6	2.1	0.8	0.6	0.3	1.9	0.0	0.1	0.1	0.0	1.5	13.2

### ②独身

(%)

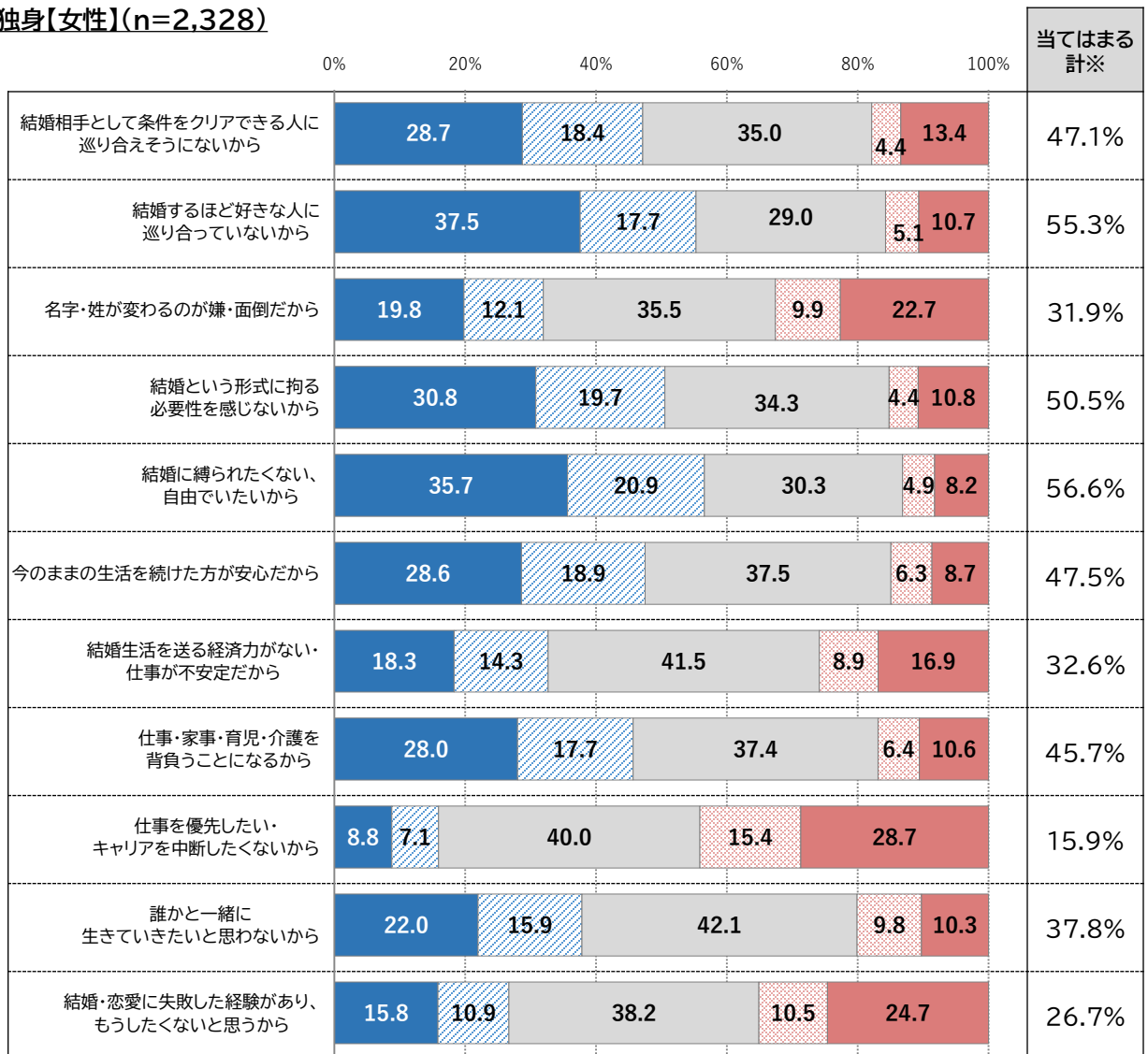
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	12人	13人	14人	15人以上	答えた くない・ 覚えて いない
女性20-39歳 (n=1,828)	24.1	13.2	10.8	9.7	5.9	6.6	2.8	1.9	1.0	0.6	1.4	0.4	0.2	0.1	0.1	0.4	20.8
男性20-39歳 (n=2,097)	37.6	11.0	10.2	8.2	4.0	4.3	2.6	1.7	1.3	0.3	1.2	0.3	0.1	0.0	0.0	0.5	16.7
女性40-54歳 (n=1,022)	13.2	8.9	10.8	11.3	6.7	7.6	2.0	1.7	2.1	0.5	2.3	0.4	0.1	0.2	0.0	1.4	31.1
男性40-54歳 (n=1,146)	23.5	9.0	9.7	10.7	3.1	6.2	2.5	1.8	1.3	0.3	1.7	0.0	0.1	0.0	0.0	2.5	27.5
女性55-69歳 (n=787)	9.1	14.6	15.2	16.6	6.2	6.0	1.4	1.0	0.5	0.3	1.3	0.0	0.1	0.0	0.0	1.1	26.4
男性55-69歳 (n=763)	19.8	11.9	12.1	9.4	4.6	7.1	1.3	1.0	1.0	0.4	2.5	0.3	0.7	0.0	0.0	2.6	25.3

## (17) 積極的には結婚したいと思わない理由

- ・独身の女性が積極的に結婚したいと思わない理由について、「当てはまる」とした割合が最も高いものは、「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」37.5%。次に「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」35.7%、「結婚という形式に拘る必要性を感じないから」30.8%。
- ・「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値で見ても、この3項目が5割を超えている。

※「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値

### 独身【女性】(n=2,328)



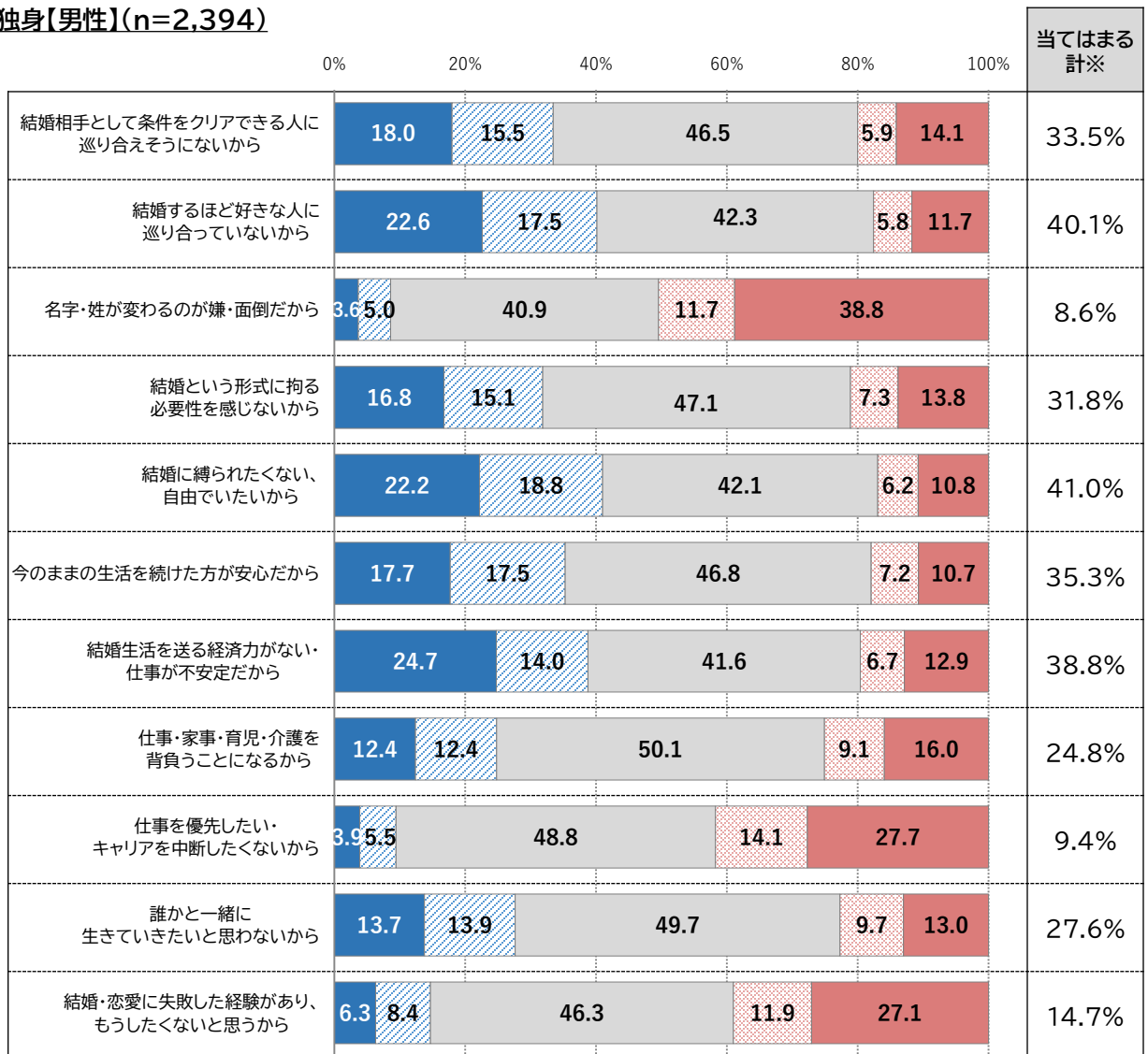
■ 当てはまる ■ やや当てはまる ■ どちらとも言えない ■ やや当てはまらない ■ 当てはまらない

## (17) 積極的には結婚したいと思わない理由

- ・独身の男性が積極的に結婚したいと思わない理由について、「当てはまる」とした割合が最も高いものは、「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」で24.7%。次に「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」22.6%、「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」22.2%。
- ・「当てはまる+やや当てはまる」の累計値で見ても、この3項目が高く、約4割となっている。

※「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値

### 独身【男性】(n=2,394)



■ 当てはまる ■ やや当てはまる ■ どちらとも言えない ■ やや当てはまらない ■ 当てはまらない

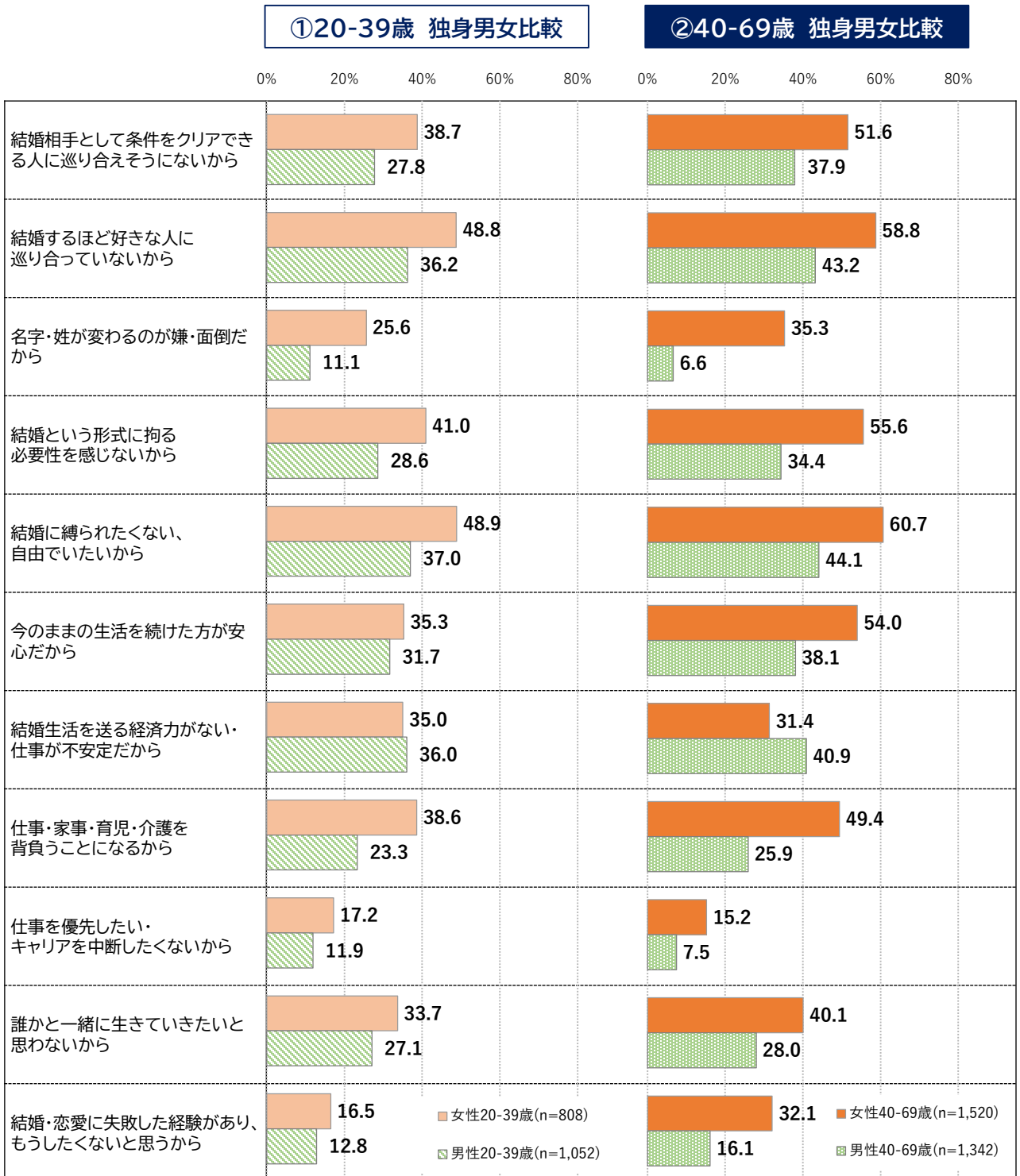
## (17) 積極的には結婚したいと思わない理由

・20-39歳、40-69歳の独身者について、男女ともに最も高い項目は「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」。

・20-39歳で見ると、全体的に女性の方が男性より割合が高い項目が多く、中でも「仕事・家事・育児・介護を背負うことになるから」(女性38.6%、男性23.3%)、「名字・姓が変わるのが嫌・面倒だから」(女性25.6%、男性11.1%)については、15%ポイント近く男女差がある。

・40-69歳でも、全体的に女性の方が男性より割合が高い項目が多い。中でも「名字・姓が変わるのが嫌・面倒だから」(女性35.3%、男性6.6%)は29%ポイントの差、「仕事・家事・育児・介護を背負うことになるから」(女性49.4%、男性25.9%)についても24%ポイント近く男女差があった。

**独身** (「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値を掲載)

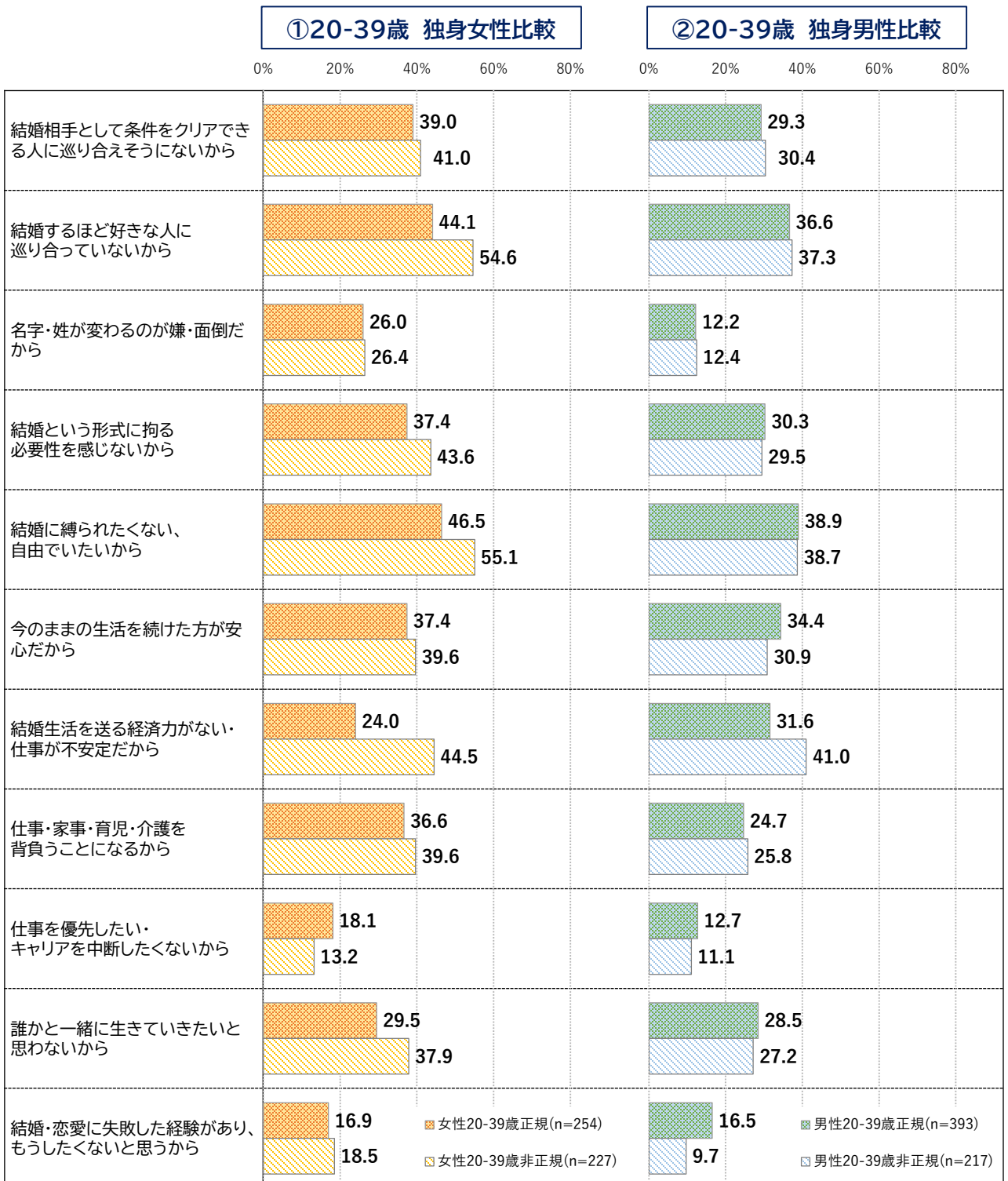


## (17) 積極的には結婚したいと思わない理由

・20-39歳の独身女性を雇用形態別で見ると、全体的に「非正規雇用」の方が割合が高い項目が多い。中でも「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」(正規24.0%、非正規44.5%)については20%ポイント以上の差がある。他、「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」も10%ポイント前後の差があった。

・20-39歳の独身男性を雇用形態別で見ると、「非正規雇用」で最も高い項目は、「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」41.0%となり、「正規雇用」31.6%と比べて、10%ポイント近い差がある。

正規・非正規別 (「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値を掲載)



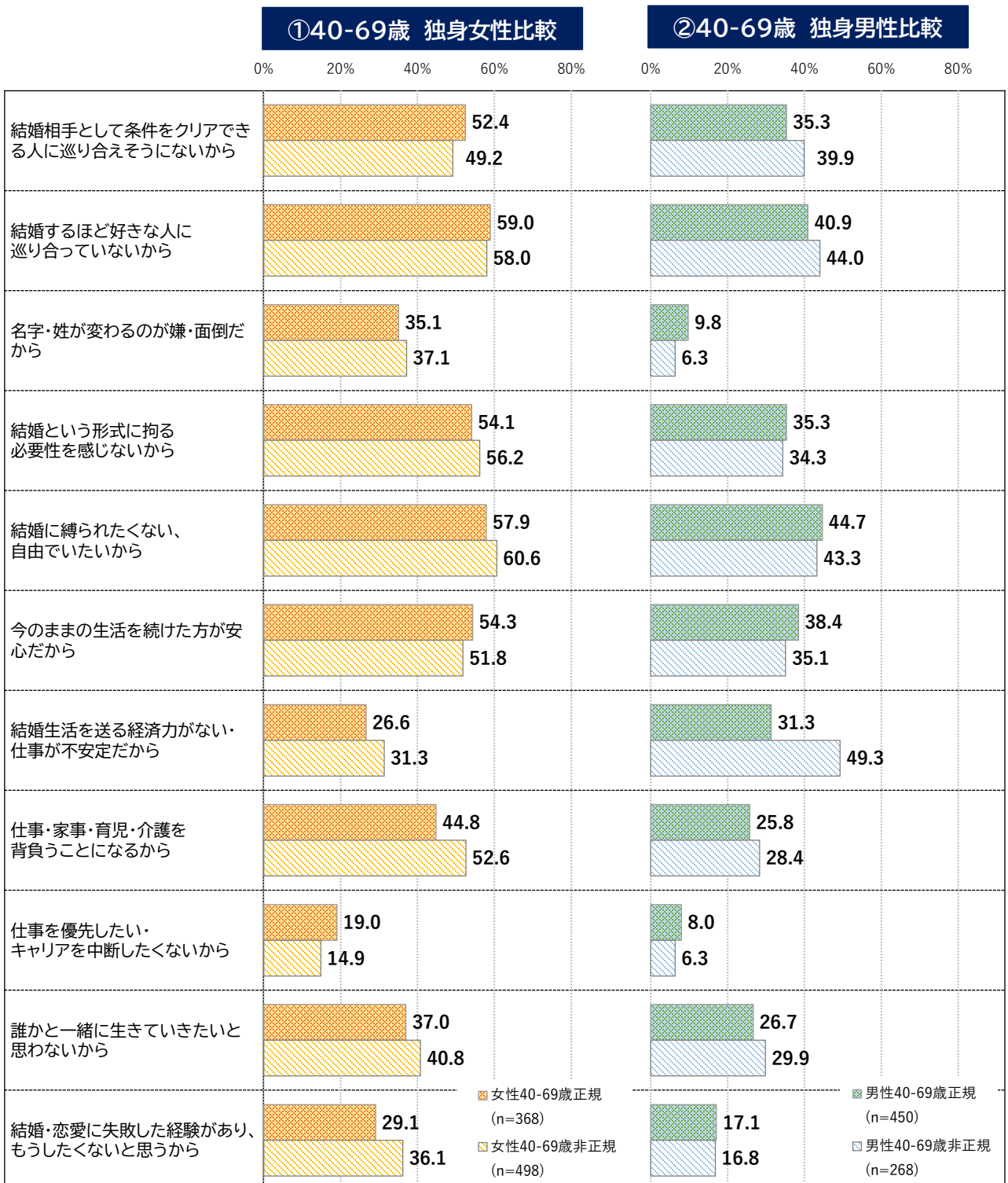


## (17) 積極的には結婚したいと思わない理由

・40-69歳の独身女性を雇用形態別で見ると、「正規雇用」・「非正規雇用」で差が見られるものは、「仕事・家事・育児・介護を背負うことになるから」で8%ポイントの差があった。

・40-69歳の独身男性を雇用形態別で見ると、「非正規雇用」で最も高い項目は、「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」49.3%となり、「正規雇用」31.3%と比べて、18%ポイントの差がある。

**正規・非正規別**（「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値を掲載）



## 調査結果まとめ

### ◆結婚意思・理想の子供数について

- 1 独身者(結婚経験なし)の「結婚意思あり」割合は、20代では女性65%、男性54%、30代では男女ともに46%。その後、50代では女性13%、男性27%と差が開く。
- 2 離婚・死別経験がある独身者の「結婚意思あり(再婚意思)」割合は、女性では未婚者と比べて全体的に低い。一方、男性は未婚者と比べて同程度かやや高くなっている。
- 3 子供がいない独身者の「理想の子供数」は、「0人」と「2人」に分かれる傾向。20代女性では「0人」24%/「2人」40%、30代女性では「0人」43%/「2人」24%。

- 独身者(結婚経験がない人)の今後の結婚意思については、20～30代では46～65%と男女ともに高い。40代になると男女とも32%～36%まで下がる。50代以降で男女差が大きくなり、女性50代13%に対して、男性50代では27%と倍以上。女性60代では8%、男性60代では22%と3倍近い。
- 離婚・死別経験がある独身者については、結婚経験がない独身者に比べて、女性では全年代で結婚意思(再婚意思)が下回る。一方男性では、どの年代でも結婚経験がない独身者に対して、ほぼ同じ割合～やや高くなっており、男性の方が再婚意思が高いことが窺える。
- 子供がいない独身者の「理想の子供の数」については、「0人(子供がいない)」は女性20代で24%、女性30代で43%。男性20代で31%、男性30代で38%。「1人以上(子供が欲しい)」とした回答の中では「2人」とした割合が最も高く、女性20代で40%、女性30代で24%、男性20代で32%、男性30代で27%。

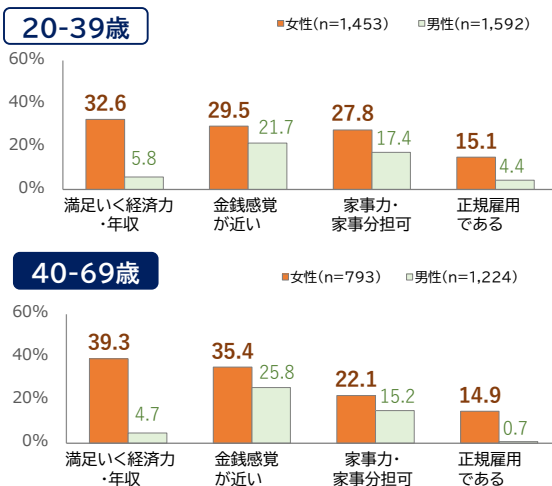
### ・独身者の今後の結婚願望 ※40%以上オレンジ、20%以上黄色掛け

対象者区分	今後「結婚意思あり」		
	女性	男性	
結婚経験なし	20代	64.6%	54.4%
	30代	46.4%	46.4%
	40代	31.7%	36.0%
	50代	13.0%	26.6%
結婚経験あり	60代	7.9%	22.0%
	20代	45.0%	66.7%
	30代	36.6%	54.3%
	40代	23.3%	39.1%
	50代	11.0%	29.0%
	60代	2.6%	23.7%

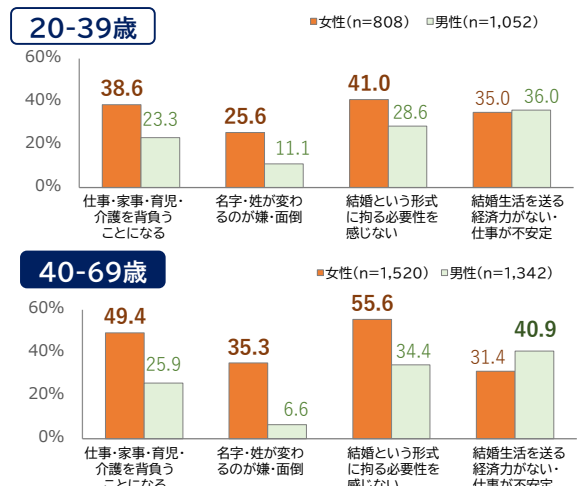
### ◆結婚したい理由・したくない理由

- 1 結婚相手に求めることは、「一緒にいて落ち着ける・楽しい」「近い価値観」が高い。また女性は、「満足いく経済力」「正規雇用」「家事力」「金銭感覚」をより男性に求める。
- 2 結婚した理由・したい理由は、「好きな人と一緒に生活したいから」が高い。加えて20-39歳女性は、男性に比べ「家族、子供を持ちたいから」も高い。
- 3 結婚したくない理由で男女差が大きいものは、「仕事・家事・育児・介護を背負うことになる」「名字が変わる」は女性が、「経済力がない」は40歳以上の男性で高い。

#### <独身者が結婚相手に求める要素> ※男女差がある選択肢を抜粋



#### <結婚したくない理由> ※男女差がある選択肢を抜粋



## 調査結果まとめ

### ◆ターニングポイントの年齢

- 理想の結婚年齢は、「**妻26歳／夫28歳**」。  
理想の第一子を持つ年齢は、2年後の「**妻28歳／夫30歳**」。
- 最初の結婚年齢(現実)は、「**妻27歳／夫29歳**」、第一子を持った年齢は、「**妻28歳／夫31歳**」。二回目の結婚年齢は、「**女性36歳／男性37歳**」。
- この年齢まで働きたいと思う理想は、「**女性54歳／男性62歳**」。配偶者にこの年齢まで働いて欲しいと思う理想は、「**妻には55歳まで**」「**夫には65歳まで**」働いて欲しい。

	理想の年齢		現実の年齢	
	女性	男性	女性	男性
最初に結婚する年齢	26.1歳	28.0歳	26.6歳	28.9歳
最初の結婚時の配偶者の年齢	28.3歳	26.2歳		
第一子を持つ年齢	27.8歳	29.9歳	28.0歳	30.7歳
二回目に結婚した時の年齢			35.7歳	36.6歳
自分が「この年齢までは働きたい」と思う年齢	53.8歳	62.0歳		
配偶者に「この年齢までは働いて欲しい」と思う年齢	64.9歳	55.3歳		

### ◆離婚を取り巻く状況

- 既婚者の過去離婚経験率は、男女ともに全年代で**1割未満**。  
既婚者の今後「離婚する可能性あり」とした割合は、**男女とも15%程度**。
- 「離婚可能性」が高い年代は、**男女とも40代で2割前後**。60代では1割未満。  
女性は30代までは、「**非正規雇用→主婦→正規雇用**」の順で離婚可能性が高い。
- 男女とも20-30代の若い層では、「**大学・大学院卒**」と「**高卒・中卒**」で比較すると、**「高卒・中卒」で離婚可能性が高い傾向**があった。

#### ・既婚者の今後の離婚可能性

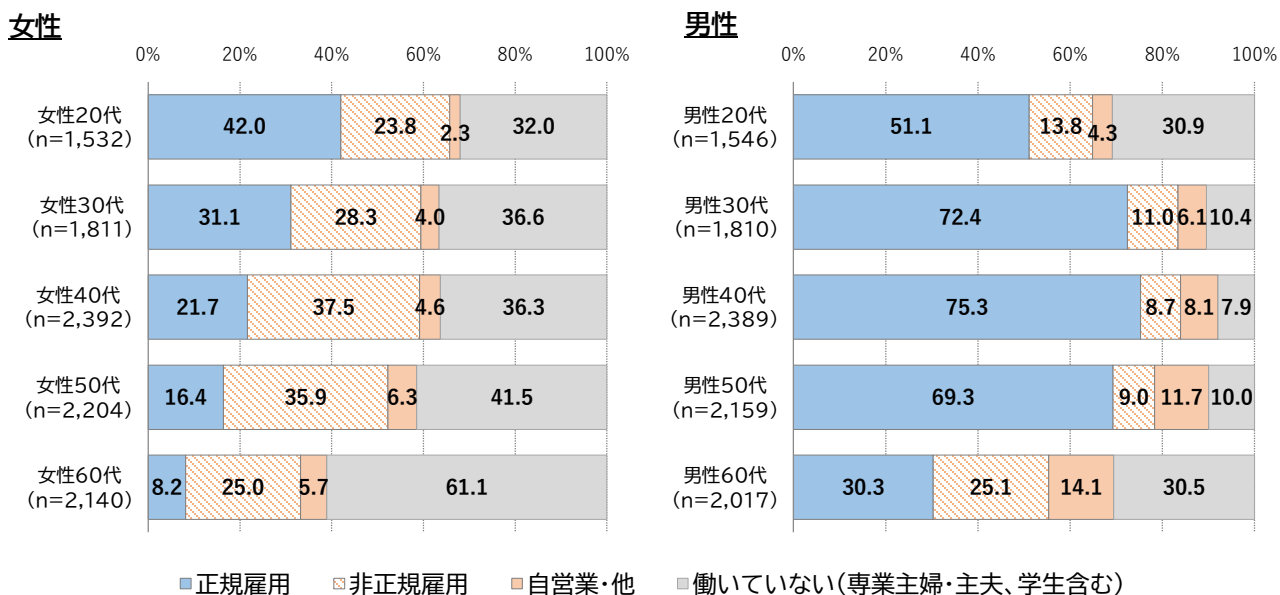
対象者区分	今後「離婚可能性あり」	
	女性	男性
全年代	<b>15.4%</b>	<b>14.9%</b>
20代	<b>16.6%</b>	<b>15.9%</b>
30代	<b>17.8%</b>	<b>16.4%</b>
40代	<b>20.5%</b>	<b>19.3%</b>
50代	<b>15.9%</b>	<b>15.5%</b>
60代	<b>7.4%</b>	<b>8.7%</b>

- 既婚者が「過去に離婚したことがある」割合は、どの年代でも4～9%程度。一方、今後離婚する可能性ありとした割合は、女性全体で15.4%、男性14.9%と同程度。年代別に見ると、女性40代で20.5%、男性40代で19.3%と最も高く、その後女性50代で15.9%、男性15.5%とやや下がり、女性60代で7.4%、男性60代でも8.7%と、男女とも60代になると1割未満に下がる。
- 離婚する可能性について、雇用形態別に見てみると、20代の女性については、非正規雇用23.7%／無職(主婦含む)15.1%／正規雇用12.5%、30代女性については非正規雇用20.7%／無職(主婦含む)18.1%／正規雇用15.1%と、「非正規雇用」が最も離婚意向が高く、その次に無職(主婦含む)、その次に正規雇用となった。
- 学歴別に離婚する可能性を見てみると、男女ともに20～30代は、大学・大学院卒では15%以下であるのに対し、高校・中学校卒では2割前後と、高校・中学校卒の方が離婚可能性が高い傾向が見られた。

### 3. 仕事を取り巻く状況

#### (1) 現職の就業状況

- ・現職の就業状況について、男女別・年代別に見ると、男性では「20代～50代」で「正規雇用」の割合が最も高く、「60代」では「非正規雇用」「働いていない」の割合が高まる。
- ・一方で、「女性」では、20代で「正規雇用」が最も高く、上の年代になるほどその割合は低くなり、「非正規雇用」の割合は25%～38%の間で推移。

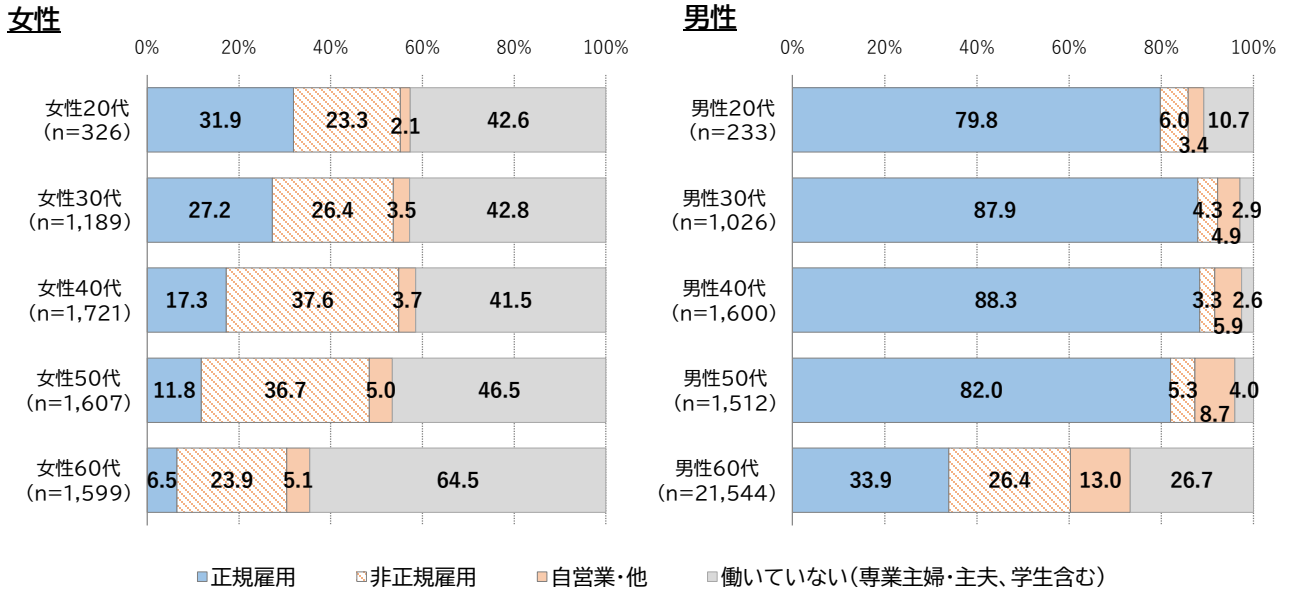


	正規雇用		非正規雇用					自営業・自由業・その他					働いていない		
	正規の会社員・職員・従業員	会社などの役員	パート・アルバイト	労働派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他の形で雇用されている	自営業・自由業(従業員がいる)	自営業・自由業(従業員がいない)	自家営業の手伝い(家族従業員)	家庭内の責任仕事(内職)	その他	主婦・主夫	学生	その他(働いていない)
女性20代 (n=1,532)	41.0	1.0	16.2	4.0	3.3	0.1	0.1	0.5	1.1	0.3	0.1	0.2	8.6	13.4	9.9
女性30代 (n=1,811)	30.6	0.6	21.3	3.0	3.0	0.4	0.4	0.3	2.1	0.5	0.9	0.3	26.8	0.5	9.2
女性40代 (n=2,392)	21.2	0.5	30.1	3.4	3.2	0.5	0.3	0.5	2.5	0.7	0.8	0.1	29.3	0.1	6.9
女性50代 (n=2,204)	16.2	0.2	28.9	2.9	3.6	0.2	0.2	0.7	3.3	1.4	0.7	0.2	34.5	0.0	6.9
女性60代 (n=2,140)	7.7	0.5	20.1	1.0	2.6	0.7	0.6	0.9	3.0	1.4	0.4	0.1	49.1	0.0	12.0
男性20代 (n=1,546)	50.6	0.5	9.6	1.4	2.1	0.3	0.5	0.6	2.7	0.6	0.1	0.2	0.1	20.6	10.2
男性30代 (n=1,810)	71.9	0.6	6.4	2.0	1.9	0.5	0.2	1.1	3.9	0.7	0.2	0.2	0.3	0.2	9.9
男性40代 (n=2,389)	73.5	1.8	4.7	1.5	2.1	0.1	0.1	1.9	5.1	0.7	0.2	0.2	0.6	0.1	7.2
男性50代 (n=2,159)	66.2	3.1	3.7	1.8	3.0	0.3	0.2	2.5	8.6	0.2	0.2	0.1	1.3	0.0	8.7
男性60代 (n=2,017)	25.6	4.7	8.4	1.2	9.8	5.1	0.5	2.7	10.8	0.2	0.0	0.3	2.1	0.0	28.5

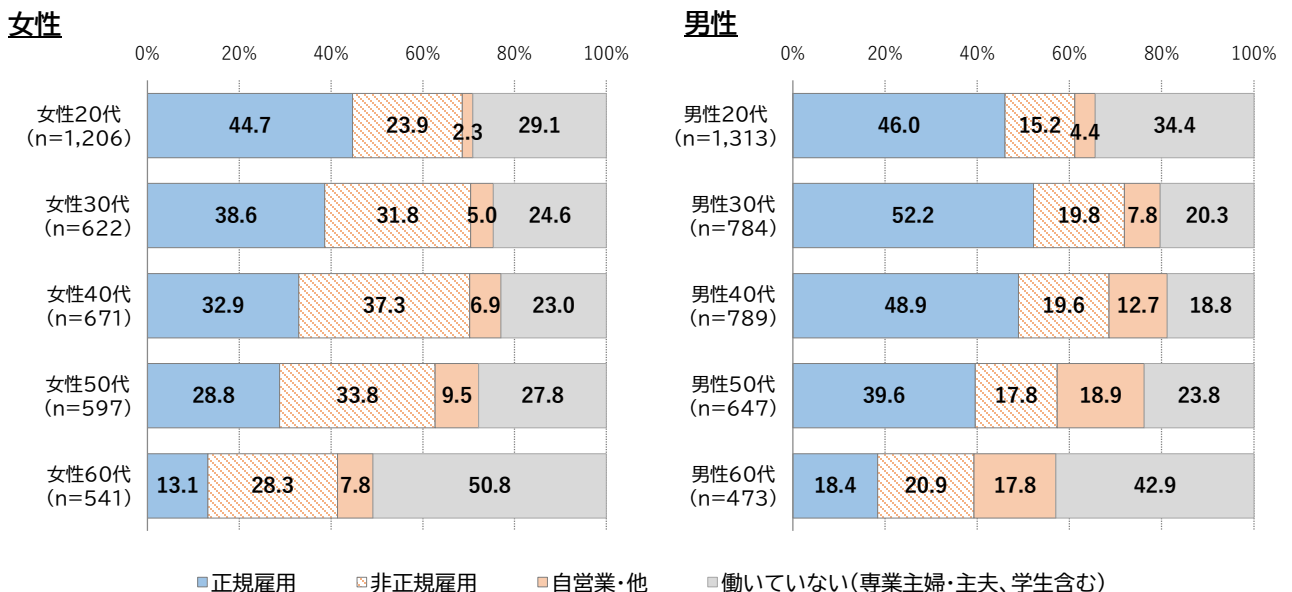
## (1) 現職の就業状況

- ・配偶者の有無別に就業状況を見たところ、女性は「有配偶」と比べ「独身」で年代に関わらず「正規雇用」の割合が高く、特に20代の「独身」で44.7%（20代の「有配偶」は31.9%）。
- ・反対に男性では「有配偶」で「正規雇用」の割合が高く、20～50代の「有配偶」で8割前後であるのに対し、「独身」では、4～5割前後。

### 有配偶(事実婚含む)



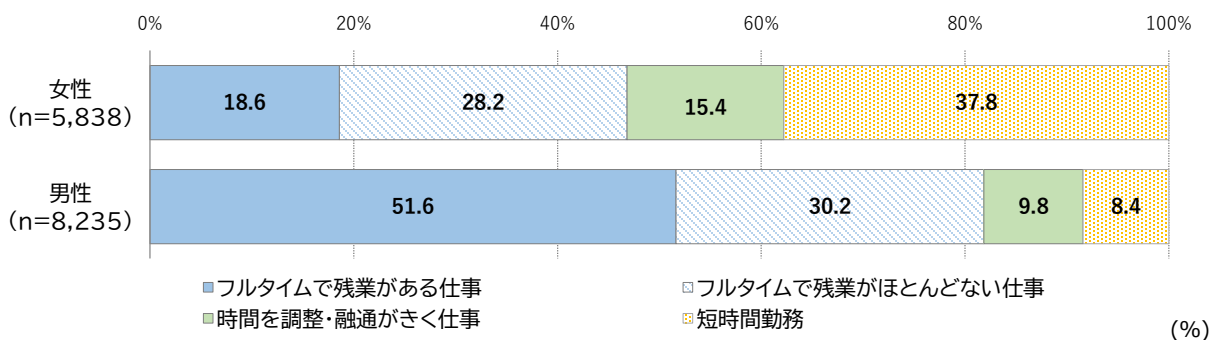
### 独身



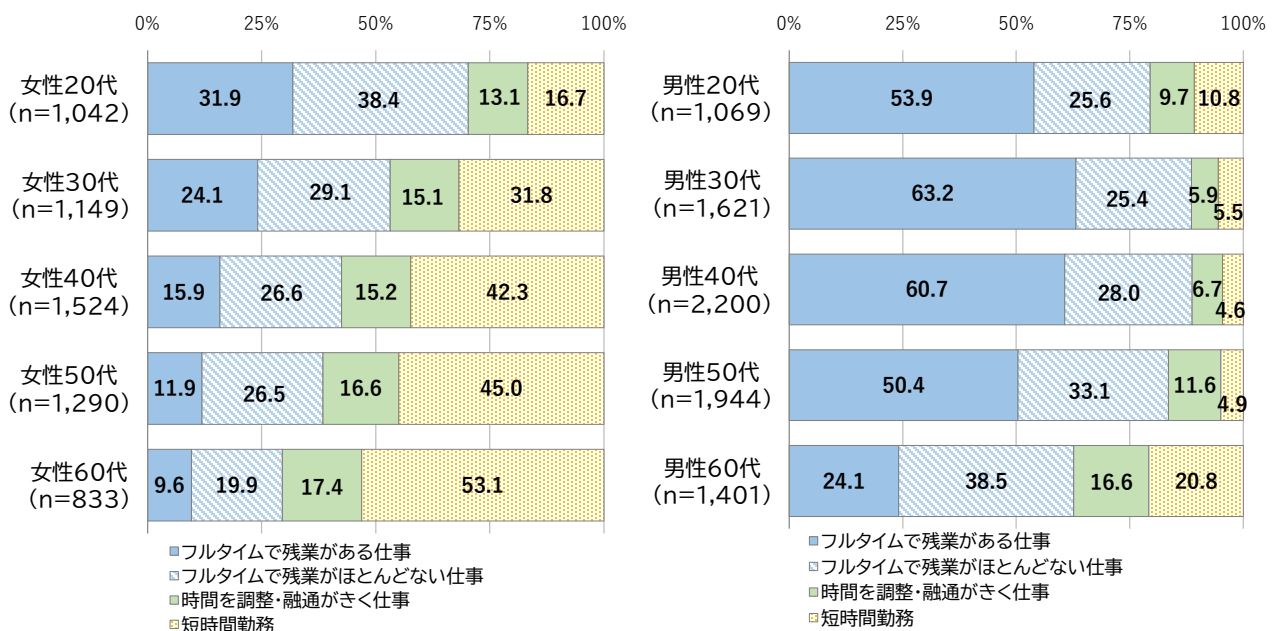
## (2) 現職の勤務形態

- ・現在働いている人を対象に、現職の勤務形態を尋ねたところ、女性では「短時間勤務」が最も高く37.8%、次いで「フルタイムで残業がほとんどない仕事」が28.2%。一方で、男性では「フルタイムで残業がある仕事」が最も高く、51.6%と半数を超える。
- ・年代別に見ると、女性は前項の就業状況と同様に「正規雇用」の比率が高い「20代」ほど「フルタイムで残業がある仕事」の割合が高く、年代が上がるにつれ、その割合は減少する。男性も同様に、「60代」を除いて「フルタイムで残業がある仕事」の割合が高く、「30～40代」で6割を超え、最も高い。
- ・フルタイムでの「残業がある仕事」「残業がほとんどない仕事」の比率を見ると、女性は、「正規雇用」割合が比較的高い「20代」でも前者31.9%、後者38.4%（男性「20代」は前者53.9%、後者25.6%）。30代より上の年代になると、フルタイムにおける「残業がある仕事」の割合は、男女間で倍以上違う。

※残業がある仕事…残業が月10時間以上  
※残業がほとんどない仕事…残業が月9時間以下



	フルタイム				時間を調整・融通がきく仕事		短時間勤務		
	残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事	残業が多い(月25時間～45時間残業)仕事	残業がある程度ある(月10時間～24時間残業)仕事	残業がほとんどない(月9時間以下残業)仕事	週64時間を超える仕事	週64時間以下の仕事	週30時間以上40時間未満	週20時間以上30時間未満	週20時間未満
全体 (n=14,073)	12.2	9.4	16.4	29.4	3.6	8.5	6.0	7.2	7.4
女性 (n=5,838)	5.1	4.0	9.4	28.2	4.4	11.0	9.7	14.0	14.1
男性 (n=8,235)	17.1	13.2	21.3	30.2	3.0	6.7	3.3	2.5	2.6



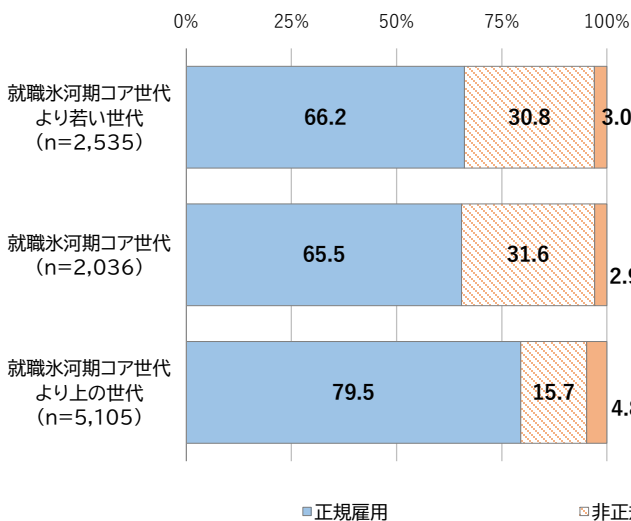
### (3) 初職をめぐる状況 雇用形態(最終学歴後に働いていた人が対象)

- ・最終学歴後に働いていた人を対象に、「就職氷河期コア世代」とそれより若い世代、上の世代に区分した(定義は下記参照)ところ、男女ともに「就職氷河期コア世代より上の世代」で「正規雇用」の割合が最も高く、女性で79.5%、男性で88.0%。
- ・「就職氷河期コア世代」「コア世代より若い世代」ではどちらも大きな差は見られず、「非正規雇用」は女性で3割超、男性で2割弱。

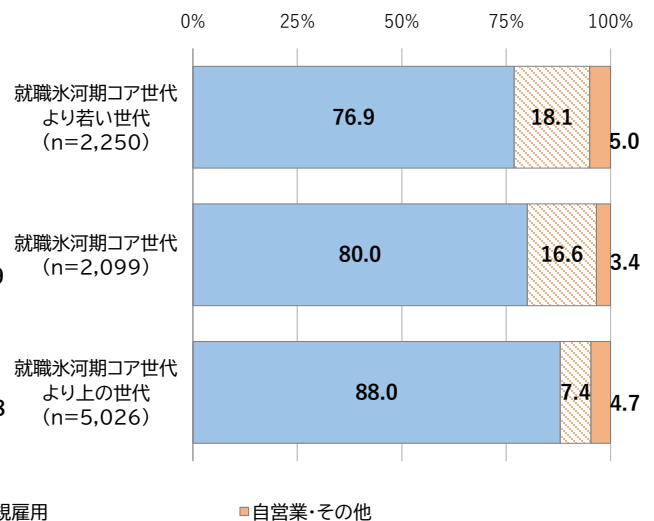
#### 【定義】

- ・「就職氷河期コア世代」1975年～1984年生まれ＝2021年調査時点37歳～46歳で定義
- ・「就職氷河期コア世代より若い世代」1985年生まれ以降＝2021年調査時点20歳～36歳で定義
- ・「就職氷河期コア世代より上の世代」1974年生まれより前＝2021年調査時点47歳～69歳で定義

#### 女性



#### 男性



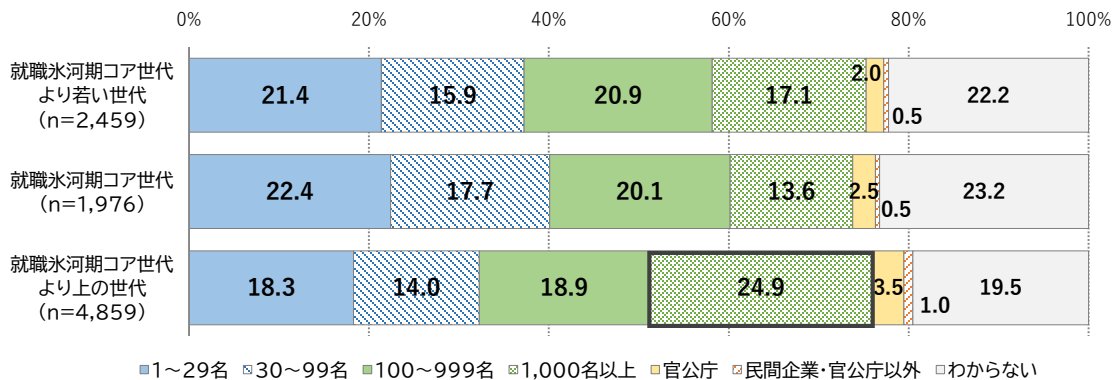
(%)

		正規雇用		非正規雇用					自営業・自由業・その他				
		正規の会社員・職員・従業員	会社などの役員	パート・アルバイト	労働派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他の形で雇用されている	自営業・自由業(従業員がいる)	自営業・自由業(従業員がいない)	自家営業の手伝い(家族従業員)	家庭内の賃仕事(内職)	その他
女性	若い世代 (n=2,535)	65.3	0.9	23.2	2.8	3.4	0.8	0.7	0.2	0.7	0.4	1.1	0.5
	コア世代 (n=2,036)	65.1	0.4	22.2	2.9	4.7	0.8	0.9	0.2	0.7	0.4	0.9	0.8
	上の世代 (n=5,105)	79.2	0.3	11.7	0.7	2.3	0.4	0.7	0.6	1.3	1.1	0.8	1.1
男性	若い世代 (n=2,250)	76.3	0.7	12.2	2.0	2.7	0.5	0.8	0.7	2.1	0.7	0.9	0.6
	コア世代 (n=2,099)	79.4	0.6	11.8	1.8	2.4	0.3	0.3	0.6	1.3	0.7	0.6	0.2
	上の世代 (n=5,026)	86.8	1.2	4.3	0.5	1.4	0.4	0.7	0.9	2.2	0.8	0.3	0.5

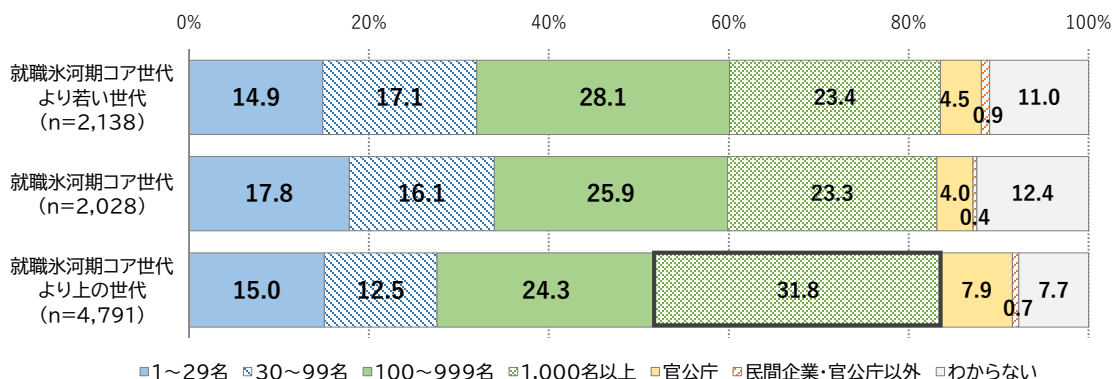
#### (4) 初職をめぐる状況 最終学歴後について仕事の勤め先の企業規模

・最終学歴後の初職で雇用されていると回答した人に対し、勤め先の企業規模について尋ねた。  
 ・男女ともに「就職氷河期コア世代より上の世代」では「1,000名以上」の割合が最も高い。一方で、「就職氷河期コア世代」と「コア世代より若い世代」では男女ともに大きな差は見られない。

##### 女性



##### 男性



※本社、支店、工場なども含めた従業員総数、パート等も含む。

(%)

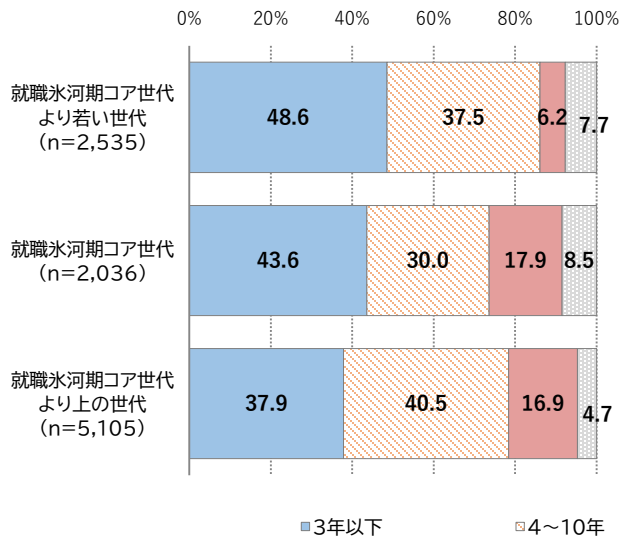
		1~29名		30~99名		100~999名		1,000名以上	官公庁	民間企業・官公庁以外	わからない
		1~4名	5~29名	30~49名	50~99名	100~299名	300~999名				
女性	若い世代 (n=2,459)	3.1	18.3	7.1	8.8	11.0	9.9	17.1	2.0	0.5	22.2
	コア世代 (n=1,976)	4.2	18.2	8.2	9.4	11.4	8.7	13.6	2.5	0.5	23.2
	上の世代 (n=4,859)	3.7	14.6	6.0	7.9	10.2	8.7	24.9	3.5	1.0	19.5
男性	若い世代 (n=2,138)	2.9	12.0	7.4	9.7	14.8	13.3	23.4	4.5	0.9	11.0
	コア世代 (n=2,028)	2.9	14.9	7.4	8.7	14.4	11.5	23.3	4.0	0.4	12.4
	上の世代 (n=4,791)	3.2	11.9	5.0	7.5	12.9	11.4	31.8	7.9	0.7	7.7



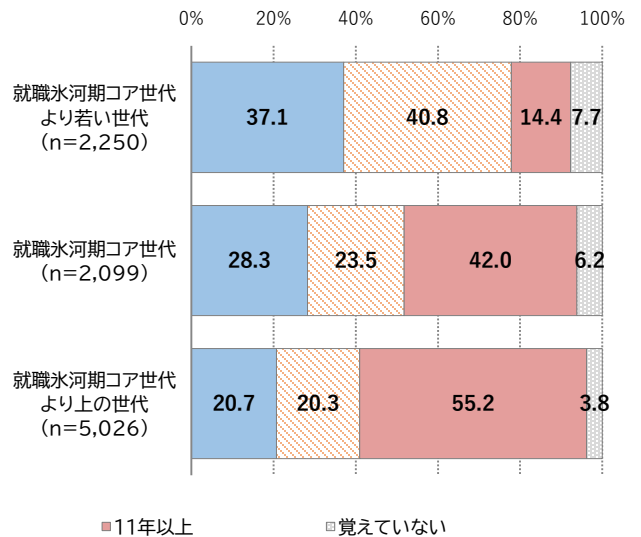
## (5) 初職をめぐる状況 最終学歴後について仕事の勤続年数

- ・初職の勤続年数について、「就職氷河期コア世代」と「コア世代より上の世代」とを比較したところ、男女ともに「コア世代」で「3年以下」の割合が高く、特に男性でその差は大きい。
- ・また、男性では女性に比べ「11年以上」の割合が高いものの、「コア世代」よりも「コア世代より上の世代」の方が、「11年以上」の割合は高い。

### 女性



### 男性



		3年以下		4~10年		11年以上			覚えていない
		1年未満	1~3年	4~5年	6~10年	11~15年	16~20年	21年以上	
女性	若い世代 (n=2,535)	15.6	32.9	17.9	19.6	5.8	0.2	0.2	7.7
	コア世代 (n=2,036)	12.7	30.9	14.5	15.5	7.6	5.7	4.6	8.5
	上の世代 (n=5,105)	6.9	31.0	21.0	19.5	5.1	2.7	9.1	4.7
男性	若い世代 (n=2,250)	11.3	25.7	16.6	24.2	12.8	1.6	0.1	7.7
	コア世代 (n=2,099)	9.1	19.2	10.9	12.6	13.2	15.0	13.8	6.2
	上の世代 (n=5,026)	6.0	14.7	9.0	11.3	5.7	4.1	45.4	3.8

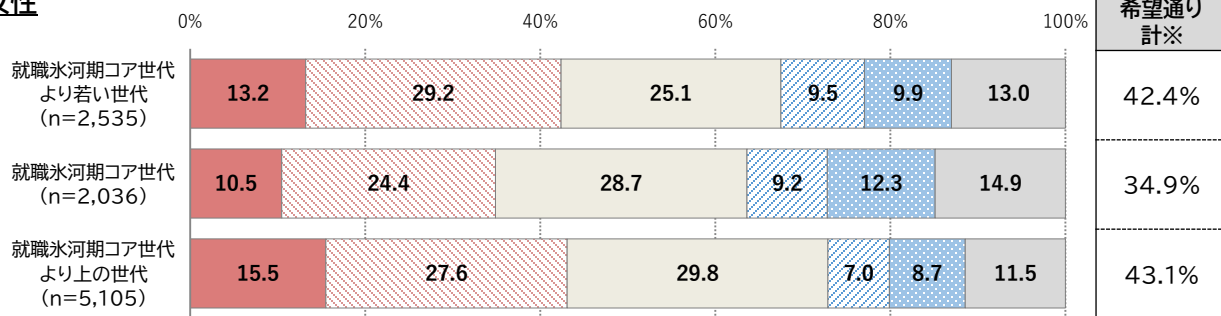
## (6) 初職をめぐる状況 最終学歴後についての仕事の希望度・働いてみての魅力度

- ・初職の就職前に感じていた仕事に対する希望度について、女性では、「希望通り」とした割合は、「就職氷河期コア世代」で34.9%。一方、その他の世代では4割を超える。同様に男性でも、「就職氷河期コア世代」は「希望通り」と回答した割合は32.5%と、他世代と比べ低い。
- ・実際に働いてみての魅力度についても、希望度と同様の傾向であり、男女ともに「就職氷河期コア世代」は「魅力的」と回答した割合が低くなっている。

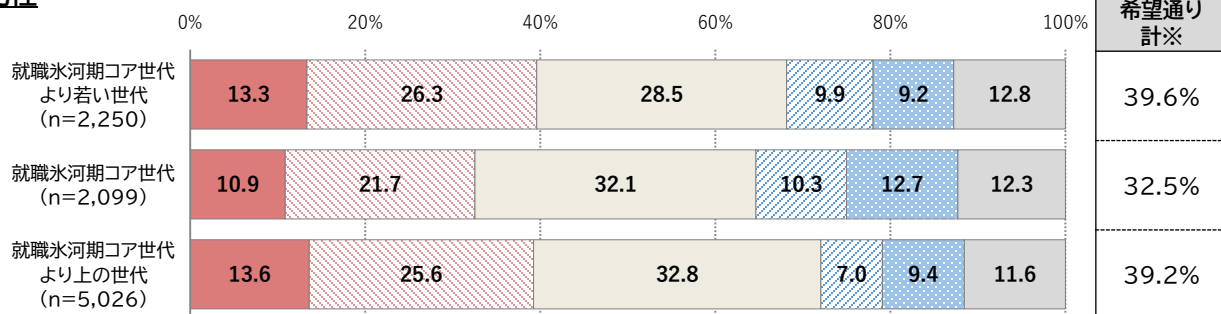
### 【就職前に感じていた仕事に対する希望度】

※「希望通り」+「やや希望通り」の累計値

#### 女性



#### 男性

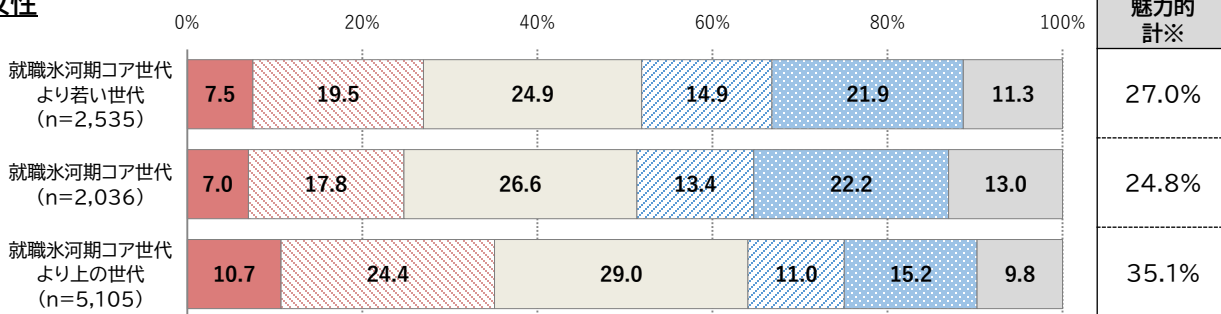


■希望通り □やや希望通り □どちらとも言えない □やや希望通りでない ■希望通りでない □覚えていない

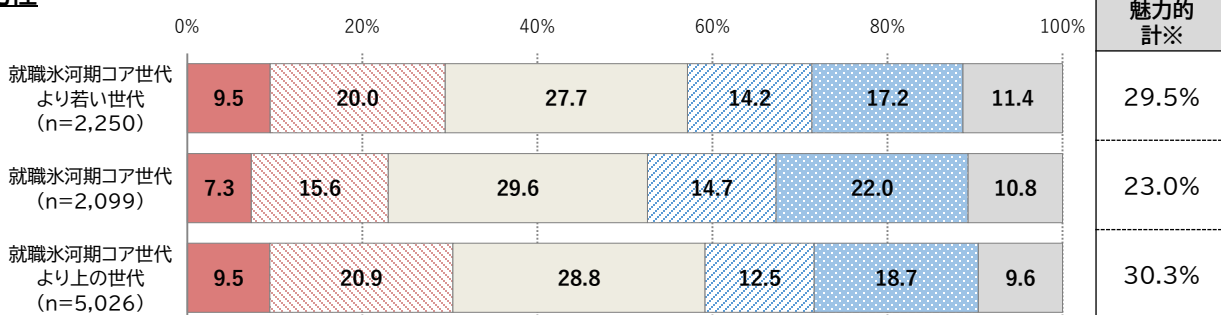
### 【実際に働いてみての魅力度】

※「魅力的」+「やや魅力的」の累計値

#### 女性



#### 男性



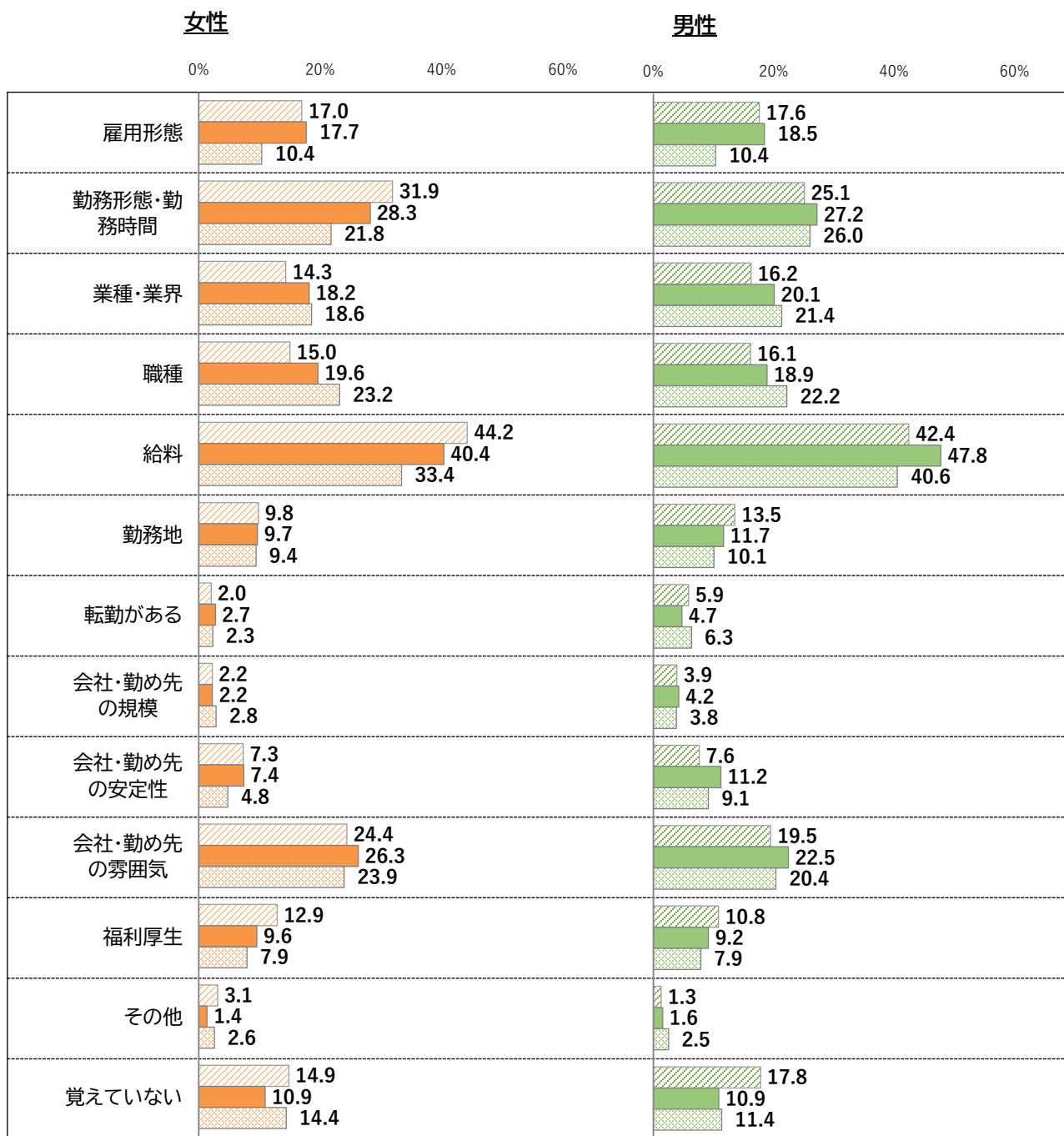
■魅力的 □やや魅力的 □どちらとも言えない □やや魅力的でない ■魅力的でない □覚えていない

## (7) 初職をめぐる状況 最終学歴後についての仕事で希望通りではなかった点

・初職が「希望通りでなかった～どちらとも言えない」と回答した人に対し、希望通りではなかった点を尋ねた。男女ともに、どの世代でも共通して「給料」が最も高く、その他では「会社・勤め先の雰囲気」「勤務形態・勤務時間」が高い。

・女性では、「給料」「勤務形態・勤務時間帯」「福利厚生」などの項目で、「就職氷河期コア世代より若い世代」が最も高い。一方で、男性では、「就職氷河期コア世代」が最も高い項目が多くなっており、「給料」は女性と比べ男性で、「コア世代」と「他世代(前後)」との差が大きい。

※最終学歴後についての仕事の就職前の希望度について、「希望通りでない～どちらとも言えない」と回答した人が対象



▨ 就職氷河期コア世代より若い世代(n=1,131)  
▨ 就職氷河期コア世代(n=1,023)  
▨ 就職氷河期コア世代より上の世代(n=2,322)

▨ 就職氷河期コア世代より若い世代(n=1,072)  
▨ 就職氷河期コア世代(n=1,158)  
▨ 就職氷河期コア世代より上の世代(n=2,473)

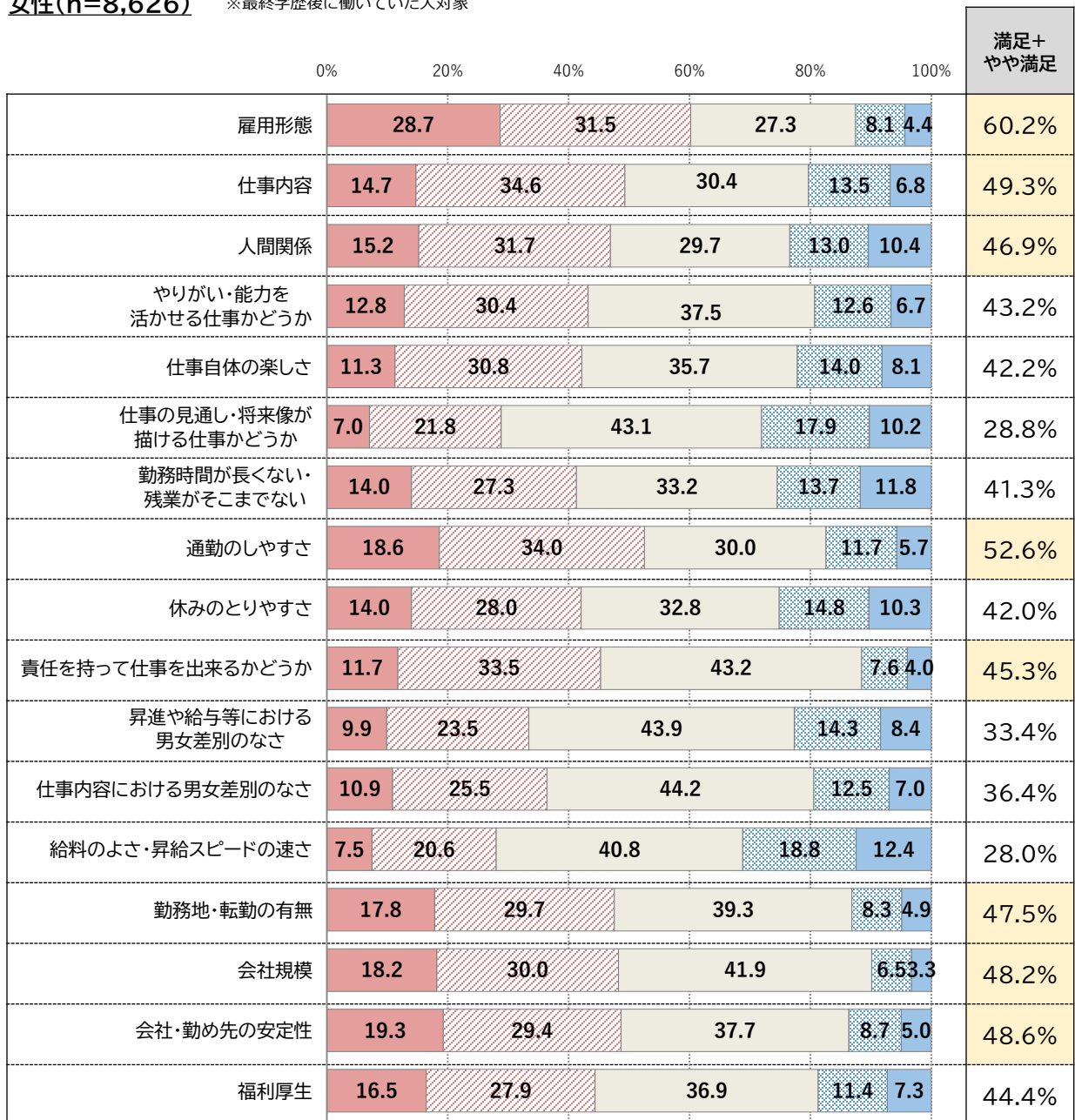
## (8) 初職をめぐる状況 最終学歴後について仕事の満足度

- ・初職の仕事の満足度について、女性では「雇用形態」「通勤のしやすさ」で「満足+やや満足」の値が5割を超え、高い。
- ・一方で、満足度が低いのは、「給料のよさ・昇給スピードの速さ」が28.0%、「仕事の見通し・将来像が描ける仕事かどうか」が28.8%。

女性(n=8,626)

※最終学歴後に働いていた人対象

※45%を超える項目に色掛け



■ 満足    ▨ やや満足    □ どちらとも言えない    ▨ やや不満    ■ 不満

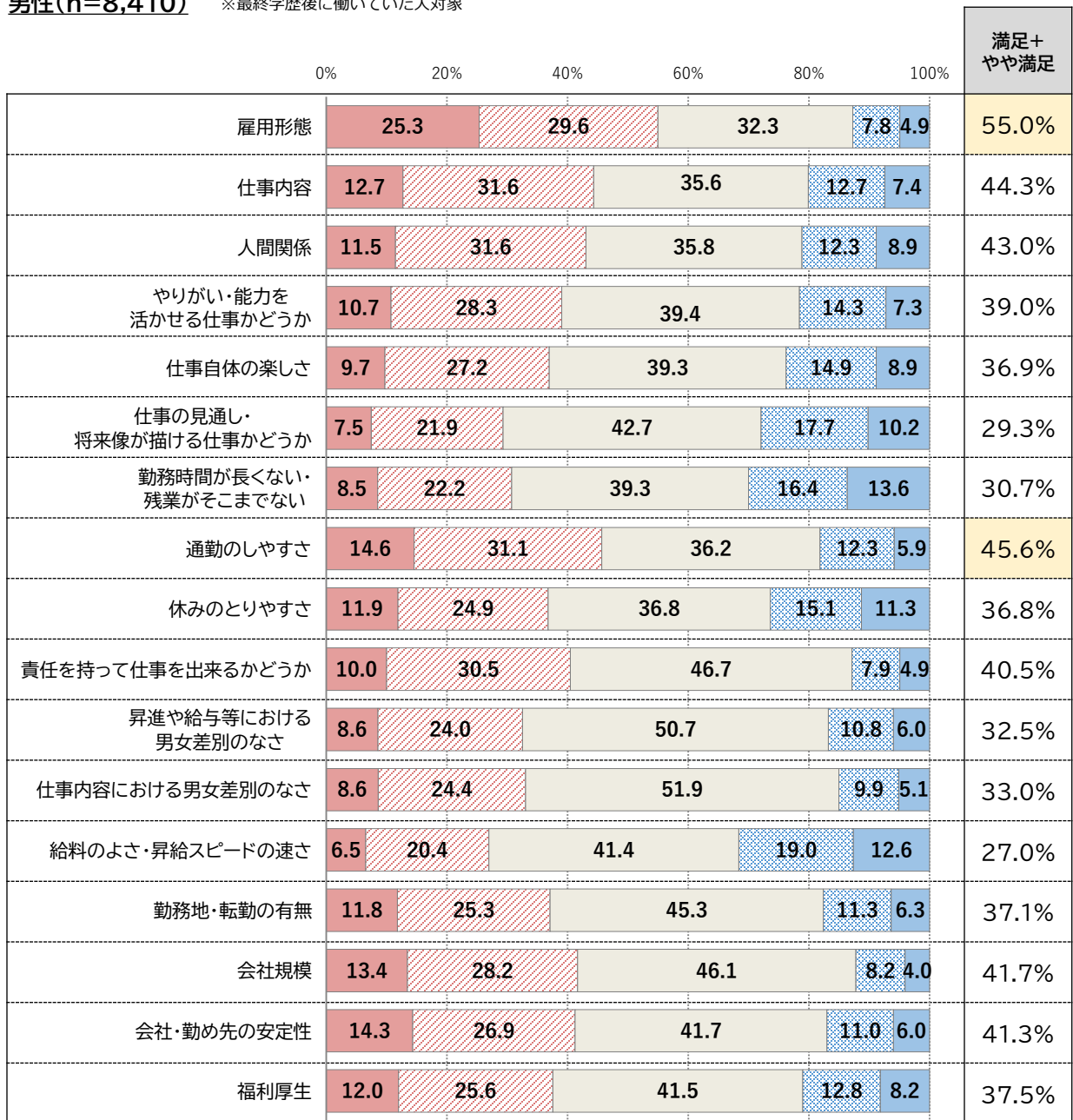
## (8) 初職をめぐる状況 最終学歴後について仕事の満足度

- ・男性では、女性と同様「雇用形態」が最も高い項目であるが、前項の女性の値と比べると、男性は「満足+やや満足」の値が4割を下回る項目が多く、全体的に満足度は低い傾向。
- ・特に満足度が低いのは、「給料のよさ・昇給スピードの速さ」27.0%、「仕事の見通し・将来像が描ける仕事かどうか」29.3%と、3割を下回る。
- ・男女で差が見られるのは、「勤務時間が長くない・残業がそこまでない」「勤務地・転勤の有無」で、10%ポイント以上男性の満足度が下回る。

### 男性(n=8,410)

※最終学歴後に働いていた人対象

※45%を超える項目に色掛け



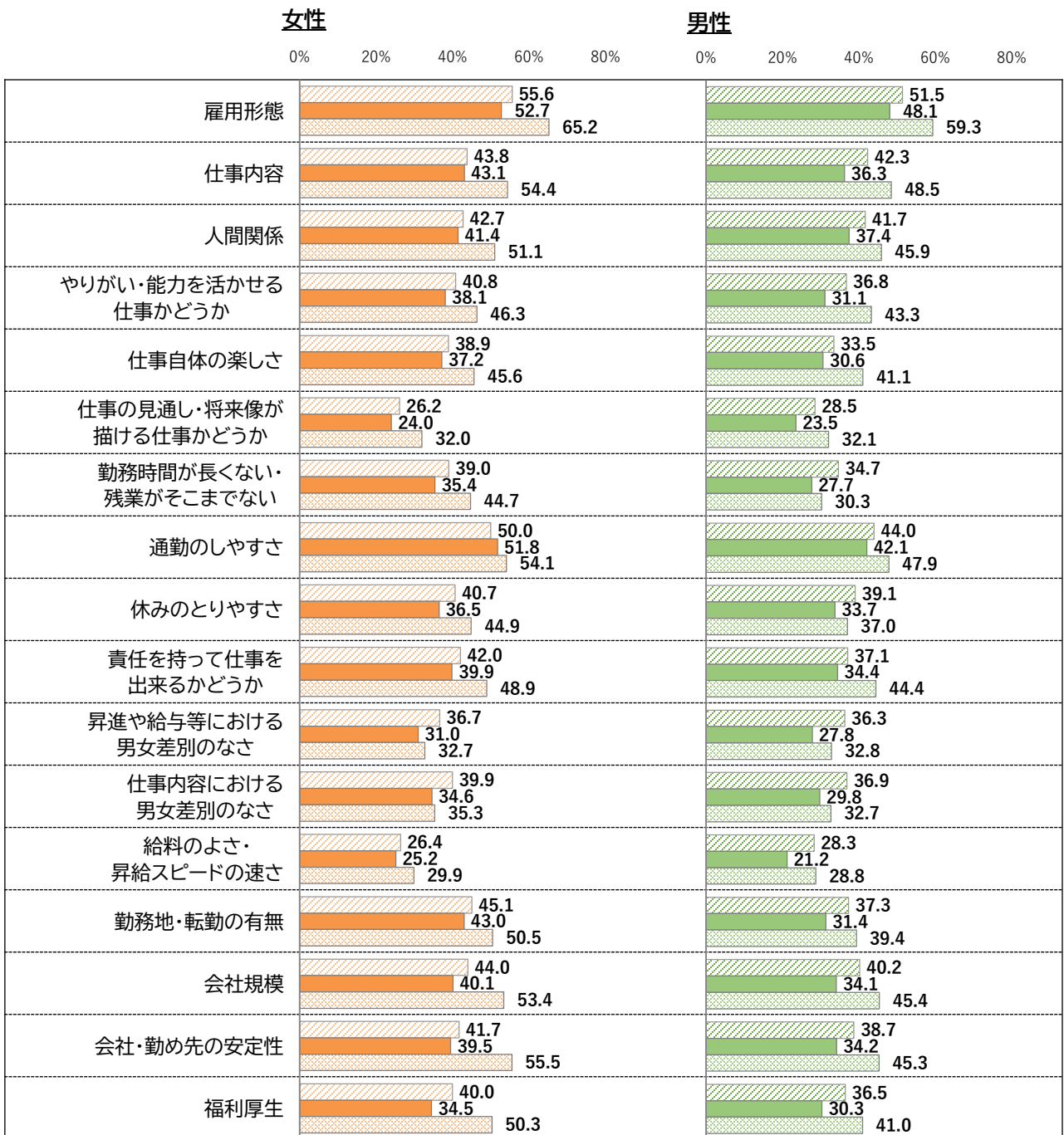
■ 満足    ▨ やや満足    □ どちらとも言えない    ▤ やや不満    ■ 不満

## (8) 初職をめぐる状況 最終学歴後についての仕事の満足度

・男女別・世代別に見ると、男女ともに「就職氷河期コア世代より上の世代」で初職の満足度は高い傾向にあり、「上の世代」の男女でともに最も高いのは「雇用形態」で6割前後、次いで「仕事内容」「通勤のしやすさ」が高い。

・「就職氷河期コア世代」と「コア世代より若い世代」を比較すると、女性では「昇進や給与等における男女差別のなさ」「仕事内容における男女差別のなさ」「福利厚生」で差が見られる。同様に男性では、「勤務時間が長くない・残業がそこまでない」「昇進や給与等における男女差別のなさ」「仕事内容における男女差別のなさ」「給料のよさ・昇給スピードの速さ」「福利厚生」等で差が見られる。

### 男女別・世代別(満足+やや満足の値を掲載)



就職氷河期コア世代より若い世代(n=2,248)  
 就職氷河期コア世代(n=1,771)  
 就職氷河期コア世代より上の世代(n=4,607)

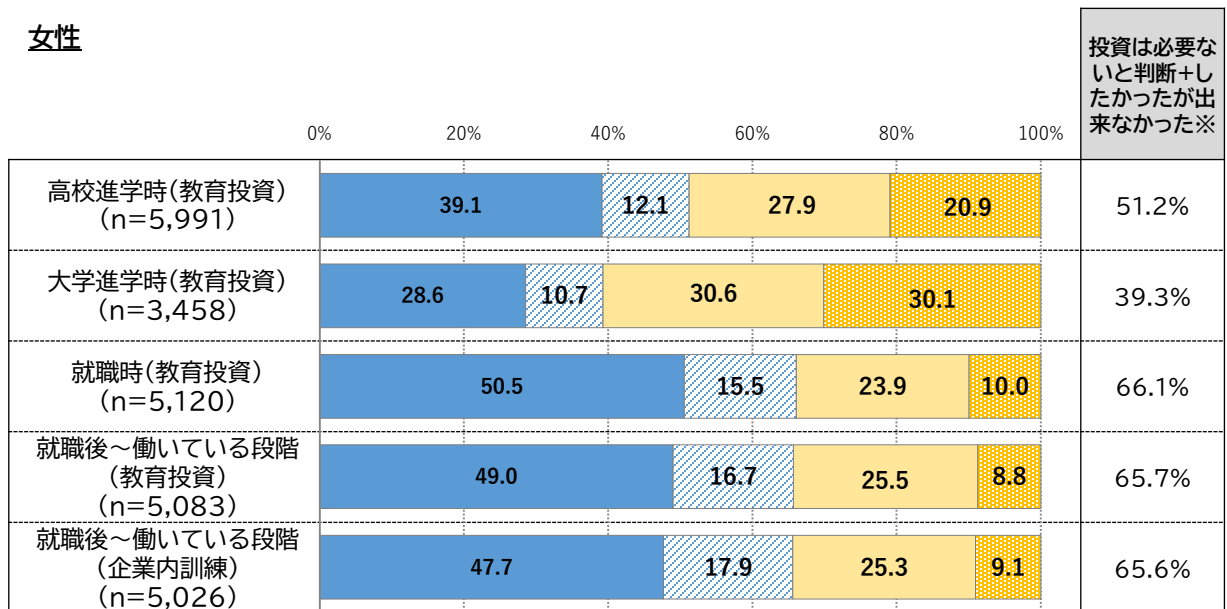
就職氷河期コア世代より若い世代(n=1,994)  
 就職氷河期コア世代(n=1,873)  
 就職氷河期コア世代より上の世代(n=4,543)

## (9) 教育投資・企業内訓練についての現状

・教育投資・企業内訓練について、女性では「投資は必要ないと判断+したかったが出来なかった」の計が、「就職時」で66.1%に対し、男性では60.1%と差が見られる。同様に、「就職後～働いている段階(教育投資・企業内訓練)」でも女性の方が男性より10%ポイント以上値が低い。

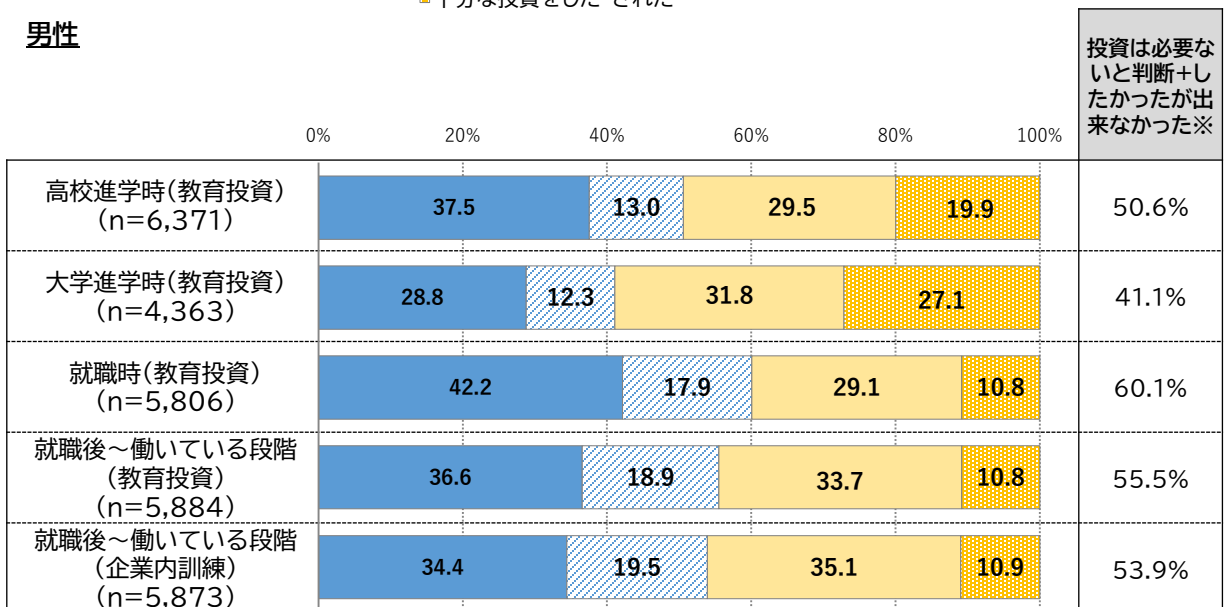
※「投資は必要ないと判断し、していない・なかった」+「投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった」の累計値  
 ※「該当しない」は除外して集計

### 女性



- 投資は必要ないと判断し、していない・なかった
- ▨ 投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった
- ある程度投資をした・された
- 十分な投資をした・された

### 男性



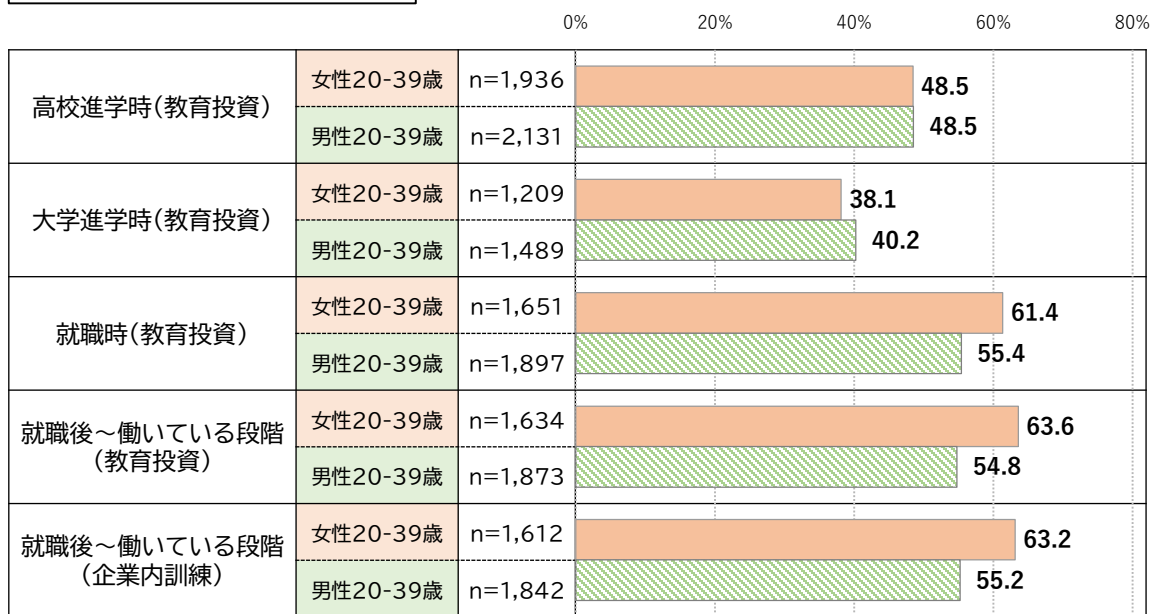
- 投資は必要ないと判断し、していない・なかった
- ▨ 投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった
- ある程度投資をした・された
- 十分な投資をした・された

## (9) 教育投資・企業内訓練についての現状

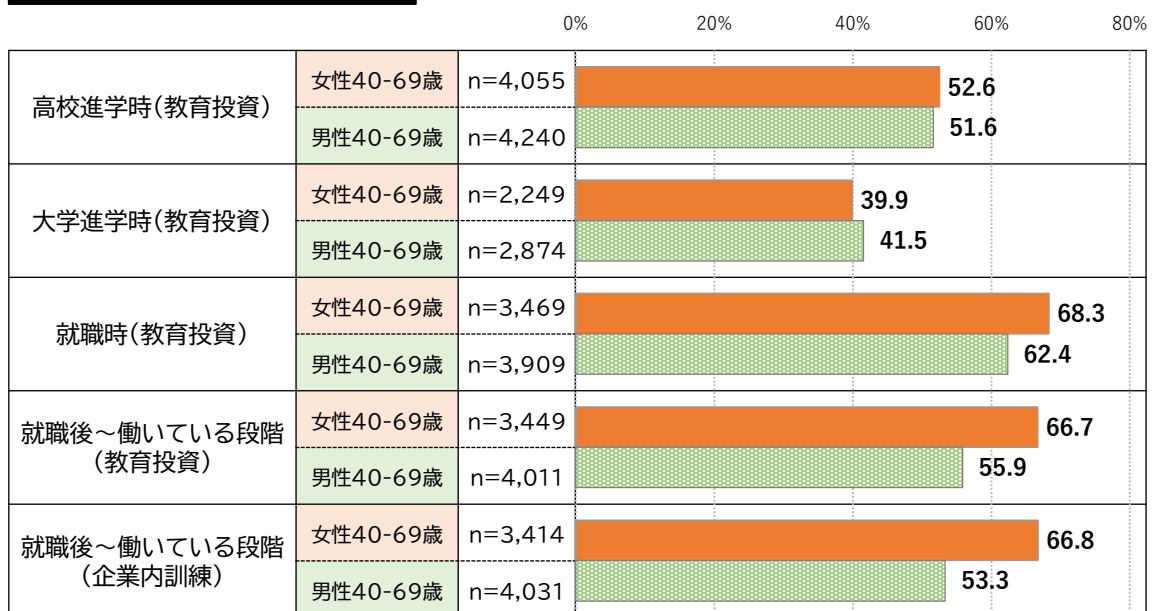
- ・高校進学時～就職後までの各段階における、教育投資・企業内訓練について聞いた(値は全て、「投資は必要ないと判断し、していない・なかった」+「投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった」の累計値)。
- ・男女別・年代別に見ると、男女ともに「20-39歳」に比べ「40-69歳」の方がどの項目においても高い傾向。
- ・40-69歳の男女を比較すると、「就職後～働いている段階(企業内訓練)」において女性が66.8%、男性が53.3%と、その差が大きい。

### 20-39歳 男女比較

※「投資は必要ないと判断し、していない・なかった」+「投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった」の累計値の値を掲載



### 40-69歳 男女比較





## (10) 就職後～働いている段階での教育投資・企業内訓練が必要ない・出来なかった理由

- ・20-39歳の男女を比較すると、男女ともに最も高いのは「教育投資が必要な仕事ではなかったから」で約36%。男女で差が見られ、女性の方が高い項目は、「ずっと働く訳ではないと思ったから」。
- ・40-69歳の男女を比較すると、「教育投資が必要な仕事ではなかったから」が特に女性で高く44.4%。また、男女で差が見られ、女性の方が高い項目は、20-39歳と同様「ずっと働く訳ではないと思ったから」。

※「投資は必要ないと判断し、していない・なかった」「投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった」と回答した人が対象



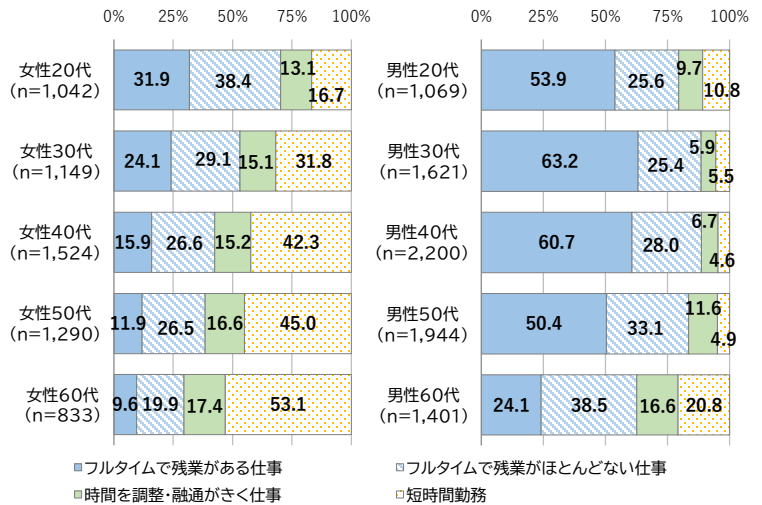
# 調査結果まとめ

## ◆現職の状況

1 女性は20代で「正規雇用」の割合が最も高く、以降は減少。「非正規雇用」の割合は「40代」で最も高い。一方で男性は30-50代で「正規雇用」が7~8割、「非正規雇用」は約1割。

2 正規雇用比率に比例して、男性では「フルタイム(残業有)」が50代以下で5割超も、女性では年齢が上がるほど「短時間勤務」の割合が上昇。また「フルタイム(残業有)」比率も低い。

	正規雇用	非正規雇用
女性20代(n=1,532)	42.0%	23.8%
女性30代(n=1,811)	31.1%	28.3%
女性40代(n=2,392)	21.7%	37.5%
女性50代(n=2,204)	16.4%	35.9%
女性60代(n=2,140)	8.2%	25.0%
男性20代(n=1,546)	51.1%	13.8%
男性30代(n=1,810)	72.4%	11.0%
男性40代(n=2,389)	75.3%	8.7%
男性50代(n=2,159)	69.3%	9.0%
男性60代(n=2,017)	30.3%	25.1%

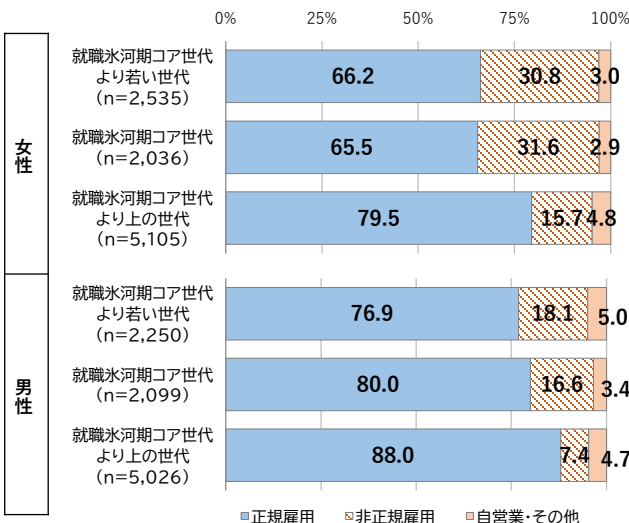


## ◆就職氷河期コア世代について、初職をめぐる状況

1 最終学歴後についた初職は、「就職氷河期コア世代より上の世代」で「正規雇用」の割合が最も高い。「就職氷河期コア世代」以降は、「女性」7割弱、「男性」8割弱で同程度。

2 初職の企業規模は、男女ともに「氷河期より上の世代」で「1,000名以上」の企業が多く、それ以降の世代では「100名以下」の割合が高まる。

3 初職の勤続年数が「3年以下」の割合は、「コア世代女性」で44%(上の世代38%)、「コア世代男性」で28%(上の世代21%)と、コア世代の方が3年以下離職率が高い。



		企業規模	
		100名未満	1,000名以上
女性	若い世代(n=2,459)	37.3%	17.1%
	コア世代(n=1,976)	40.1%	13.6%
	上の世代(n=4,859)	32.2%	24.9%
男性	若い世代(n=2,138)	32.0%	23.4%
	コア世代(n=2,028)	33.9%	23.3%
	上の世代(n=4,791)	27.6%	31.8%

## 調査結果まとめ

### ◆就職氷河期コア世代の初職の希望度・働いての魅力度

- 1 就職前に感じていた「仕事への希望度(希望通りだったか)」は男女ともに「コア世代」で低く、女性35%、男性33%。他世代では男女ともに4割前後。
- 2 初職が希望通りでなかった点は、男女ともに「給料」「勤務形態・時間」「会社の雰囲気」が高いのは共通も、「給料」については、男性でより「希望通りではない」値が高い。
- 3 「コア世代より若い世代」では、初職が非正規雇用であっても「希望通り」とする割合が「コア世代」と比べ高く、「非正規=消極的な選択」と捉えていない人もいると推測。

初職が非正規雇用		就職前希望通りだったか(希望通り計)	働いてみて魅力的だったか(魅力的計)
女性	若い世代(n=782)	29.3%	22.8%
	コア世代(n=643)	23.3%	22.1%
男性	若い世代(n=407)	26.5%	23.3%
	コア世代(n=348)	16.4%	14.1%

- 初職が非正規雇用の人を見ると、「コア世代」については、「就職前希望通りだったか」の値は「若い世代」と比べて女性では6%ポイント程度低く、男性では10%ポイント低いことから、「希望通りでなく、非正規雇用にならざるを得なかった」人が一定数いると考えられる。
- 反対に、「若い世代」では、職業の幅も広がる現状の中、「非正規雇用も選択肢の1つ」と前向きに捉えている人が含まれていると推測される。

### ◆初職の満足度

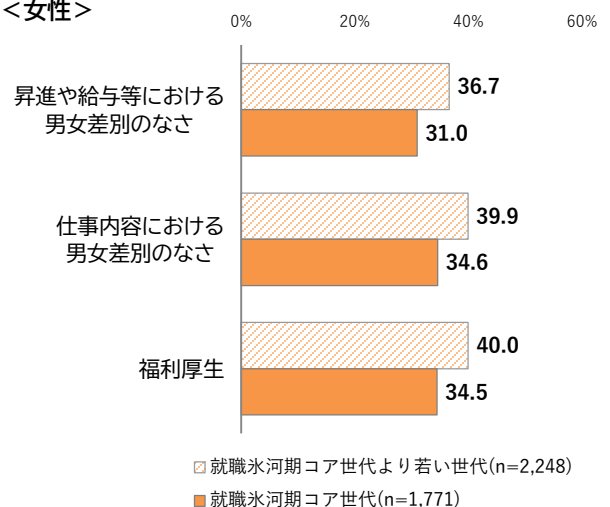
- 1 男女ともに「雇用形態」「通勤のしやすさ」の満足度が高いのは共通。女性に比べ男性は、「勤務時間が長くない・残業がそこまでない」「勤務地・転勤有無」の満足度が低い。
- 2 「就職氷河期コア世代」は男女とも、他世代と比べ各要素に対する満足度は低い。「コア世代より若い世代」と比較すると、女性では「昇進や給与等における男女差別のなさ」「仕事内容における男女差別のなさ」の満足度が低い。

- 初職で働いてみての満足度は、「勤務時間の長さ」「勤務地・転勤の有無」など、「働き方」の点で男女の差が見られ、男性でより満足度が低い。コア世代より若い世代では、給与や仕事面での「女性」ならではの差別はやや改善の傾向が見られた。

【働いてみての満足度】

	女性 (n=8,626)	男性 (n=8,410)
雇用形態	60.2%	55.0%
仕事内容	49.3%	44.3%
人間関係	46.9%	43.0%
勤務時間が長くない・ 残業がそこまで多くない	41.3%	30.7%
勤務地・転勤の有無	47.5%	37.1%
会社規模	48.2%	41.7%
会社・勤め先の安定性	48.6%	41.3%

<女性>



## 4. 結婚・子供を持つ事と働き方

### (1) 結婚後の自分と配偶者の仕事 理想と現実

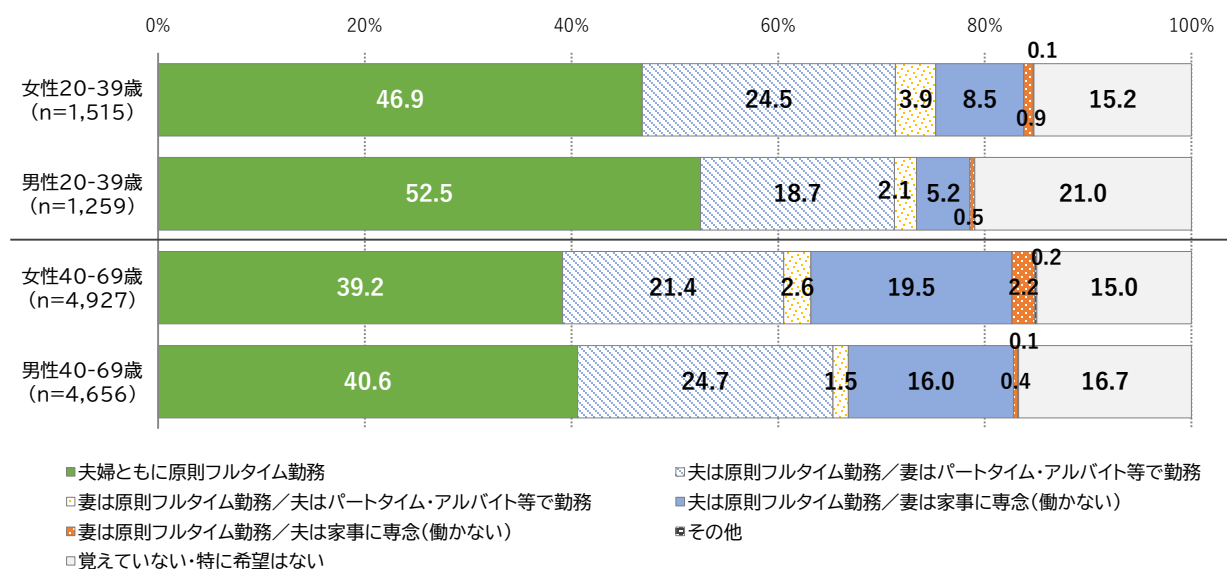
※結婚後（初婚）子供がいない時を想定

・結婚後の自分と配偶者の仕事について、既婚者の「理想」では、男女ともにどの年代も「夫婦ともに原則フルタイム勤務」が最も高く、特に「男性20-39歳」で52.5%、「女性20-39歳」で46.9%と高い。続いて、「夫は原則フルタイム勤務/妻はパートタイム・アルバイト等で勤務」。

・既婚者の「現実」についても、男女ともにどの年代でも「夫婦ともに原則フルタイム勤務」が最も高いが、「現実」の割合が「理想」よりも5%ポイント以上下がる。逆に「現実」の割合の方が「理想」に比べ高い項目(5%ポイント以上)は、「夫は原則フルタイム勤務/妻は家事に専念(働かない)」。

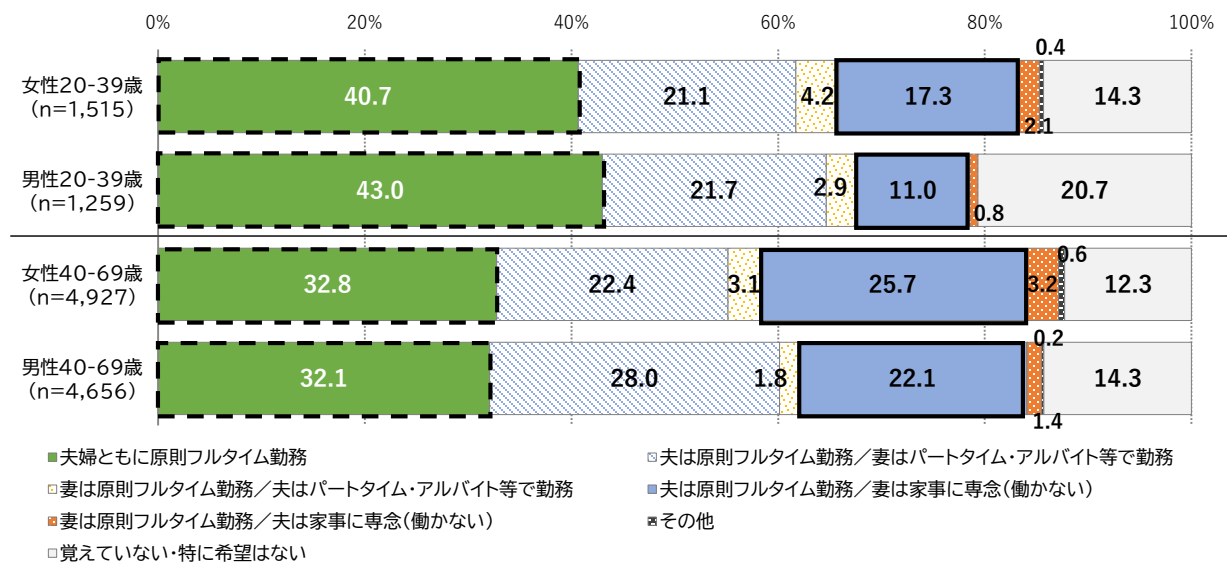
#### 既婚

#### 【結婚後の自分と配偶者の仕事について望む形(理想)】



#### 【結婚後の自分と配偶者の仕事についての実際の形(現実)】

※黒実線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上高い項目  
黒点線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上低い項目



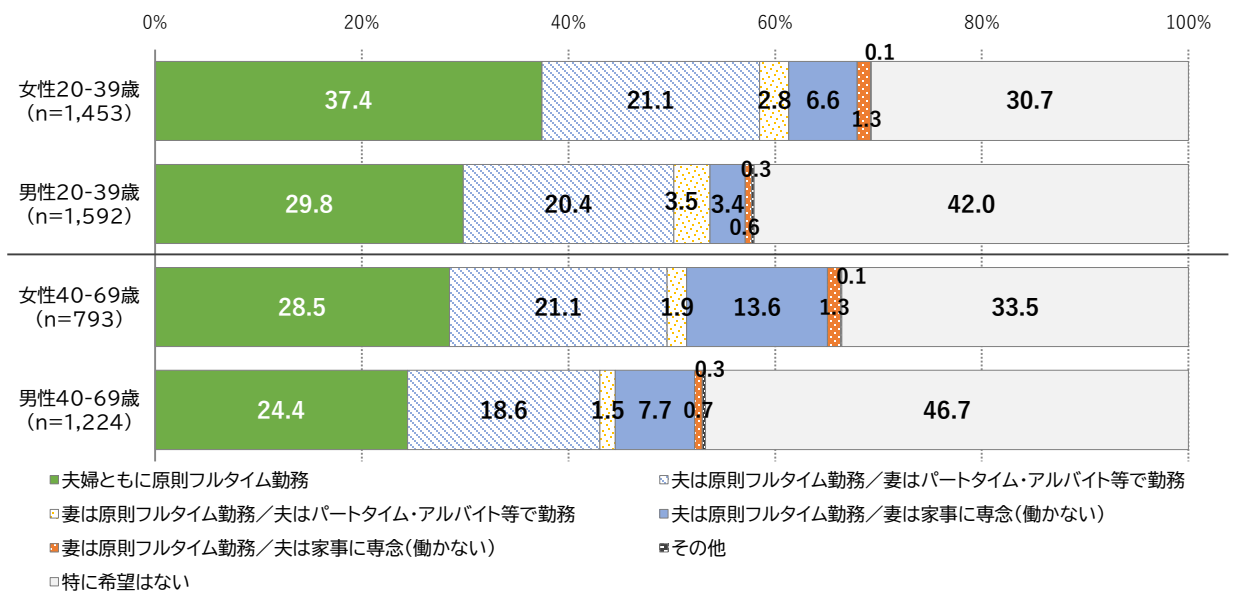
# (1) 結婚後の自分と配偶者の仕事理想

※結婚後（初婚） 子供がいない時を想定

・結婚後の自分と配偶者の仕事について、独身で結婚意思がある人の「理想」では、「特に希望はない」を除いて最も高い項目は、男女ともにどの年代でも「夫婦ともに原則フルタイム勤務」。

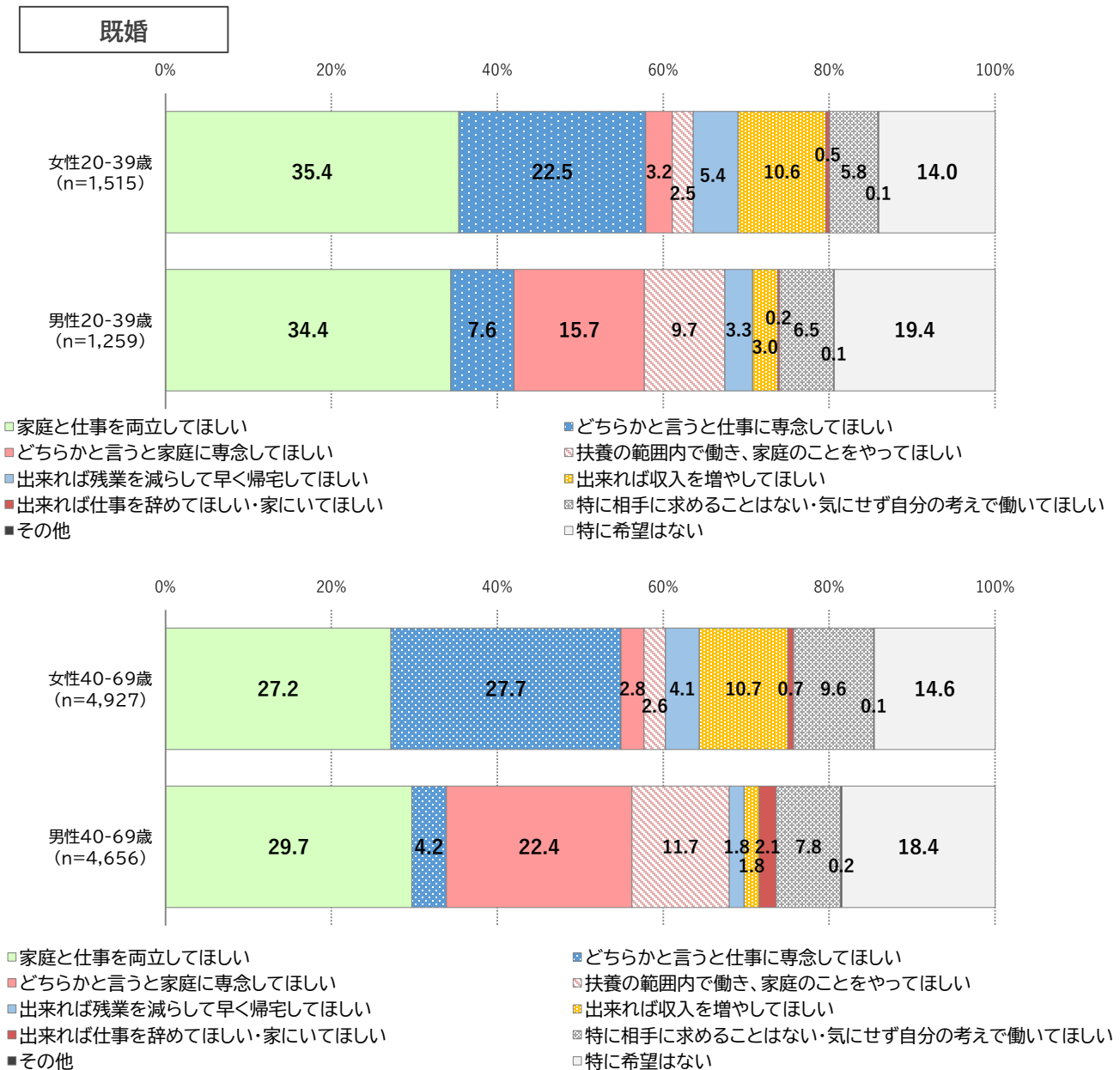
## 独身・結婚意思あり

【結婚後の自分と配偶者の仕事について望む形(理想)】



**(2) 結婚後の配偶者の働き方への望み(どう思っていたか)** ※結婚後(初婚) 子供がいない時を想定

・既婚者の「配偶者の働き方への望み(どう思っていたか)」については、まず20-39歳で見ると、「家庭と仕事を両立してほしい」が男女とも最も高い。女性では「どちらかと言うと仕事に専念してほしい」が22.5%、男性では「特に希望はない」が19.4%、「どちらかと言うと家庭に専念してほしい」が15.7%。  
 ・40-69歳では、女性で「どちらかと言うと仕事に専念してほしい」が27.7%、「家庭と仕事を両立してほしい」が27.2%。男性で「家庭と仕事を両立してほしい」が29.7%、「どちらかと言うと家庭に専念してほしい」が22.4%。



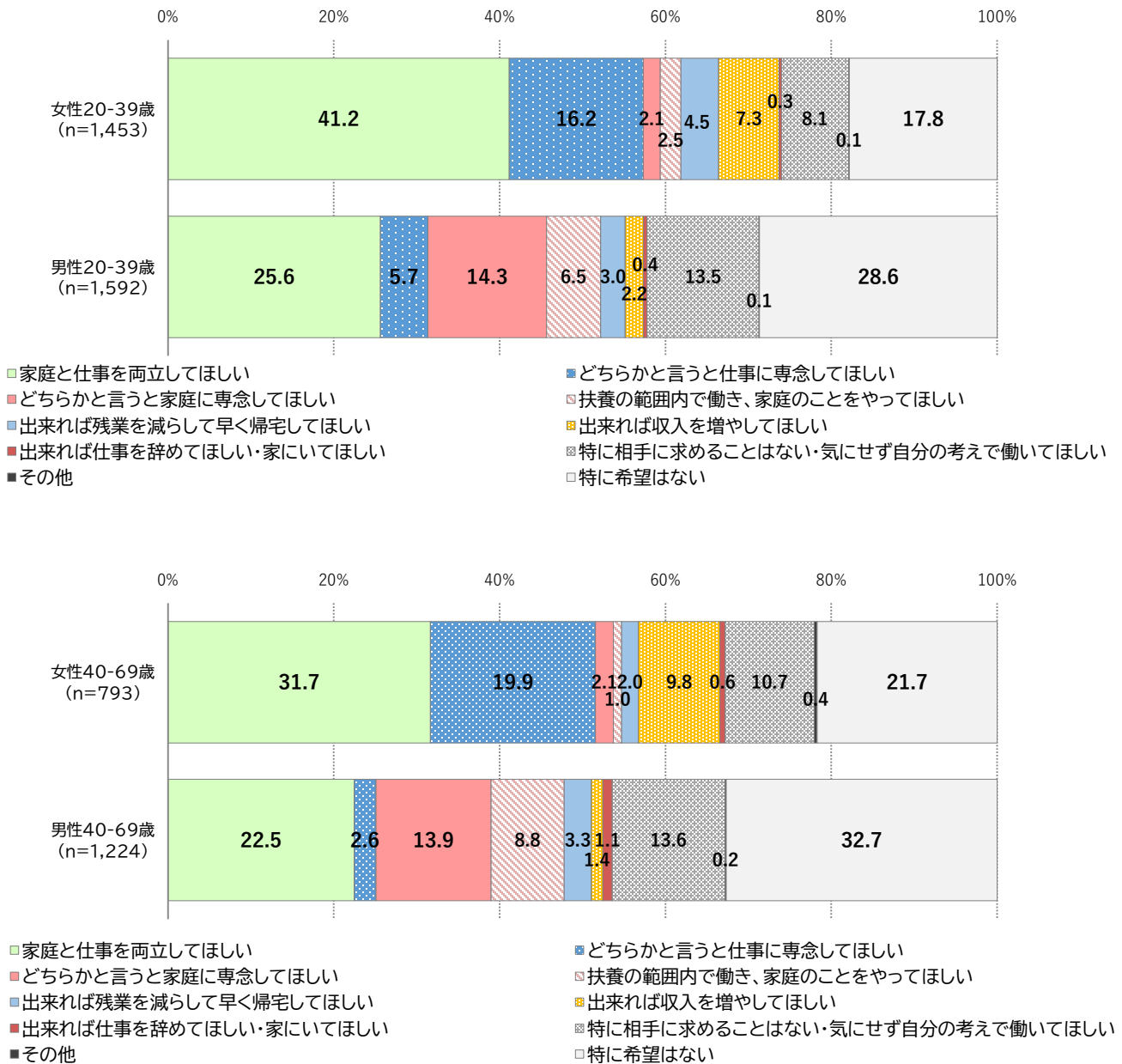
## (2) 結婚後の配偶者の働き方への望み・どう思っていたか

※結婚後（初婚）子供がいない時を想定

・独身で結婚意思がある人の「配偶者の働き方への望み」については、20-39歳を見てみると、女性では「家庭と仕事を両立してほしい」41.2%が最も高い。男性では、「特に希望はない」が28.6%、次に「家庭と仕事を両立してほしい」が25.6%。

・40-69歳を見てみると、女性では「家庭と仕事を両立してほしい」が31.7%、「特に希望はない」が21.7%。男性では、「特に希望はない」が32.7%、「家庭と仕事を両立してほしい」が22.5%。

### 独身・結婚意思あり

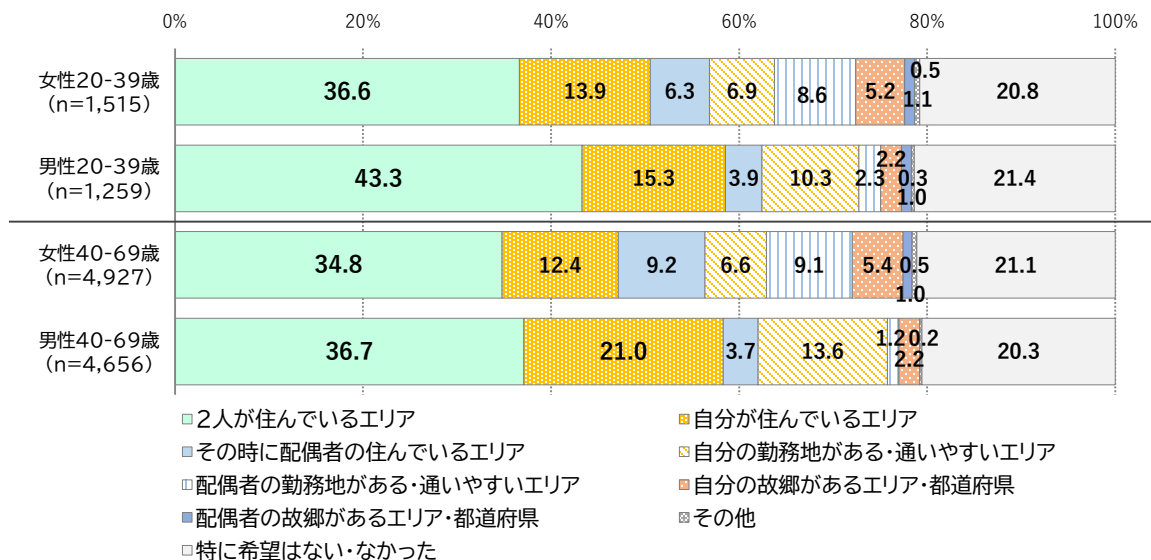


### (3) 結婚後の居住地 理想と現実 ※結婚後（初婚）子供がいない時を想定

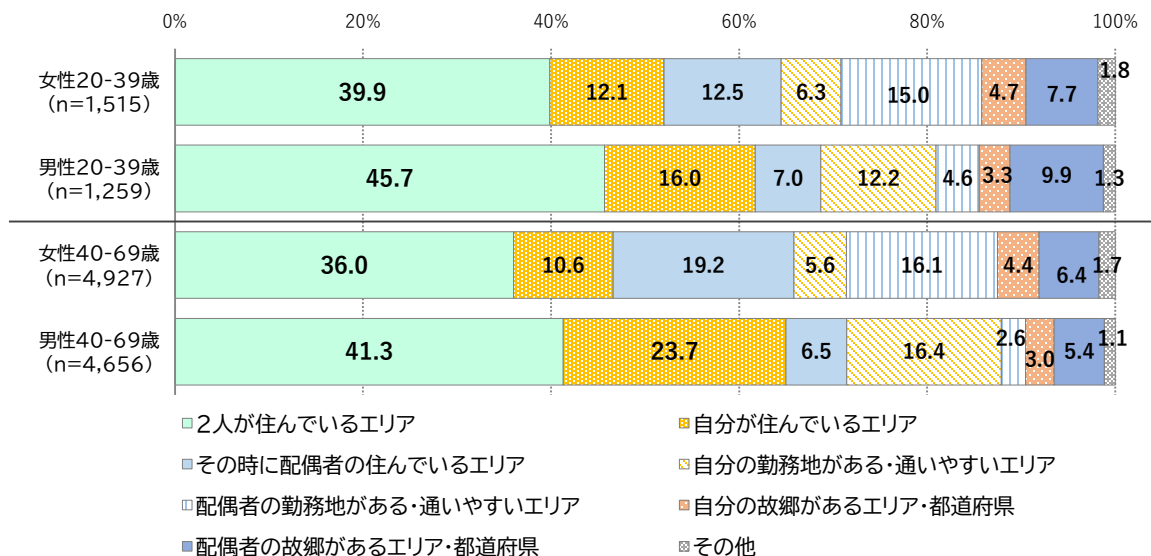
- ・既婚者の「結婚後の居住地の理想」については、男女ともにどの年代でも「2人が住んでいるエリア」が最も高い。
- ・既婚者の「結婚後の居住地が実際どうだったか(現実)」についても、男女ともにどの年代でも「2人が住んでいるエリア」が最も高い。
- ・「理想」と「現実」ともに、40-69歳男性で、「自分が住んでいるエリア」の割合が、他の年代や女性に比べてやや高い。

#### 既婚

##### 【理想の居住地】



##### 【実際にどうだったか(現実)】



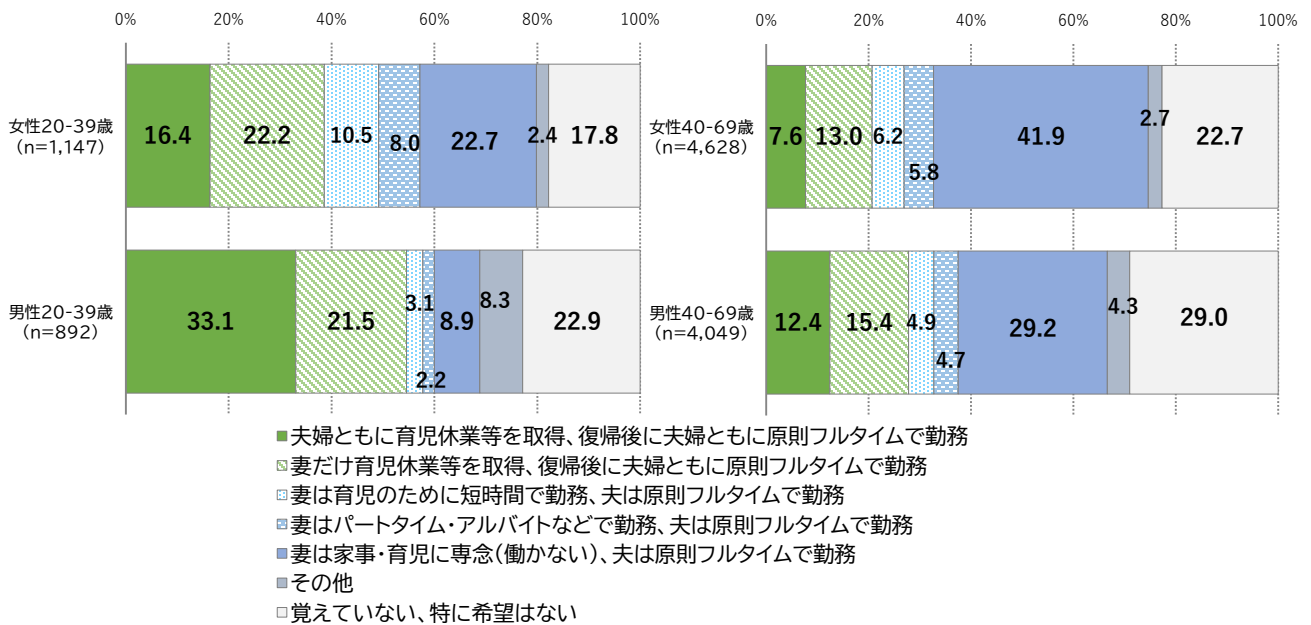


**(4) 第一子が生まれた後の自分と配偶者の仕事 理想と現実** ※第一子が生まれてから、子供が2~3歳のころを想定

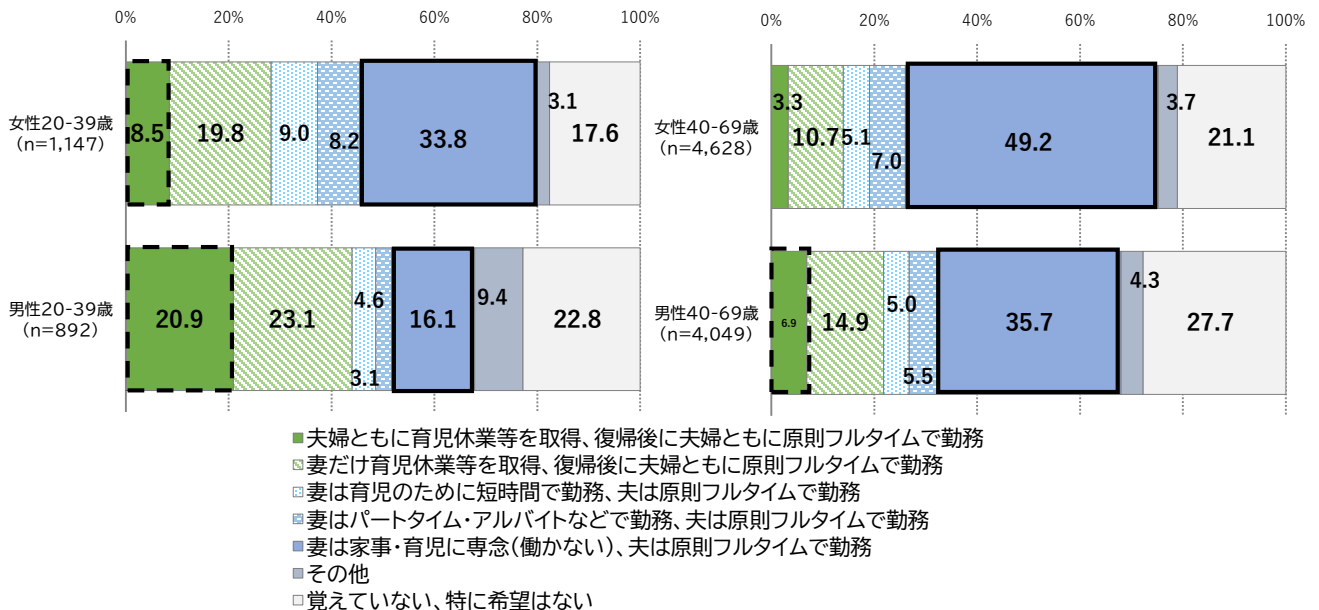
・第一子が生まれた後の自分と配偶者の仕事について、子供がいる人の「理想」では、20-39歳男性以外では「妻は家事・育児に専念(働かない)、夫は原則フルタイム勤務」が最も高く、20-39歳女性で22.7%、40-69歳女性で41.9%、40-69歳男性で29.2%。一方、20-39歳男性では、「夫婦ともに育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務」が最も高く、33.1%。  
 ・「実際どうだったか(現実)」については、男女ともに全ての年代で、「理想」に対して「現実」の割合の方が5%ポイント以上高い項目は、「妻は家事・育児に専念(働かない)、夫は原則フルタイム勤務」。

**子供がいる**

**【理想の配偶者の仕事の形】**



**【実際にどうだったか(現実)】**



※黒実線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上高い項目  
 黒点線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上低い項目

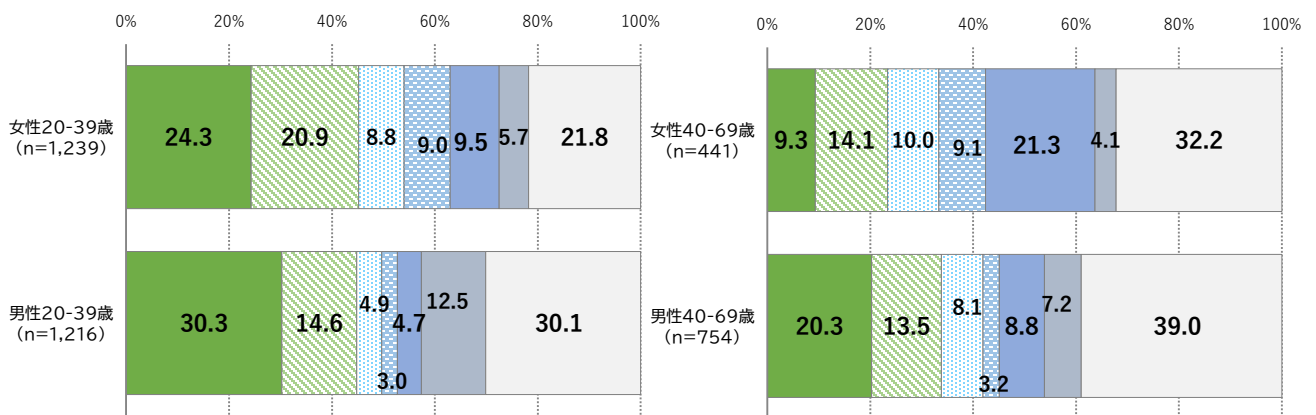
#### (4) 第一子が生まれた後の自分と配偶者の仕事 理想

※第一子が生まれてから、子供が2～3歳のころを想定

- ・第一子が生まれた後の自分と配偶者の仕事について、子供がいない人で今後子供を持つ意思がある人の「理想」では、男女とも40-69歳では、「特に希望はない」が3割以上と最も高い。
- ・20-39歳では、男女とも「夫婦ともに育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務」が最も高い。

#### 子供がいない・子供を持つ意思あり

##### 【理想の配偶者の仕事の形】



- 夫婦ともに育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務
- ▨ 妻だけ育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務
- ▤ 妻は育児のために短時間で勤務、夫は原則フルタイムで勤務
- ▥ 妻はパートタイム・アルバイトなどで勤務、夫は原則フルタイムで勤務
- 妻は家事・育児に専念(働かない)、夫は原則フルタイムで勤務
- その他
- 特に希望はない

(4) 第一子が生まれた後の自分と配偶者の仕事 理想と現実 ※第一子が生まれてから、子供が2～3歳のころを想定

子供がいる

		夫婦ともに育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	妻だけ育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	夫だけ育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	夫婦ともに育児のために短時間で勤務	妻は育児のために短時間で勤務、夫は原則フルタイムで勤務	夫は育児のために短時間で勤務、妻は原則フルタイムで勤務	妻はパートタイム・アルバイトなどで勤務、夫は原則フルタイムで勤務	夫はパートタイム・アルバイトなどで勤務、妻は原則フルタイムで勤務	妻は家事・育児に専念(働かない)、夫は原則フルタイムで勤務	夫は家事・育児に専念(働かない)、妻は原則フルタイムで勤務	その他	覚えていない、特に希望はない
理想	女性20-39歳 (n=1,147)	16.4	22.2	0.6	0.9	10.5	0.1	8.0	0.1	22.7	0.5	0.2	17.8
	男性20-39歳 (n=892)	33.1	21.5	5.7	1.9	3.1	0.2	2.2	0.2	8.9	0.1	0.1	22.9
	女性40-69歳 (n=4,628)	7.6	13.0	0.4	0.6	6.2	0.2	5.8	0.2	41.9	0.8	0.5	22.7
	男性40-69歳 (n=4,049)	12.4	15.4	2.4	0.6	4.9	0.3	4.7	0.2	29.2	0.5	0.2	29.0
現実	女性20-39歳 (n=1,147)	8.5	19.8	0.7	0.6	9.0	0.1	8.2	0.2	33.8	0.5	1.0	17.6
	男性20-39歳 (n=892)	20.9	23.1	6.5	1.2	4.6	0.4	3.1	0.1	16.1	0.3	0.8	22.8
	女性40-69歳 (n=4,628)	3.3	10.7	0.4	0.3	5.1	0.2	7.0	0.2	49.2	1.1	1.4	21.1
	男性40-69歳 (n=4,049)	6.9	14.8	2.1	0.5	5.0	0.2	5.5	0.4	35.7	0.7	0.4	27.7

子供がいない・子供を持つ意思あり

		夫婦ともに育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	妻だけ育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	夫だけ育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	夫婦ともに育児のために短時間で勤務	妻は育児のために短時間で勤務、夫は原則フルタイムで勤務	夫は育児のために短時間で勤務、妻は原則フルタイムで勤務	妻はパートタイム・アルバイトなどで勤務、夫は原則フルタイムで勤務	夫はパートタイム・アルバイトなどで勤務、妻は原則フルタイムで勤務	妻は家事・育児に専念(働かない)、夫は原則フルタイムで勤務	夫は家事・育児に専念(働かない)、妻は原則フルタイムで勤務	その他	覚えていない、特に希望はない
理想	女性20-39歳 (n=1,239)	24.3	20.9	1.6	2.9	8.8	0.4	9.0	0.2	9.5	0.5	0.1	21.8
	男性20-39歳 (n=1,216)	30.3	14.6	5.1	5.2	4.9	1.3	3.0	0.4	4.7	0.3	0.2	30.1
	女性40-69歳 (n=441)	9.3	14.1	0.5	1.8	10.0	0.5	9.1	0.2	21.3	0.0	1.1	32.2
	男性40-69歳 (n=754)	20.3	13.5	2.4	3.2	8.1	0.7	3.2	0.1	8.8	0.4	0.4	39.0

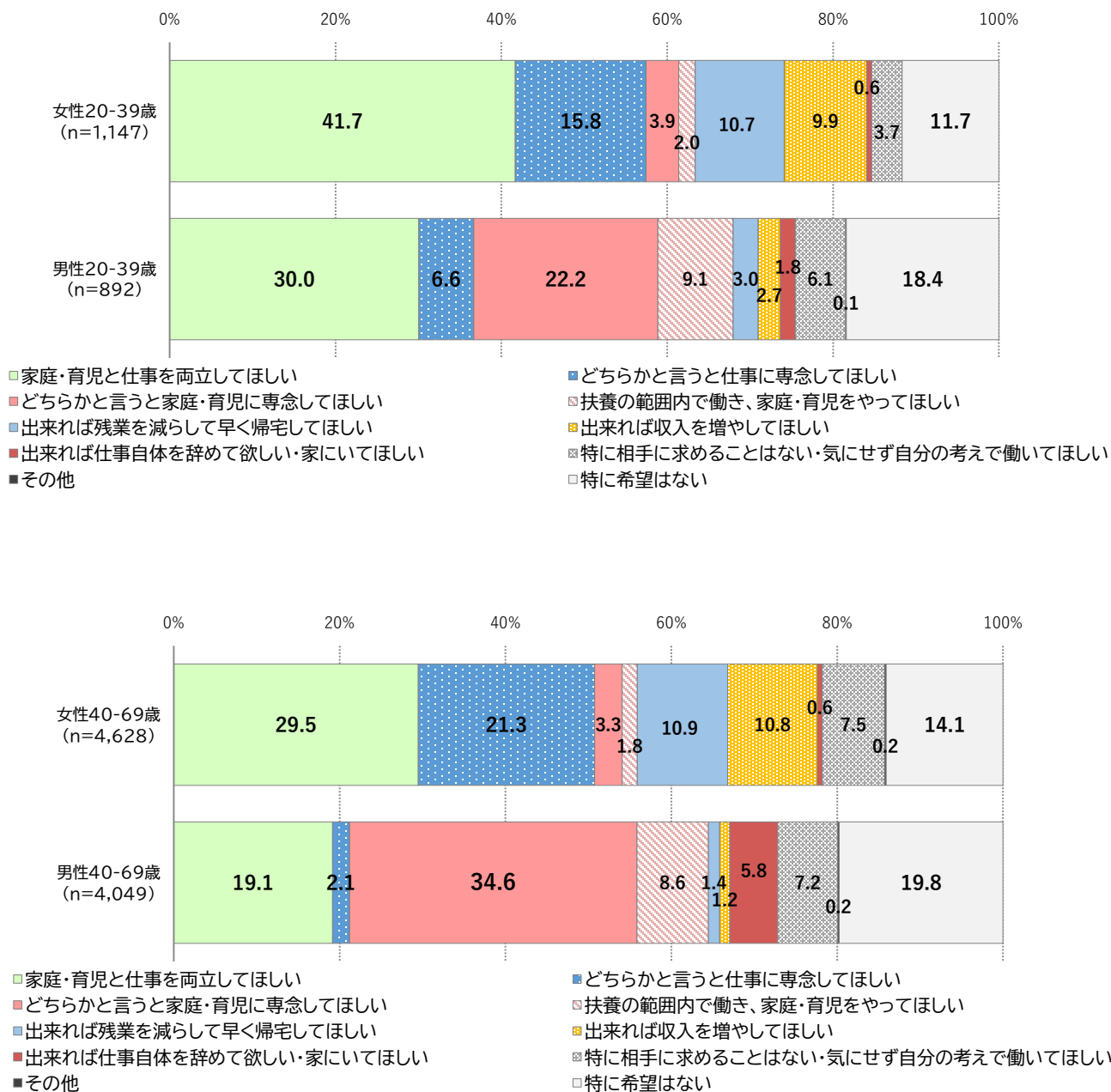
## (5) 第一子が生まれた後の配偶者の働き方への望み(どう思っていたか)

※第一子が生まれてから、  
子供が2〜3歳のころを想定

・第一子が生まれた後の「配偶者への働き方への望み(どう思っていたか)」については、まず20-39歳で見ると、「家庭・育児と仕事を両立してほしい」が男女とも最も高い。次に、女性では「どちらかと言うと仕事に専念してほしい」が15.8%、男性では「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」が22.2%。

・40-69歳を見てみると、女性では、「家庭・育児と仕事を両立してほしい」が29.5%、「どちらかと言うと仕事に専念してほしい」が21.3%。男性は、「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」が34.6%と3割を超える。

### 子供がいる



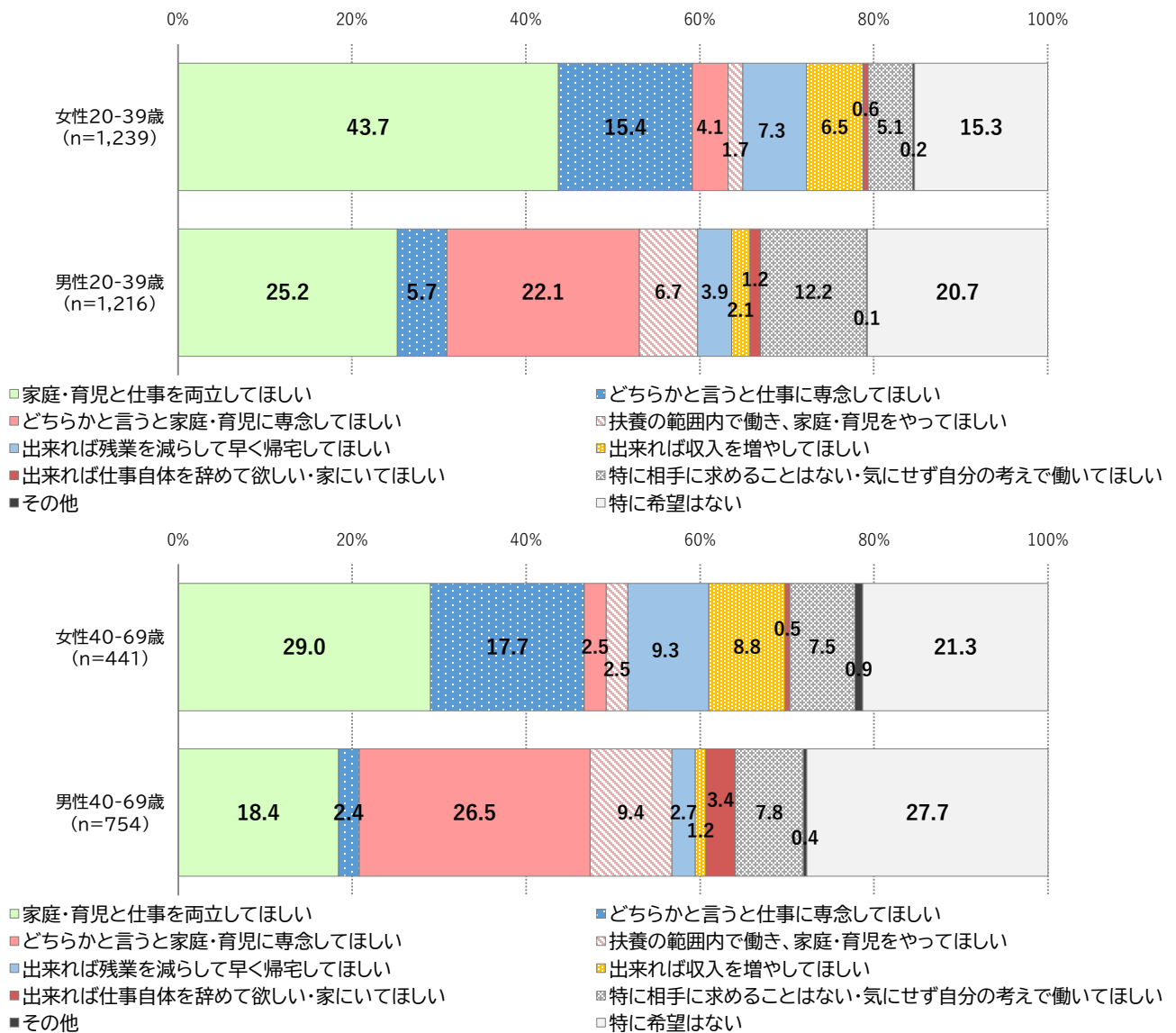
## (5) 第一子が生まれた後の配偶者の働き方への望み(理想)

※第一子が生まれてから、  
子供が2~3歳のころを想定

・子供がいない人で今後子供を持つ意思がある人の、第一子が生まれた後の「配偶者への働き方への望み(理想)」については、まず20-39歳で見ると、女性では「家庭・育児と仕事を両立してほしい」43.7%が最も高い。男性でも「家庭・育児と仕事を両立してほしい」が最も高いが、25.2%と同年代の女性と比べると10%ポイント以上低く、次に「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」が22.1%。

・40-69歳で見ると、女性では、「家庭・育児と仕事を両立してほしい」が29.0%、「特に希望はない」が21.3%。男性は、「特に希望はない」が27.7%、「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」が26.5%。

### 子供がいない・子供を持つ意思あり



## 調査結果まとめ

### ◆結婚・子供を持つ事と働き方における、「理想」と「現実」のギャップ

- 1 結婚後、また第一子が生まれた後の段階でも、既婚者の「理想」よりも、「現実」で増えているのは「**夫はフルタイム、妻は家事に専念(働かない)**」。
- 2 逆に、「理想」に対して「現実」の値が下回っている≡そうしたいと思っていたが、思っていたより出来なかったものは、「**夫婦ともに原則フルタイム**」。
- 3 「**夫婦ともにフルタイム**」を望んでいるのは、既婚者では女性よりも**男性**が多い。一方、**家事や育児に専念**することを望んでいるのは、**女性**が多い(特に第一子出産後)。

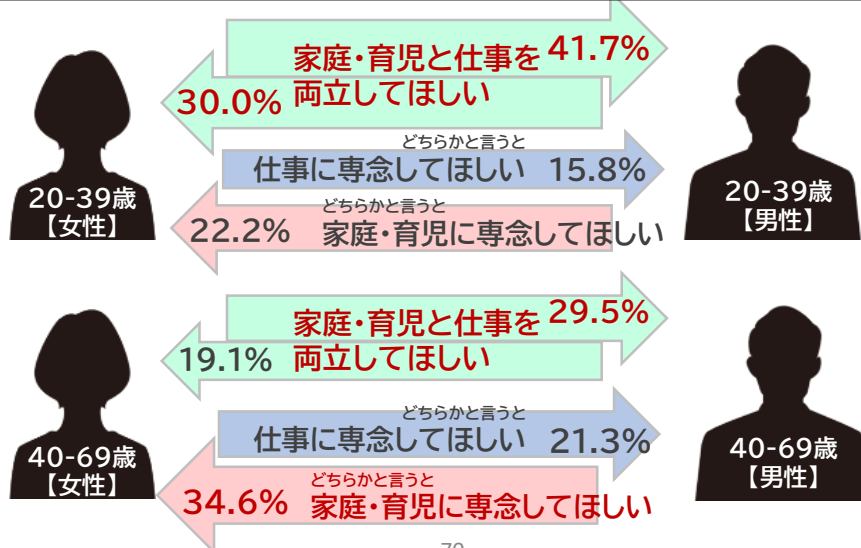
#### ・結婚後の自分と配偶者の仕事について 理想と現実 (選択肢抜粋)

対象者区分			夫婦ともに原則フルタイム		夫はフルタイム妻は家事に専念(働かない)	
			理想	現実	理想	現実
既婚	20-39歳	女性	46.9%	40.7%	8.5%	17.3%
		男性	52.5%	43.0%	5.2%	11.0%
	40-69歳	女性	39.2%	32.8%	19.5%	25.7%
		男性	40.6%	32.1%	16.0%	22.1%
单身	20-39歳	女性	37.4%		6.6%	
		男性	29.8%		3.4%	
	40-69歳	女性	28.5%		13.6%	
		男性	24.4%		7.7%	

### ◆結婚・子供を持った段階での、配偶者への働き方の要望

- 1 女性の若い年代(20-39歳)では、結婚後、また第一子が生まれた後も、**夫に対しては「家庭・育児と仕事を両立してほしい」**要望が最も高い。
- 2 女性の上の年代(40-69歳)では、**夫に対して、「家庭・育児と仕事を両立してほしい」**要望と、「**どちらかと言うと仕事に専念してほしい**」要望、どちらも一定数ある。
- 3 男性では、特に第一子が生まれた後は、**妻に対して「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」**要望が高く、**上の年代(40-69歳)**では最も高い要望となる。

#### ・子供がいる男女における「第一子が生まれた後の配偶者の働き方」への望み (選択肢抜粋)

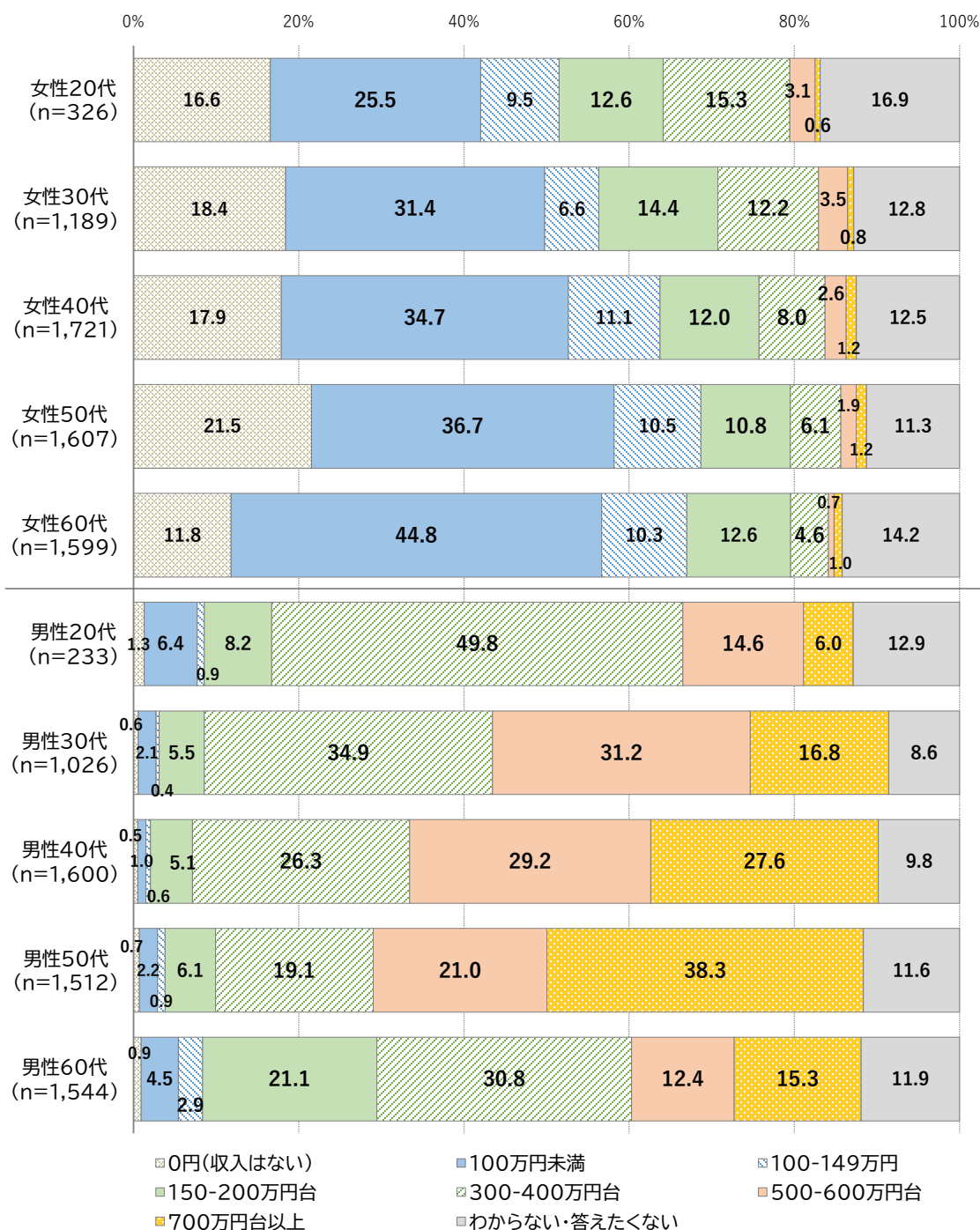


## 5. 収入を取り巻く状況

### (1) 個人年収

- ・男女別・年代別に既婚者の個人年収を見てみると、女性では年代が上になるほど「100万円未満」の割合が高くなり、「40代」では34.7%、「50代」では36.7%、「60代」では44.8%となる。
- ・男性を年代別に見ると、「20代」では「300-400万円台」が49.8%と最も高く、「30代」では「300-400万円台」34.9%、「500-600万円台」31.2%が高い。「40代」では「300-400万円台」「500-600万円台」「700万円以上」が全て26~29%程度となり、「50代」では「700万円台以上」が38.3%、「60代」では「300-400万円台」が30.8%と高い。

#### 既婚

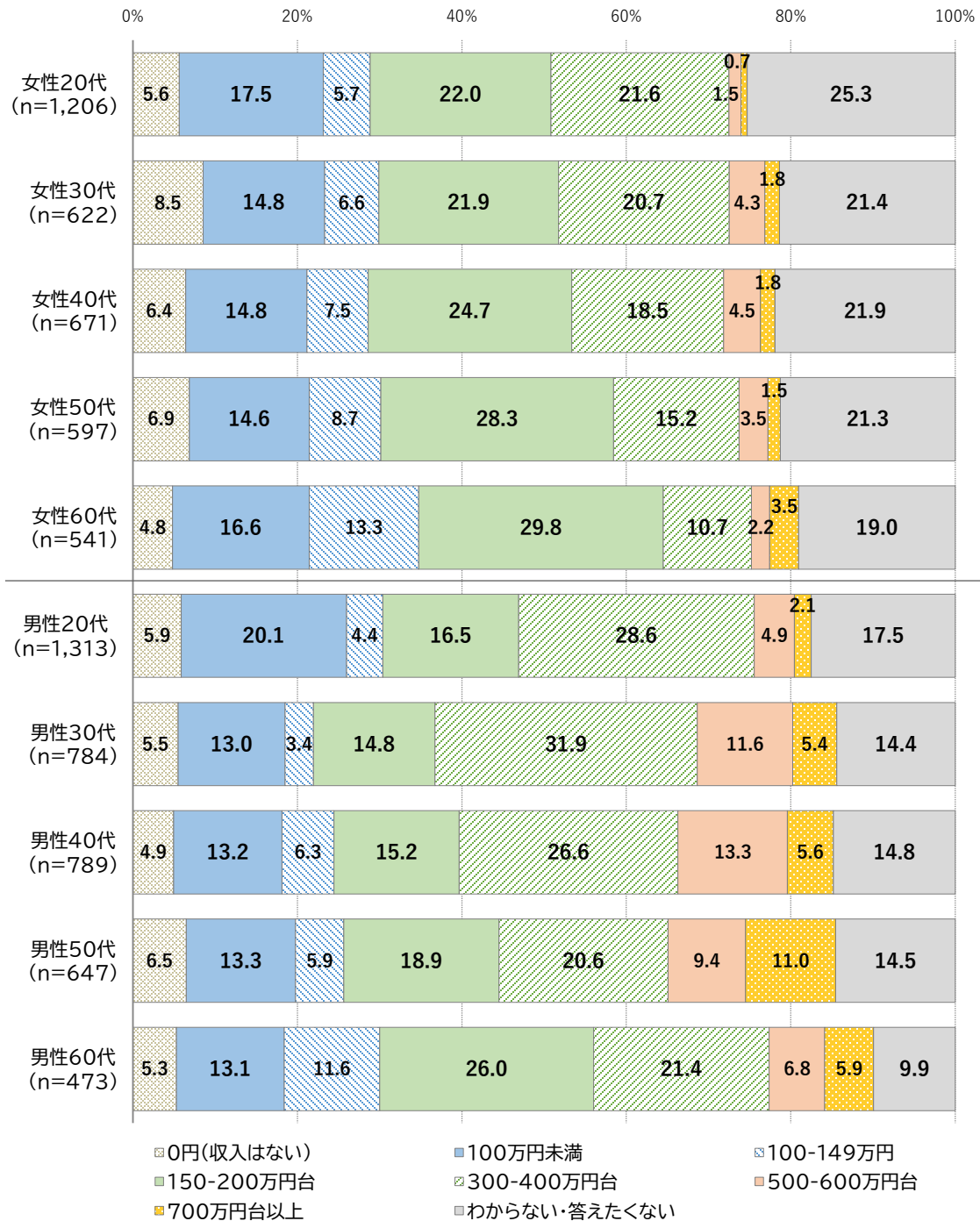


## (1) 個人年収

・男女別・年代別に独身者の個人年収を見てみると、女性では既婚者ほど年代による差がそこまで大きくはなく、「150-200万円台」が最も高い(2~3割程度)。20-40代では「300-400万円台」も2割前後の割合となる。またどの年代でも「100万円未満」の割合が、既婚者と比較して低い。

・男性独身者では逆に、既婚者と比較して、どの年代でも「100万円未満」の割合が高く、「700万円以上」の割合が低い。

### 独身

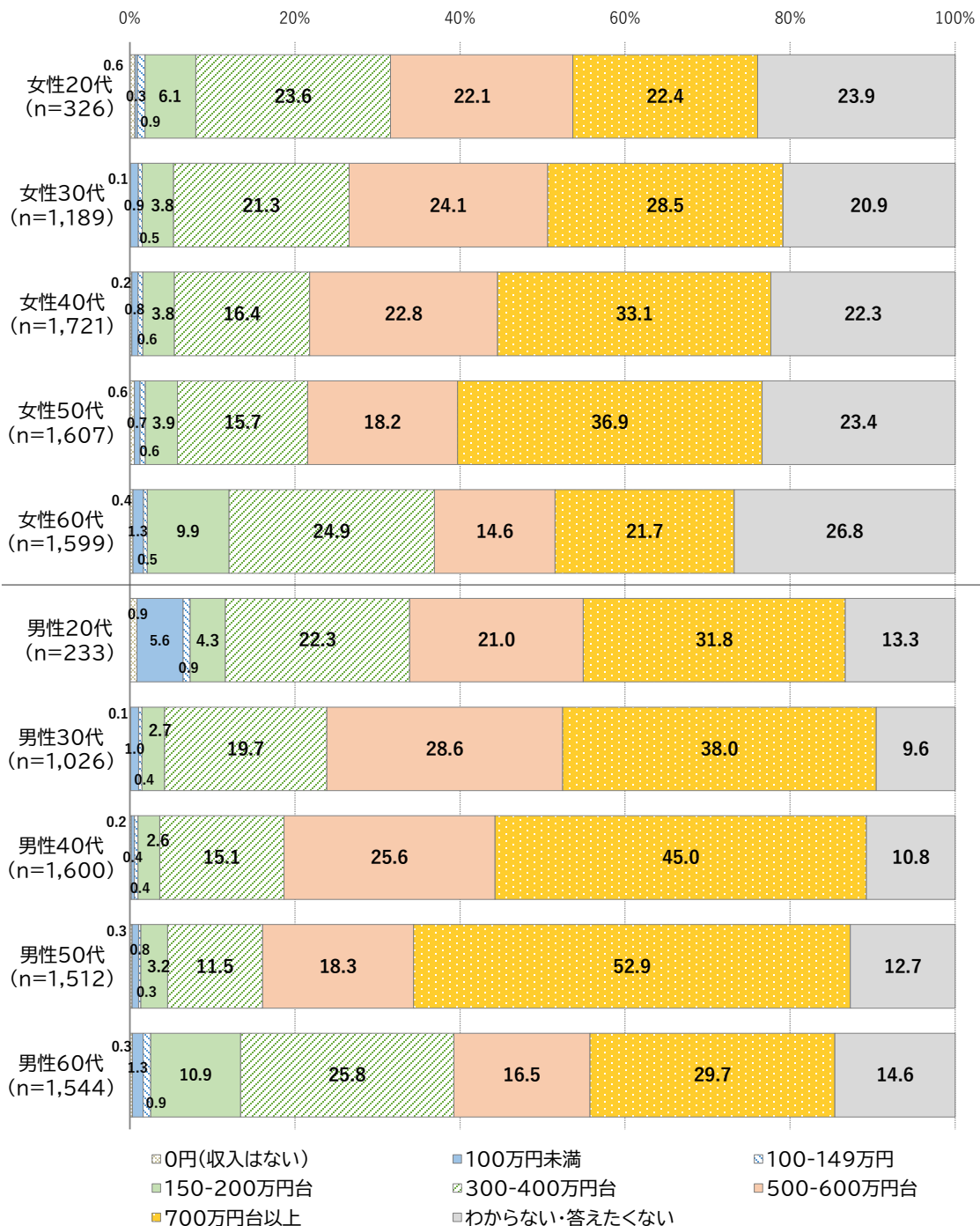




## (2) 世帯年収

- ・男女別・年代別に既婚者の世帯年収を見てみると、女性では50代までは年代が上がるほど「700万円台以上」の割合が高くなり、「女性50代」では36.9%となる。
- ・男性でも同様に、50代までは年代が上がるほど「700万円台以上」の割合が高くなり、「男性50代」では52.9%となる。

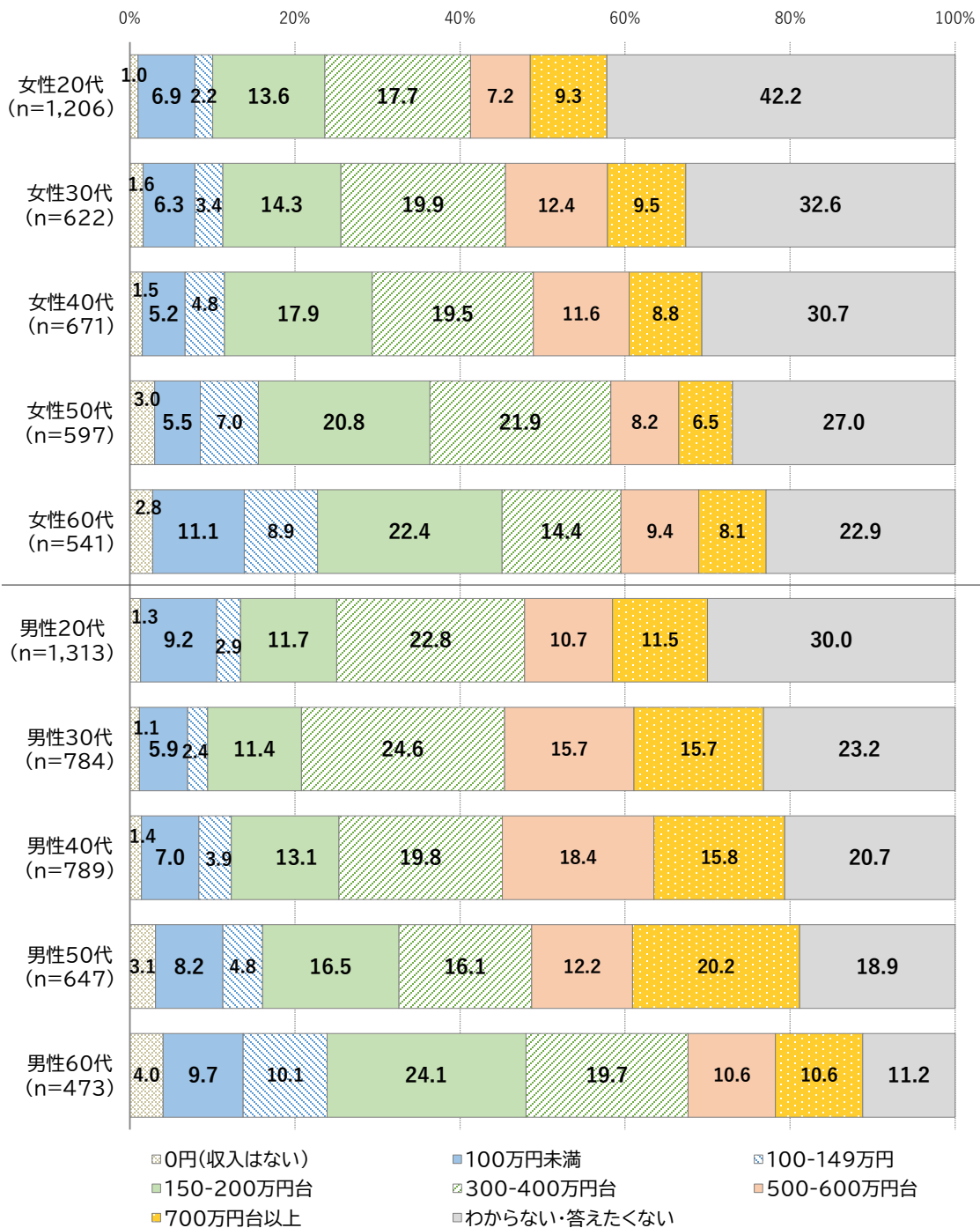
### 既婚



## (2) 世帯年収

・男女別・年代別に独身者の世帯年収を見てみると、女性では「20代」では4割以上が、「30-40代」でも3割以上が、「わからない・答えたくない」としており、個人年収での回答より割合が高い。  
 ・男性でも同様に、20-30代では「わからない・答えたくない」の割合が個人年収での回答に比べて高くなっている。

### 独身



### (3) 結婚後の収入の希望と現実

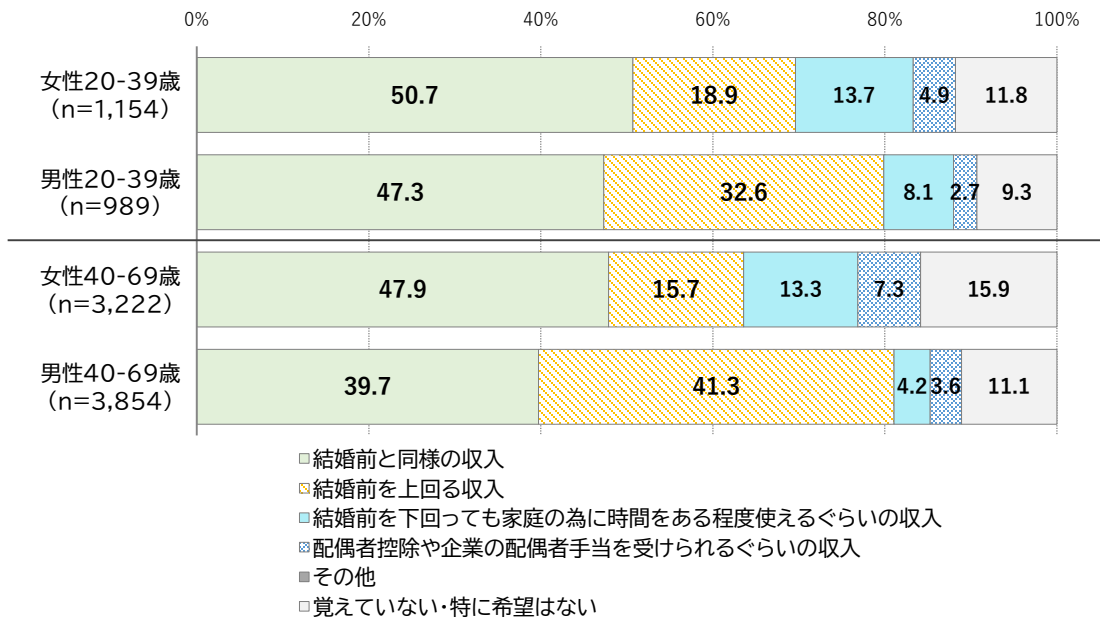
※結婚後（初婚）子供がいない時を想定

・結婚後の収入について、既婚者の「理想」では、「女性20-39歳」「女性40-69歳」「男性20-39歳」では「結婚前と同様の収入」が最も高く、5割前後。「男性40-69歳」では、「結婚前を上回る収入」「結婚前と同様の収入」がどちらも4割程度。

・既婚者の「現実」については、男女ともどの年代でも「結婚前と同様の収入」が高い。また、「理想」よりも「現実」の割合が5%ポイント以上下がる項目は、女性では「結婚前と同様の収入」、「女性20-39歳」では加えて「結婚前を上回る収入」。男性では「結婚前を上回る収入」。逆に「現実」の割合の方が「理想」に比べ高い項目（5%ポイント以上）は、女性では「配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらゐの収入」、「女性20-39歳」では加えて「結婚前を下回っても家庭の為に時間をある程度使えるぐらゐの収入」。

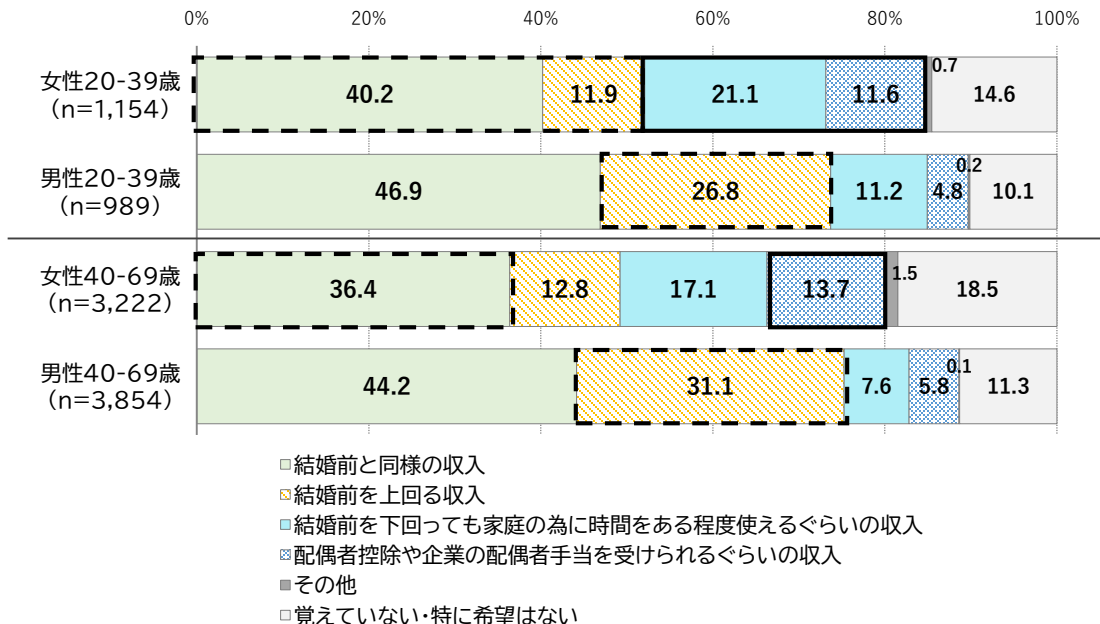
#### 既婚

##### 【結婚前の望み(理想)】



##### 【実際どうだったか(現実)】

※黒実線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上高い項目  
黒点線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上低い項目



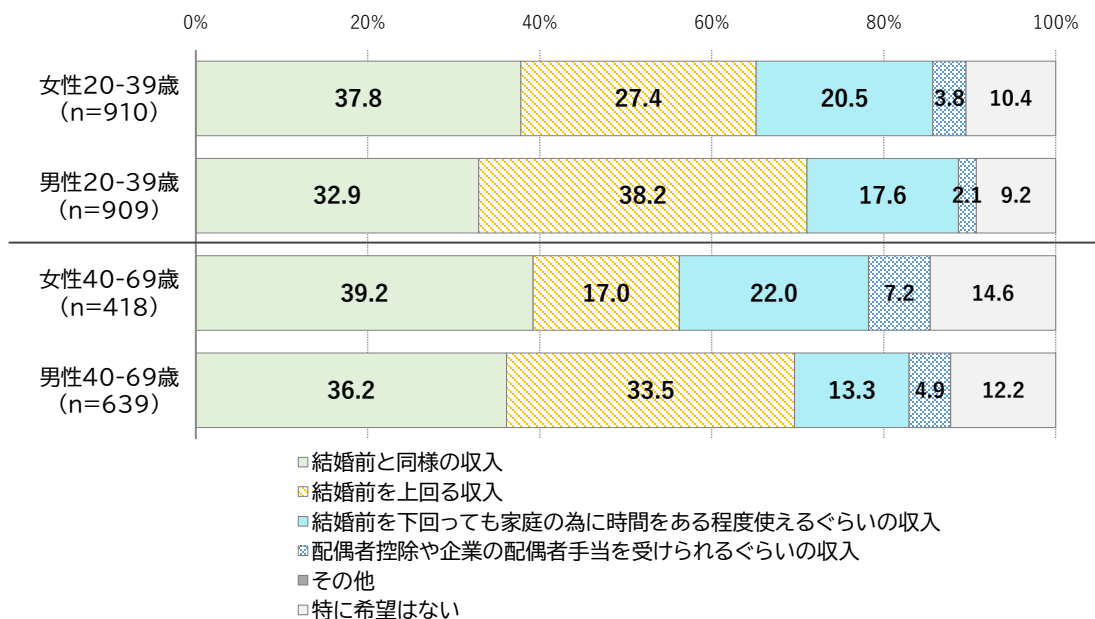
### (3) 結婚後の収入の希望

※結婚後（初婚）子供がいない時を想定

・結婚後の収入について、独身者の「理想」では、女性はその年代でも「結婚前と同様の収入」が最も高く、4割程度。男性は20-39歳では、「結婚前を上回る収入」が38.2%、「結婚前と同様の収入」が32.9%。40-69歳では、「結婚前と同様の収入」が36.2%、「結婚前を上回る収入」が33.5%。  
 ・男女ともに全ての年代で、既婚者と比べると、「結婚前を下回っても家庭の為に時間をある程度使えるぐらいの収入」の割合が高い。

#### 独身

#### 【結婚前の望み(理想)】



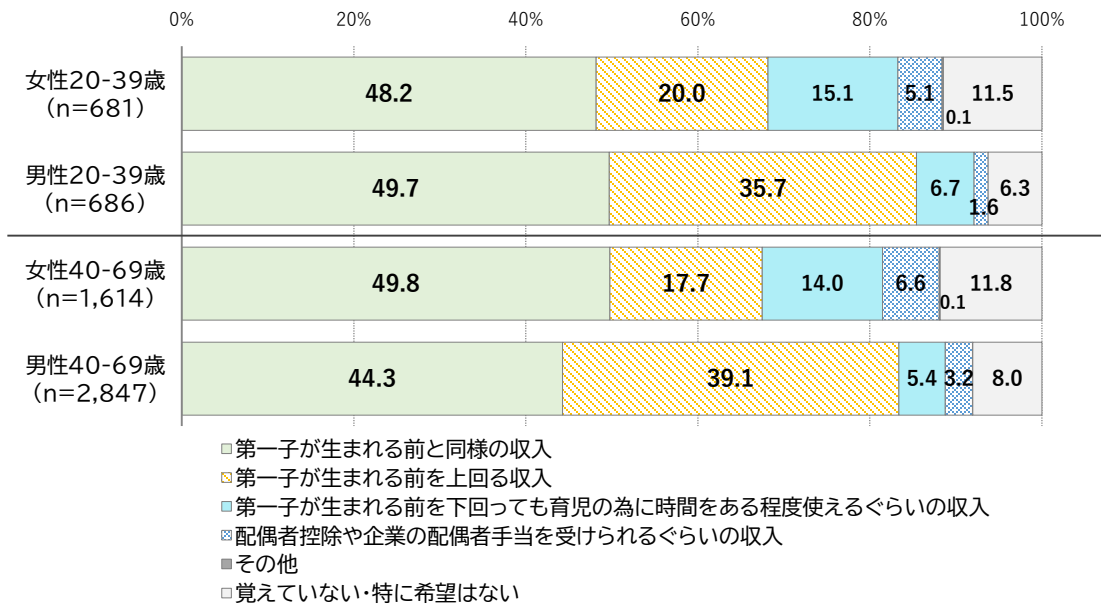
#### (4) 第一子が生まれた後の収入の希望と現実 ※第一子が生まれてから、子供が2~3歳のころを想定

・第一子が生まれた後の収入について、子供がいる人の「理想」では、男女ともに全ての年代で「第一子が生まれる前と同様の収入」が最も高く、4~5割程度。加えて男性では、「第一子が生まれる前を上回る収入」も4割弱となった。

・子供がいる人の「現実」については、男女ともにどの年代でも「第一子が生まれる前と同様の収入」が高い。また、「理想」よりも「現実」の割合が5%ポイント以上下がる項目は、女性では「第一子が生まれる前と同様の収入」「第一子が生まれる前を上回る収入」。男性では「第一子が生まれる前を上回る収入」。逆に「現実」の割合の方が「理想」に比べ高い項目(5%ポイント以上)は、女性では「配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらいの収入」、「女性20-39歳」では加えて「第一子が生まれる前を下回っても育児の為に時間をある程度使えるぐらいの収入」。「男性40-69歳」では、「第一子が生まれる前と同様の収入」。

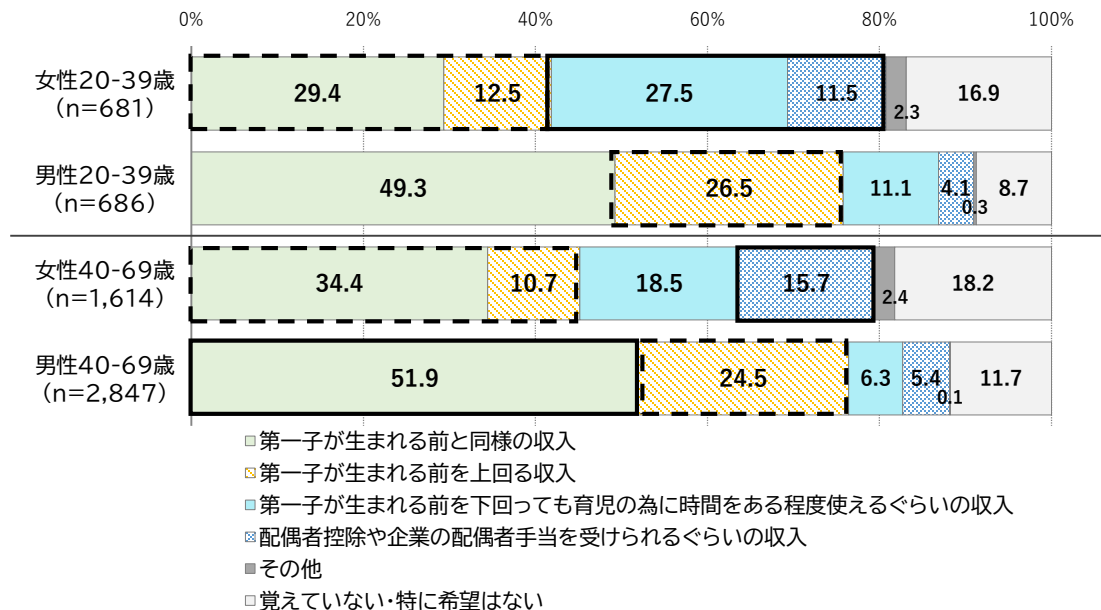
### 子供がいる

#### 【第一子が生まれる前の望み(理想)】



#### 【実際どうだったか(現実)】

※黒実線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上高い項目  
 黒点線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上低い項目



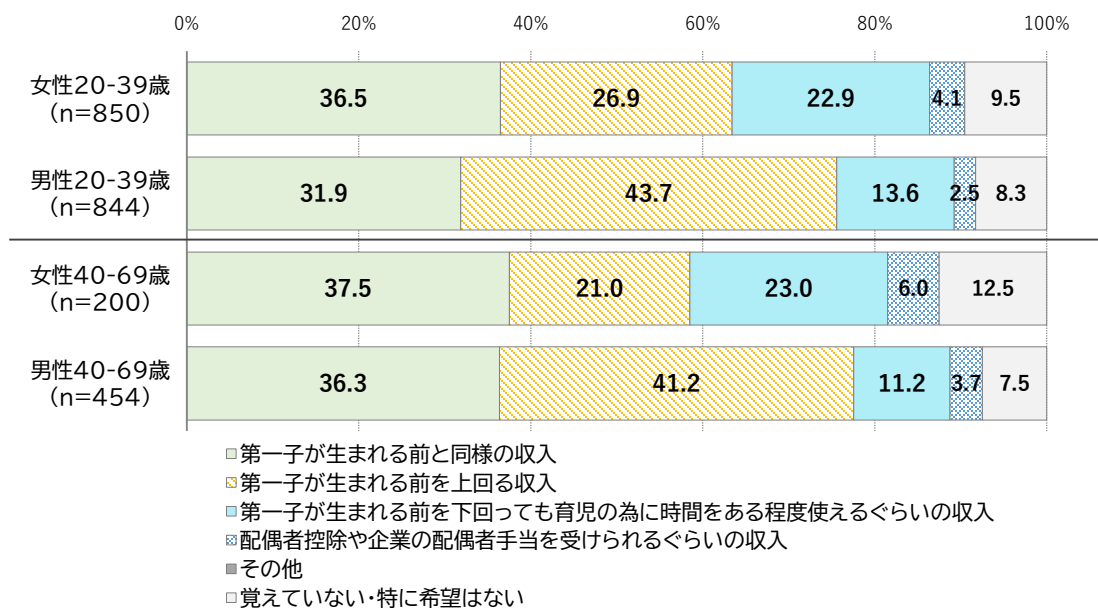
#### (4) 第一子が生まれた後の収入の希望

※第一子が生まれてから、子供が2~3歳のころを想定

- ・第一子が生まれた後の収入について、子供がいない人の「理想」では、女性はその年代でも「第一子が生まれる前と同様の収入」が最も高く4割弱。男性ではその年代でも「第一子が生まれる前を上回る収入」が4割強。
- ・男女ともに全ての年代で、子供がいる人と比べると、「第一子が生まれる前を下回っても育児の為に時間のある程度使えるぐらいの収入」の割合が高い。

#### 子供がいない

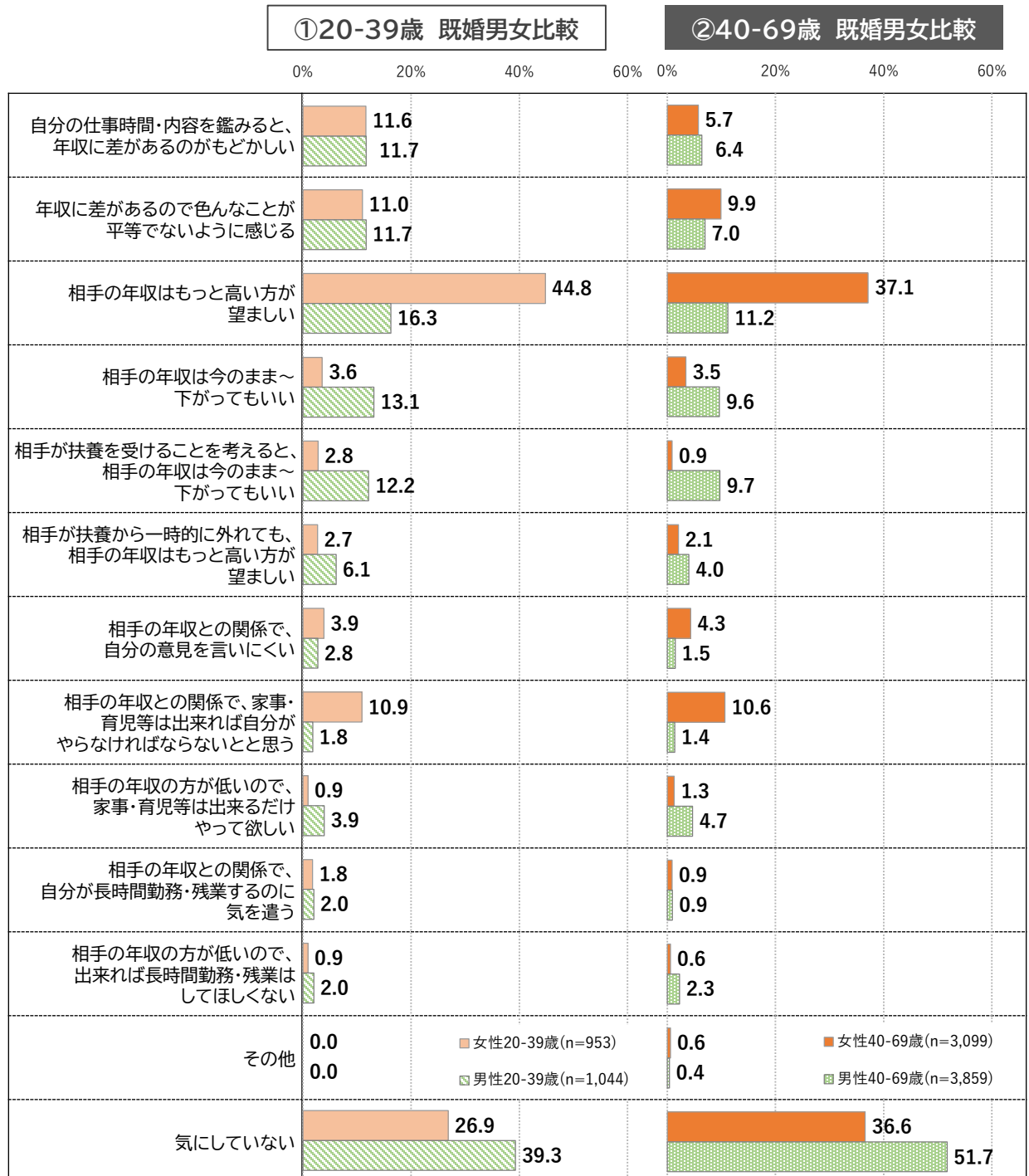
##### 【第一子が生まれる前の望み(理想)】



## (5) 配偶者との年収の違い

- ・既婚者の配偶者との年収の違いについて、男女ともに「気にしていない」が2割以上いるが、女性よりも男性で「気にしていない」とする割合が高く、「男性20-39歳」で39.3%、「男性40-69歳」で51.7%。
- ・20-39歳、40-69歳どちらの年代でも、女性で最も高い項目は「相手の年収はもっと高い方が望ましい」で、20-39歳で44.8%、40-69歳で37.1%と、若い女性の方が高い。
- ・他の項目で女性が男性を上回るものは、「相手の年収との関係で、家事・育児等は出来れば自分がやらなければならないと思う」など。逆に男性が女性を上回るものは、「相手の年収は今のまま～下がってもいい」「相手が扶養を受けることを考えると、相手の年収は今のまま～下がってもいい」など。

男女別・年代別（「当てはまる」＋「やや当てはまる」の累計値を掲載）



## 調査結果まとめ

### ◆個人年収について

- 1 既婚女性は、20-30代では3割前後が、40-50代では35%前後が、60代では45%が「100万円未満」。収入がない層も、20-50代では2割前後。
- 2 既婚女性と独身女性を比較すると、全年代で「100万円未満」が既婚女性の方が高く、30代以上では倍以上違う。また、個人年収の男女差は、特に既婚者で大きい。
- 3 配偶者との年収の違いについて、女性は男性に「もっと高い方が望ましい」、男性は女性に「(扶養等も考えて)今のまま～下がってもいい」という意識が高い。

- ・ 既婚女性の個人年収については、年収がある人のボリュームゾーンは全年代で「100万円未満」。20代で25.5%、30代で31.4%、40代で34.7%、50代で36.7%、60代で44.8%。「収入がない」割合は、20代で16.6%、30代で18.4%、40代で17.9%、50代で21.5%、60代で11.8%と、50代で最も高い。
- ・ 独身女性の個人年収について、既婚女性のボリュームゾーンである「100万円未満」の割合は、全年代で2割未満、「収入がない」割合も全年代で1割未満と、既婚女性と差が大きい。また、個人年収における男女差については、独身よりも既婚者でかなりの開きが見られた。
- ・ 既婚者における配偶者との年収の違いへの考え方について、男女別・年代別の傾向は、男性では4割以上、女性では3割前後が「気にしていない」としたものの、女性では男性に対して「相手の年収はもっと高い方が望ましい」と4割前後が考えており、特に20-39歳女性でその傾向が見られた。一方、男性においては、「相手の年収は今のまま～下がってもいい」「相手が扶養を受けることを考えると、相手の年収は今のまま～下がってもいい」がそれぞれ1割程度おり、男女における考え方の違いを裏付ける結果となった。一方、女性においては「相手の年収との関係で、家事・育児等は出来るだけ自分がやらなければならないと思う」もやや高い傾向。

### ◆結婚・子供を持つ事と働き方における、「理想」と「現実」のギャップ

- 1 結婚後・第一子誕生後ともに、既婚20-39歳女性の「理想」よりも「現実」で増えるのは、「収入が下回っても家庭に時間がとれる」「配偶者控除が受けられるぐらゐの収入」。
- 2 逆に、「理想」に対して「現実」の値が下回っている⇨そうしたいと思っていたが、思っていたより出来なかったものは、女性では「結婚前、第一子誕生前と同様の収入」。
- 3 結婚・第一子誕生前に、「その前よりも上回る収入」を望む割合は男性の方が高く、特に40代以上の男性で高い。

#### ・第一子が生まれた後の自分の収入 理想と現実 (選択肢抜粋)

対象者区分			理想				現実			
			第一子が生まれる前と同様の収入	第一子が生まれる前を上回る収入	第一子が生まれる前を下回っても育児の為にある程度時間を使えるぐらゐの収入	配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらゐの収入	第一子が生まれる前と同様の収入	第一子が生まれる前を上回る収入	第一子が生まれる前を下回っても育児の為にある程度時間を使えるぐらゐの収入	配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらゐの収入
既婚	20-39歳	女性	48.2%	20.0%	15.1%	5.1%	29.4%	12.5%	27.5%	11.5%
		男性	49.7%	35.7%	6.7%	1.6%	49.3%	26.5%	11.1%	4.1%
	40-69歳	女性	49.8%	17.7%	14.0%	6.6%	34.4%	10.7%	18.5%	15.7%
		男性	44.3%	39.1%	5.4%	3.2%	51.9%	24.5%	6.3%	5.4%



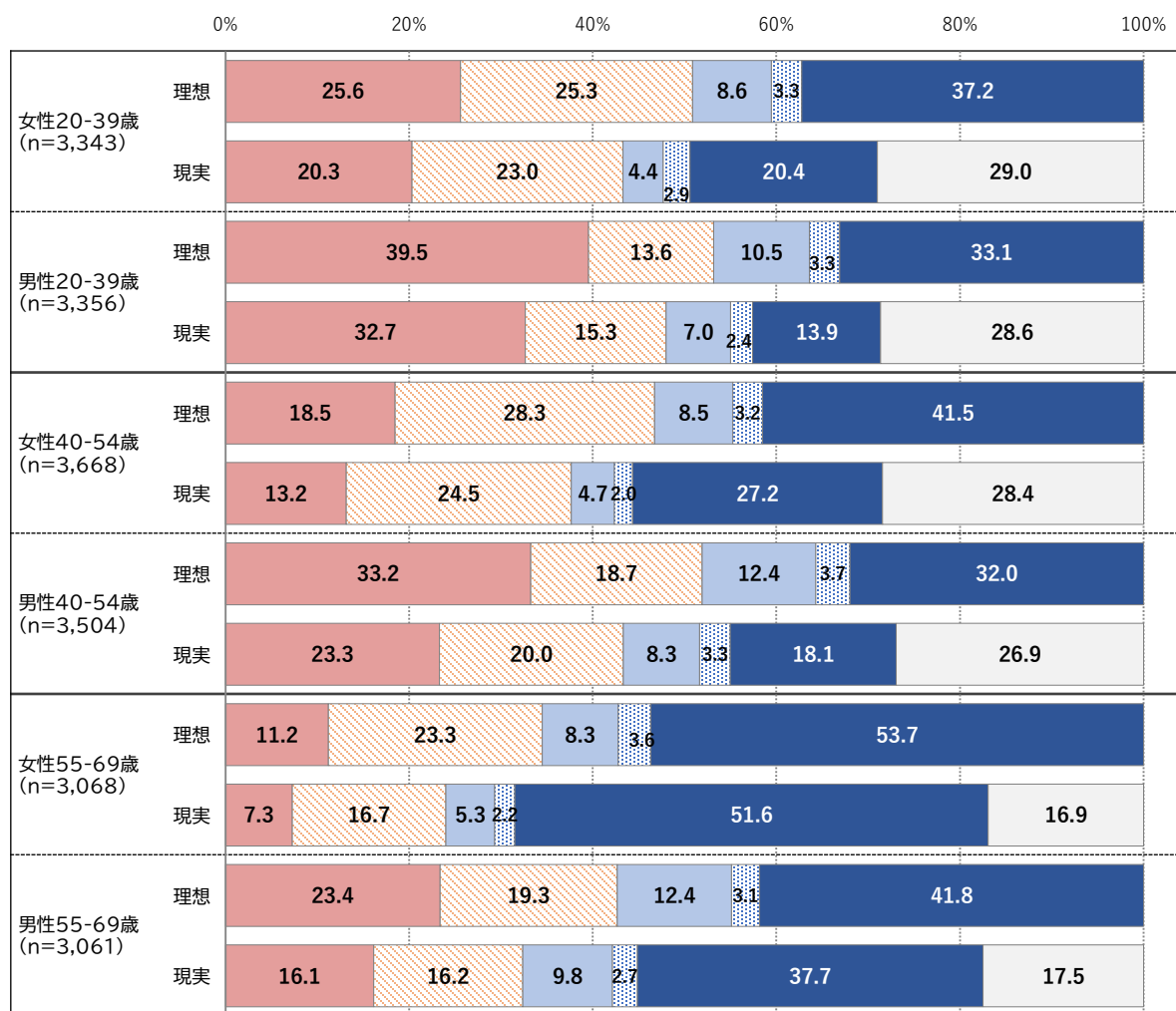
## 6. 老後の生活スタイル

### (1) 70歳の時の仕事

・70歳になった時の仕事の状況について、「理想」では、女性は、どの年代でも「働いていない」が最も高い。男性は20-39歳、40-54歳では「フルタイムで働いている」が3割以上と最も高く、55-69歳では「働いていない」が4割と最も高い。

・「現実どうなりそうか」では、女性は20-39歳、40-54歳で「わからない・考えられない」が3割弱と最も高いが、55-69歳では「働いていない」が5割と最も高くなる。男性は、20-39歳では「フルタイムで働いている」が32.7%、40-54歳では「わからない・考えられない」が26.9%、55-69歳では「働いていない」が37.7%とそれぞれ最も高い。

【理想の仕事の形と現実どうなりそうか】

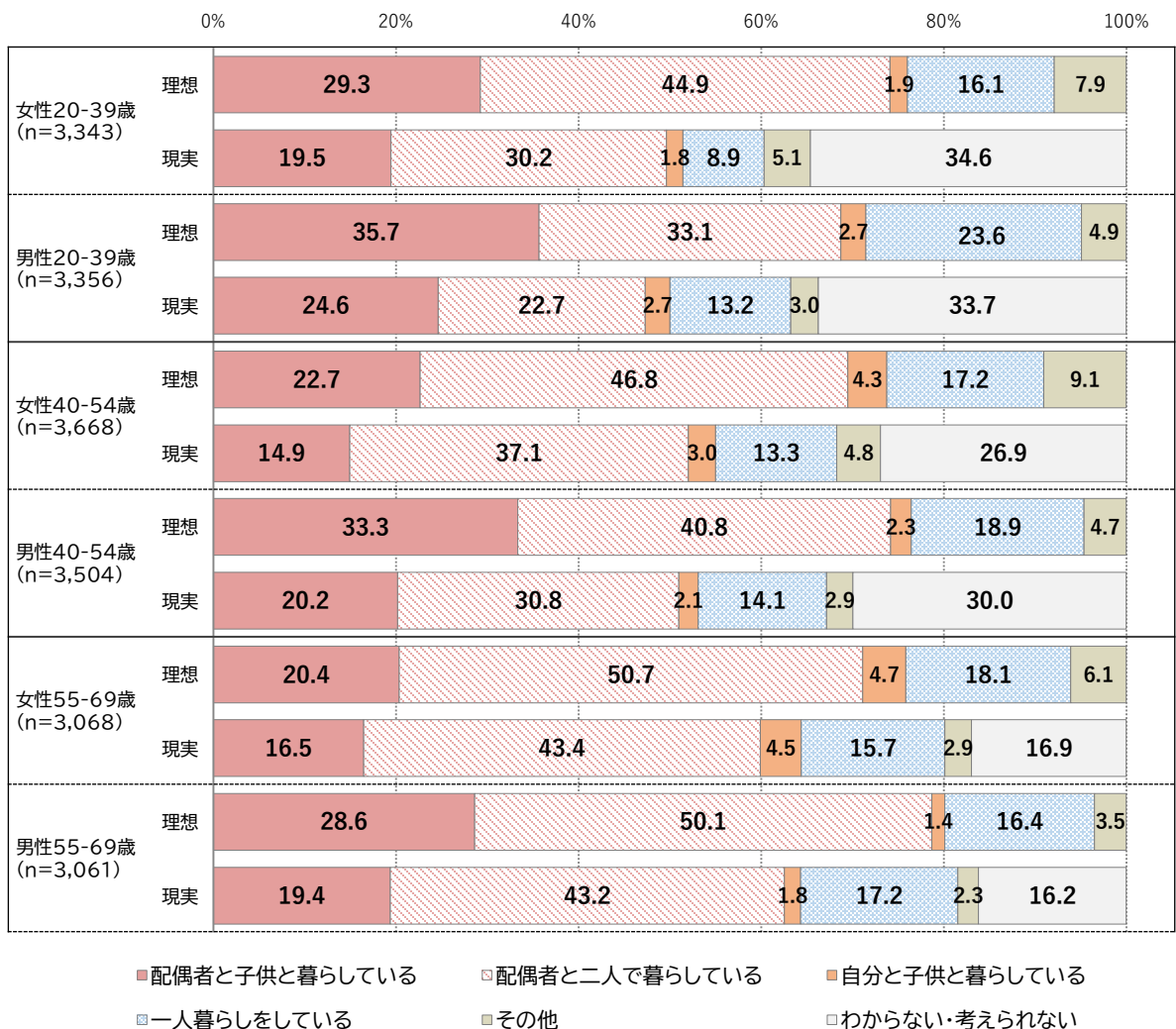


- フルタイムで働いている
- パートタイム・短時間勤務で働いている
- 自営業やフリーランスとして働いている
- その他の形で働いている
- 働いていない
- わからない・考えられない

## (2) 70歳時の家族と居住形態

- ・70歳になった時の家族と居住形態について、「理想」では、全ての年代において、女性は男性に比べて、「配偶者と二人で暮らしている」の割合が高く、特に20-39歳で差が大きい。また、男性は女性に比べて「配偶者と子供と暮らしている」の割合が高い。
- ・「理想」と同様に「現実どうなりそうか」でも、どの年代でも男性の方が「配偶者と子供と暮らしている」割合が高く、女性の方が「配偶者と二人で暮らしている」割合が高い。

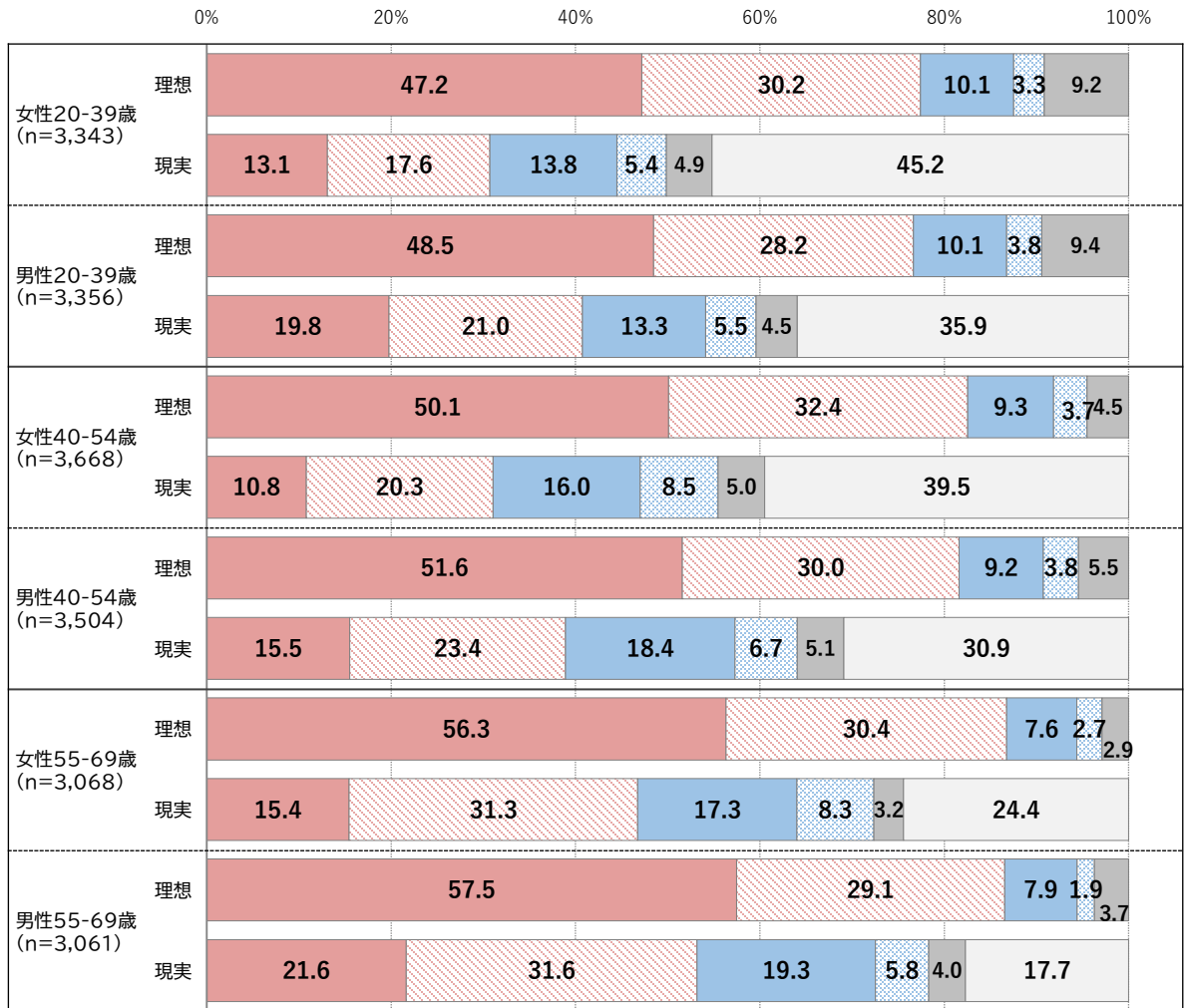
### 【理想の居住形態と現実どうなりそうか】



### (3) 70歳時の世帯収入

- ・70歳になった時の世帯収入について、「理想」ではどの年代も男女でそこまで大きな差は見られず、「月30万円以上」が最も高く、次に「月20万円台」が高い。年代が上がるにつれて、「月30万円以上」の割合が高くなる。
- ・「現実どうなりそうか」では、どの年代でも女性に比べて男性の方が金額が高い傾向にあり、女性の方が「わからない・考えられない」の割合が高い。

#### 【理想の世帯収入と現実どうなりそうか】



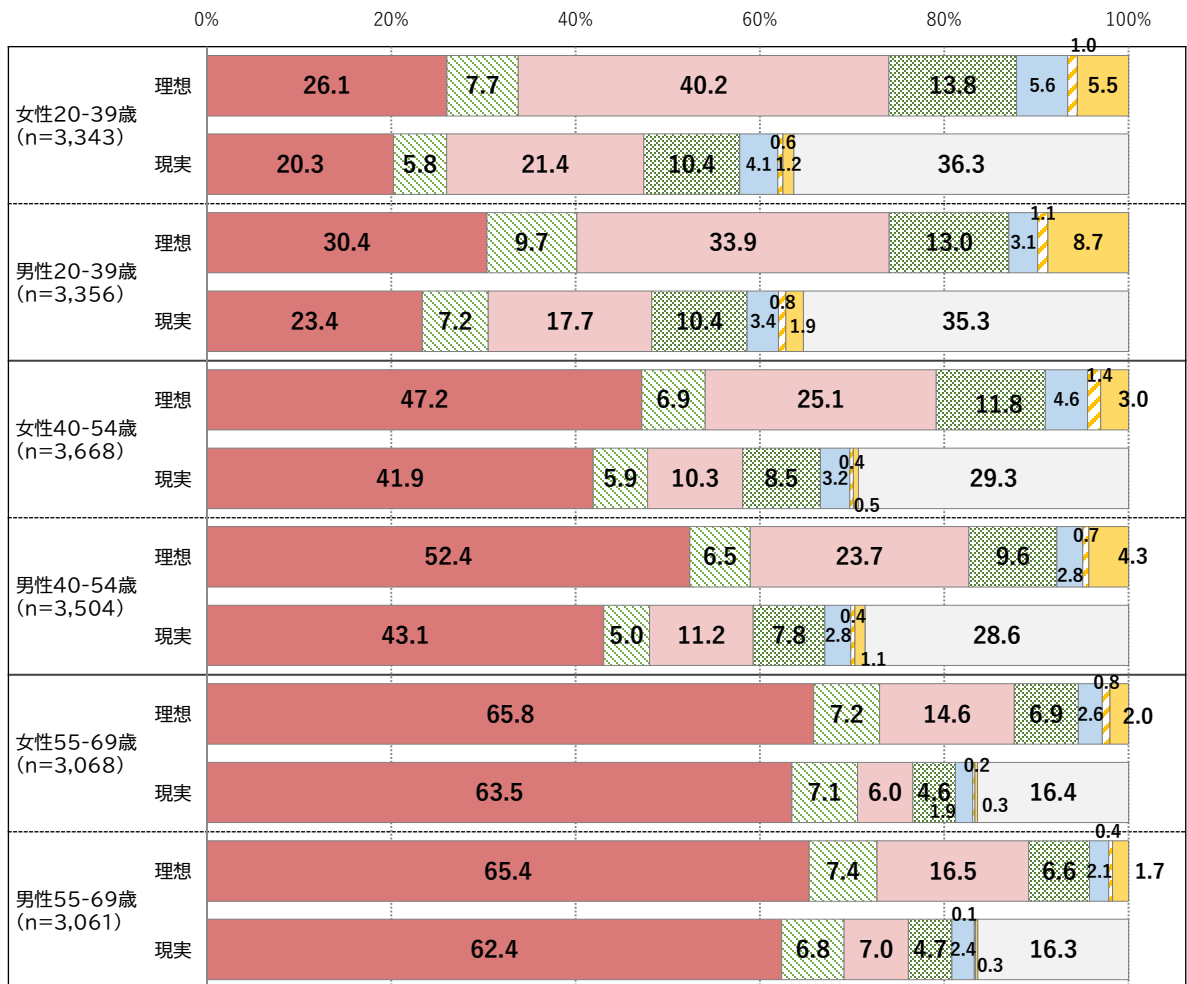
■月30万円以上 □月20万円台 ■月10万円台 □月10万円未満 ■収入なし □わからない・考えられない

#### (4) 70歳時の住まい

・70歳になった時の住まいについて、「理想」では、男女ともに20-39歳では「今とは別の持ち家に住んでいる」が最も高く、40-54歳、55-69歳では「今住んでいる持ち家に住み続けている」が最も高い。また、男女ともに20-39歳では、「ホテル住まいなど家を持たずに過ごしている」も一定数いる。

・「現実どうなりそうか」では、男女ともに20-39歳では「わからない・考えられない」が最も高く、40-54歳、55-69歳では「今住んでいる持ち家に住み続けている」が最も高い。

#### 【理想の住まいと現実どうなりそうか】

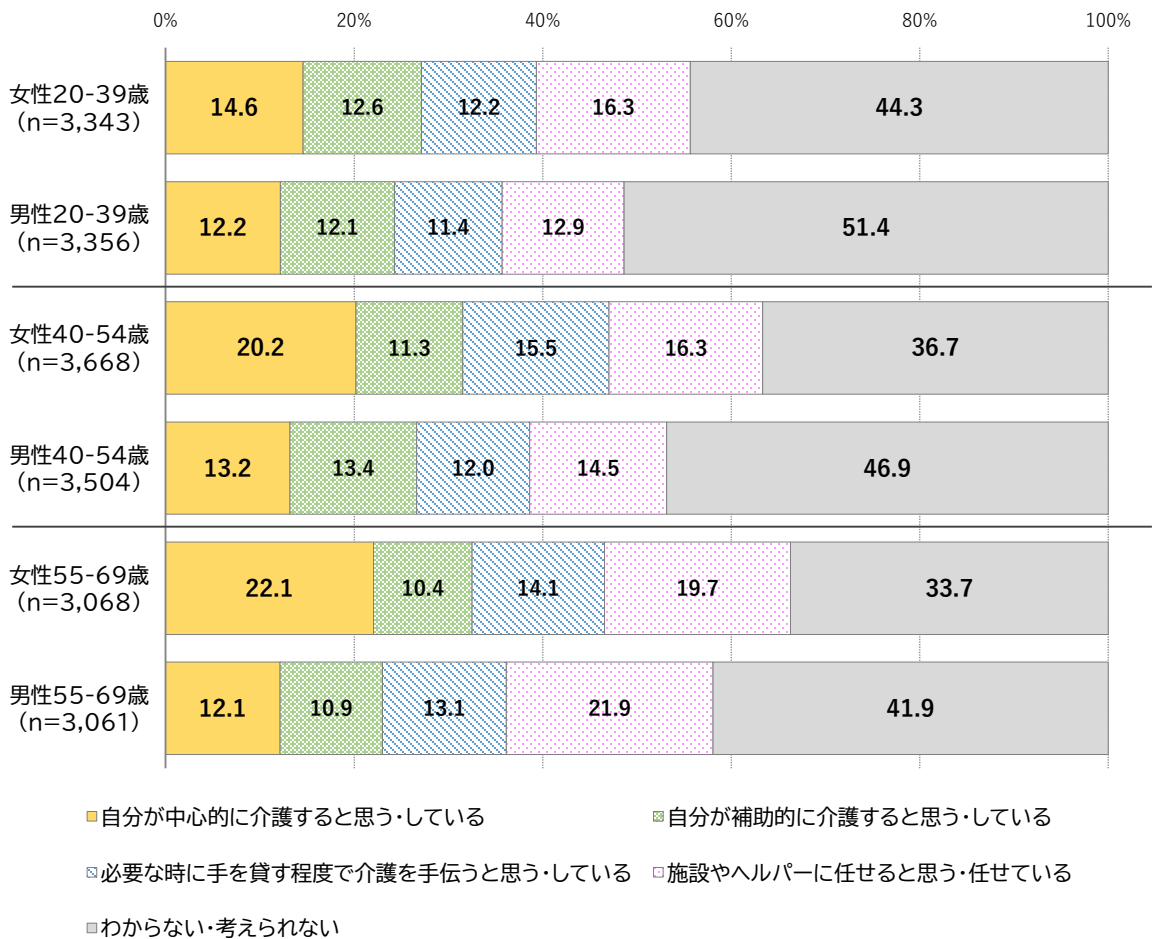


- 今住んでいる持ち家に住み続けている
- 今とは別の持ち家に住んでいる
- 老人ホームやグループホームなど施設に入所している
- シェアハウスに住んでいる
- ホテル住まいなど家を持たずに過ごしている
- 今住んでいる賃貸に住み続けている
- 今とは別の賃貸に住んでいる
- わからない・考えられない

## (5) 今後の自分の親の介護へのかかわり方

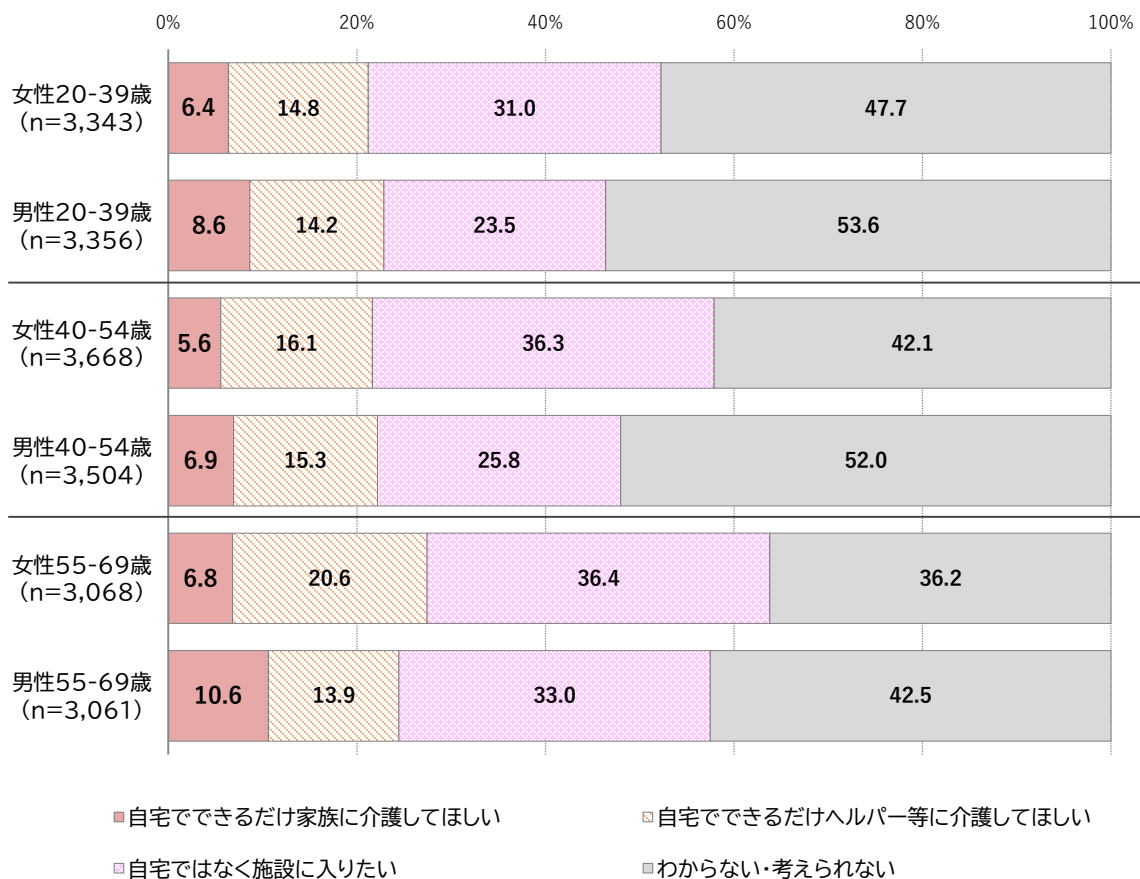
・今後の自分の親の介護へのかかわり方については、全ての年代において男性に比べて女性の方が「自分が中心的に介護すると思う・している」と回答した割合が多く、特に「女性40-54歳」で20.2%、「女性55-69歳」で22.1%と高い。

・全ての年代において女性に比べて男性の方が「わからない・考えられない」の割合が高い。



## (6) 自身が要介護になった時の介護の望み

・自身が要介護になった時の介護の望みについては、全ての年代で「わからない・考えられない」の次に「自宅ではなく施設に入りたい」が高く、特に「女性40-54歳」で36.3%、「女性55-69歳」で36.4%と高い。  
 ・55-69歳について見ると、「自宅でできるだけ家族に介護してほしい」では男性の方が高く(女性6.8%、男性10.6%)、「自宅でできるだけヘルパー等に介護してほしい」では女性の方が高い(女性20.6%、男性13.9%)。



## 調査結果まとめ

### ◆70歳になった時の生活スタイル

1

仕事について「理想」「現実どうなりそうか」ともにどの年代でも男性で「働いている」割合が高い。  
世帯収入の「現実どうなりそうか」では、どの年代でも男性の方が金額が高い。

2

居住形態の理想では、女性は男性よりも「配偶者と二人で暮らしている」割合が高く、男性は女性よりも「配偶者と子供と暮らしている」割合が高い。特に若い年代で大きく差が出ている。

3

仕事、居住形態、収入、住まいについて、70歳時に「実際どうなりそうか(現実)」は「わからない」とする割合が、54歳以下では3~4割いる。  
中でも最も「わからない」割合が高いのは、「70歳時の世帯収入」。

- 70歳になった時の仕事の状況については、「理想」では女性は「働いていない」が最も高い(20-39歳で37.2%、40-54歳で41.5%、55-69歳で53.7%)。男性は20-39歳、40-54歳で「フルタイムで働いている」がそれぞれ39.5%、33.2%と最も高く、55-69歳では「働いていない」が41.8%と最も高い。どの年代でも男性の方が「働いている」が高い傾向にある。「現実どうなりそうか」では、「わからない」の割合が男女ともに20-39歳、40-54歳では3割弱、55-69歳では2割弱いるが、「理想」と同様に男性の方が「働いている」の割合が高い。
- 世帯収入の「理想」では、男女ともどの年代でも「月30万円以上」が最も高く(5割弱~6割弱)、次に「月20万円以上」となる(3割前後)。「現実どうなりそうか」では、どの年代でも女性に比べて男性の方が金額が高い傾向にあり、女性の方が「わからない・考えられない」の割合が高い。
- 居住形態については、「理想」では全ての年代において女性の方が「配偶者と二人で暮らしている」の割合が高く、特に20-39歳で差が大きい(女性44.9%、男性33.1%)。一方、「配偶者と子供と暮らしている」の割合は男性の方が高い。
- 住まいについては、「理想」では若い年代(20-39歳)の男女で「今とは別の持ち家に住んでいる」が最も高く(3~4割)、上の年代(40-54歳、55-69歳)で「今住んでいる持ち家に住み続けている」が最も高くなっており(5割弱~6割強)、性別よりも年代による差が大きい。
- 仕事・居住形態・収入・住まいについての「70歳時の現実予想(実際どうなりそうか)」は、70歳までまだ遠い20-39歳、また40-54歳でも「わからない」とする割合が3~4割と多く、現実問題として考えられていないとも推測される。中でも最も「わからない」が高い(どうなるか予測できない)ものは、「70歳時の収入」だった。

### ◆介護の状況について

1

今後の親の介護へのかかわり方は、女性の全ての年代で「自分が中心的に介護すると思う・している」が男性に比べやや高い。一方「わからない」はより男性で高い。

2

自身が要介護になった時の望みでは、女性では全年代で「自宅ではなく施設に入りたい」が3割以上。一方「わからない」はより男性で高い。

・今後の自分の親の介護へのかかわり方

対象者区分		自分が中心的に介護すると思う・している	わからない・考えられない
20-39歳	女性	14.6%	44.3%
	男性	12.2%	51.4%
40-54歳	女性	20.2%	36.7%
	男性	13.2%	46.9%
55-69歳	女性	22.1%	33.7%
	男性	12.1%	41.9%

※30%以上に黄色色掛け

・自身が要介護になった時の望み

対象者区分		自宅ではなく施設に入りたい	わからない・考えられない
20-39歳	女性	31.0%	47.7%
	男性	23.5%	53.6%
40-54歳	女性	36.3%	42.1%
	男性	25.8%	52.0%
55-69歳	女性	36.4%	36.2%
	男性	33.0%	42.5%

※30%以上に黄色色掛け

## 7. 生活全般への考え方や満足度・将来不安

### (1) 現在の不安、将来の不安

・現在の不安について、女性では「当てはまる+やや当てはまる」の値が最も高いものは、「生活がぎりぎり、貯金ができない」で30.8%、次いで「子供の育児に掛る費用や教育費負担が大変である(子供がいる人のみ)」で22.7%。

・将来の不安は、現在の不安と比べ30%を超える項目が多く見られ、特に「高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない」が最も高く34.9%。次いで「高齢になっても働かないといけなくなる」が33.4%の順。

※30%を超えるセルに色掛け

#### 女性

		0%	20%	40%	60%	80%	100%	当てはまる +やや当て はまる	
現在の不安	衣食住に困ることがある	n=10,079	4.2	8.5	22.8	15.2	49.4	12.7%	
	生活がぎりぎり、貯金ができない	n=10,079	14.6	16.2	22.9	14.0	32.4	30.8%	
	借金返済(住宅ローン、奨学金含む)が重荷である	n=10,079	7.3	10.7	20.6	9.9	51.6	17.9%	
	家事や子育て、介護負担が大変である	n=10,079	4.1	11.0	24.6	13.1	47.3	15.0%	
	子供の育児に掛る費用や教育費負担が大変である※子供がいる人のみ	n=5,775	8.2	14.6	20.2	10.4	46.6	22.7%	
	仕事時間が長時間・残業が多く、なかなか休めない※有職者のみ	n=5,838	2.9	9.2	25.5	16.5	45.8	12.2%	
	仕事で精神的な疲労が溜まっているが、なかなか休めない※有職者のみ	n=5,838	6.4	14.2	27.4	15.1	36.9	20.6%	
	家族から暴力(DV・ドメスティックバイオレンス)を受けている	n=10,079	1.0	3.9	16.4	7.6	71.1	4.9%	
	家族の中に居場所がないと感じる	n=10,079	2.5	5.4	20.3	9.9	61.9	7.9%	
	周りに親しい人がおらず孤立している	n=10,079	4.7	9.5	24.9	13.5	47.4	14.2%	
将来の不安	仕事以外の時間を楽しめない・することがなくなる	n=10,079	3.0	8.0	24.1	13.1	43.4	8.4	11.0%
	子供が自立できない・面倒をみないといけなくなる	n=10,079	2.6	6.9	22.5	9.8	43.8	14.3	9.5%
	自分の周りに頼る人・面倒を見てくれる人がいなくなる	n=10,079	9.4	14.7	26.9	10.9	27.5	10.7	24.1%
	自分の周りに一緒に時間を過ごす・住む人間がいなくなる	n=10,079	8.5	14.4	27.6	11.6	27.4	10.5	22.8%
	高齢になっても十分な生活ができなくなる	n=10,079	13.6	19.0	26.8	9.9	19.4	11.4	32.6%
	高齢になっても十分な介護が受けられなくなる	n=10,079	12.2	17.4	29.7	9.4	18.6	12.6	29.6%
	高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない	n=10,079	17.3	17.5	25.1	9.9	18.9	11.2	34.9%
	高齢になっても働かないといけなくなる	n=10,079	13.4	17.1	26.5	10.2	20.9	11.9	30.5%
	高齢になっても身体が不自由になり、誰かの介助が必要になる	n=10,079	14.0	19.4	29.5	8.0	15.3	13.9	33.4%
	高齢になっても孤立してしまう	n=10,079	12.6	15.7	31.0	9.8	17.8	13.2	28.3%

■ 当てはまる                      □ やや当てはまる                      □ どちらとも言えない  
 □ やや当てはまらない                      ■ 当てはまらない                      □ わからない・考えられない



# (1) 現在の不安、将来の不安

・現在の不安について、男性で「当てはまる+やや当てはまる」の値が最も高いものは、「生活がぎりぎり、貯金ができない」で28.1%。ただし、女性30.8%に比べその値は低い。

・将来の不安について、「高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない」27.5%が最も高く、女性と共通。次いで「高齢になっても働かないといけなくなる」「高齢になっても身体が不自由になり、誰かの介助が必要になる」がどちらも26.2%となる。

※30%を超えるセルに色掛け

## 男性

		0%	20%	40%	60%	80%	100%	当てはまる +やや当て はまる	
現在の不安	衣食住に困ることがある	n=9,921	4.8	9.6	30.9	15.9	38.7	14.5%	
	生活がぎりぎり、貯金ができない	n=9,921	12.0	16.1	31.3	14.5	26.1	28.1%	
	借金返済(住宅ローン、奨学金含む)が重荷である	n=9,921	6.4	11.3	29.2	12.3	40.7	17.7%	
	家事や子育て、介護負担が大変である	n=9,921	3.3	9.4	32.9	13.9	40.5	12.7%	
	子供の育児に掛る費用や教育費負担が大変である※子供がいる人のみ	n=4,941	5.7	14.7	30.1	13.0	36.6	20.4%	
	仕事時間が長時間・残業が多く、なかなか休めない※有職者のみ	n=8,235	4.5	11.7	35.0	17.5	31.2	16.2%	
	仕事で精神的な疲労が溜まっているが、なかなか休めない※有職者のみ	n=8,235	6.4	14.1	36.1	16.0	27.4	20.5%	
	家族から暴力(DV・ドメスティックバイオレンス)を受けている	n=9,921	1.4	4.9	25.7	9.3	58.7	6.4%	
	家族の中に居場所がないと感じる	n=9,921	3.2	7.1	30.9	12.2	46.5	10.3%	
	周りに親しい人がおらず孤立している	n=9,921	4.9	9.3	34.8	14.4	36.6	14.3%	
将来の不安	仕事以外の時間を楽しめない・することがなくなる	n=9,921	3.3	9.7	33.1	14.4	30.6	8.8	13.0%
	子供が自立できない・面倒をみないといけなくなる	n=9,921	2.3	7.6	31.3	11.6	32.3	14.8	10.0%
	自分の周りに頼る人・面倒を見てくれる人がいなくなる	n=9,921	6.6	12.5	35.9	12.3	21.1	11.6	19.1%
	自分の周りに一緒に時間を過ごす・住む人間がいなくなる	n=9,921	6.6	11.6	36.1	12.7	21.5	11.4	18.3%
	高齢になっても十分な生活ができなくなる	n=9,921	9.1	16.4	34.9	11.6	16.4	11.6	25.5%
	高齢になっても十分な介護が受けられなくなる	n=9,921	8.2	15.8	36.8	11.2	15.5	12.5	24.0%
	高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない	n=9,921	12.5	15.0	34.1	11.1	16.3	11.0	27.5%
	高齢になっても働かないといけなくなる	n=9,921	10.6	15.6	34.7	10.7	16.7	11.6	26.2%
	高齢になっても身体が不自由になり、誰かの介助が必要になる	n=9,921	8.9	17.3	37.3	9.8	13.3	13.5	26.2%
	高齢になっても孤立してしまう	n=9,921	9.5	14.7	37.6	10.5	14.5	13.1	24.3%

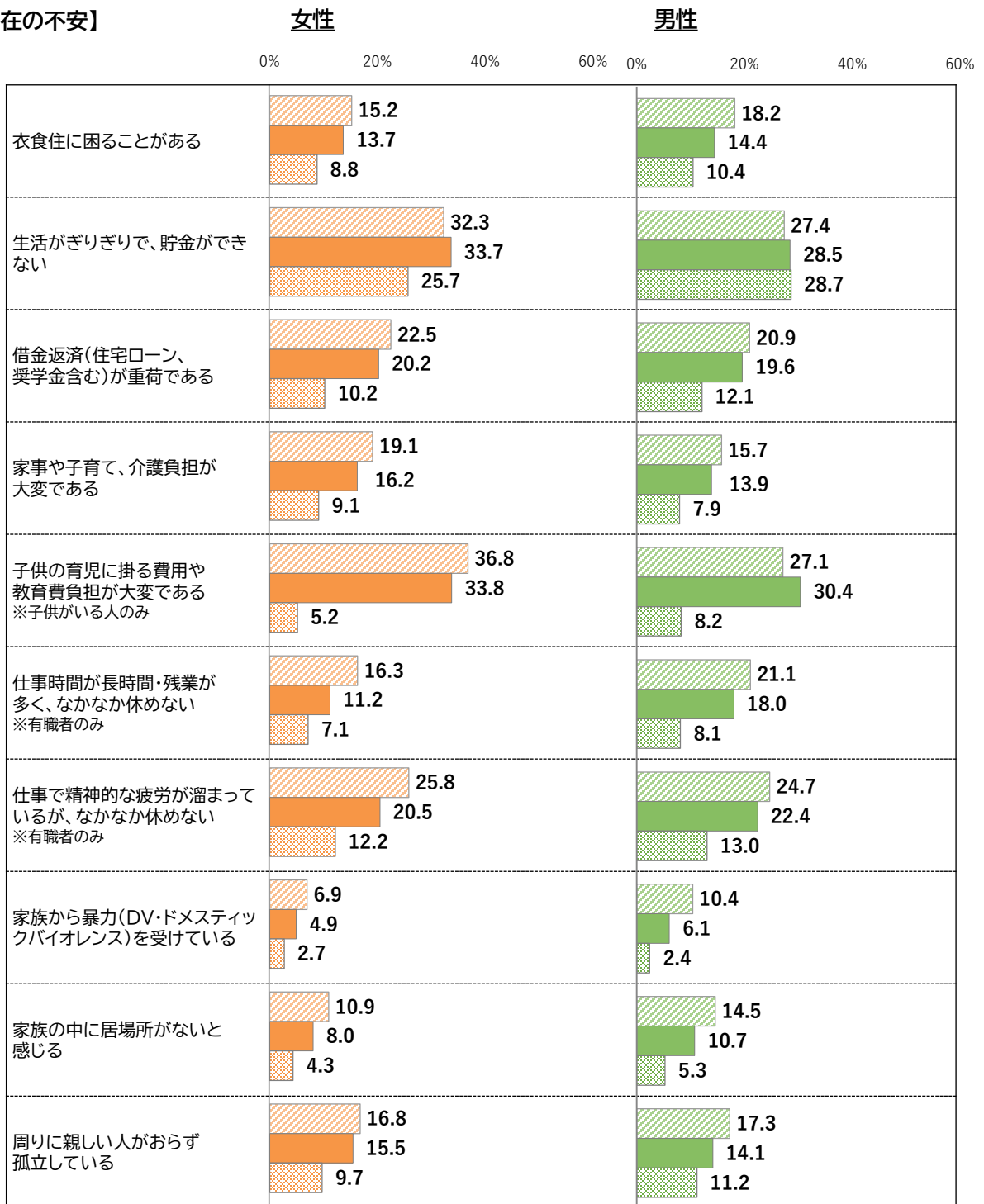
■ 当てはまる      ■ やや当てはまる      ■ どちらとも言えない  
 ■ やや当てはまらない      ■ 当てはまらない      ■ わからない・考えられない

## (1) 現在の不安、将来の不安

・現在の不安について、男女別・年代別に見ると、女性は、全体で最も高かった「生活がぎりぎりで、貯金ができない」が、20-39歳、40-54歳で3割を超える一方、50-69歳では25.7%。その他、子供がいる人が対象の「子供の育児に掛かる費用や教育費負担が大変である」、「借金返済(住宅ローン、奨学金含む)が重荷である」も同様に、20-39歳、40-54歳で高い。

・男性では「生活がぎりぎりで、貯金ができない」は年代に関わらず3割弱。「子供の育児に掛かる費用や教育費負担が大変である」については、「20-39歳」「40-54歳」どちらの年代でも、女性に比べ男性の方が低い。

### 【現在の不安】



□ 女性20-39歳(n=3,343)

■ 女性40-54歳(n=3,668)

▨ 女性55-69歳(n=3,068)

□ 男性20-39歳(n=3,356)

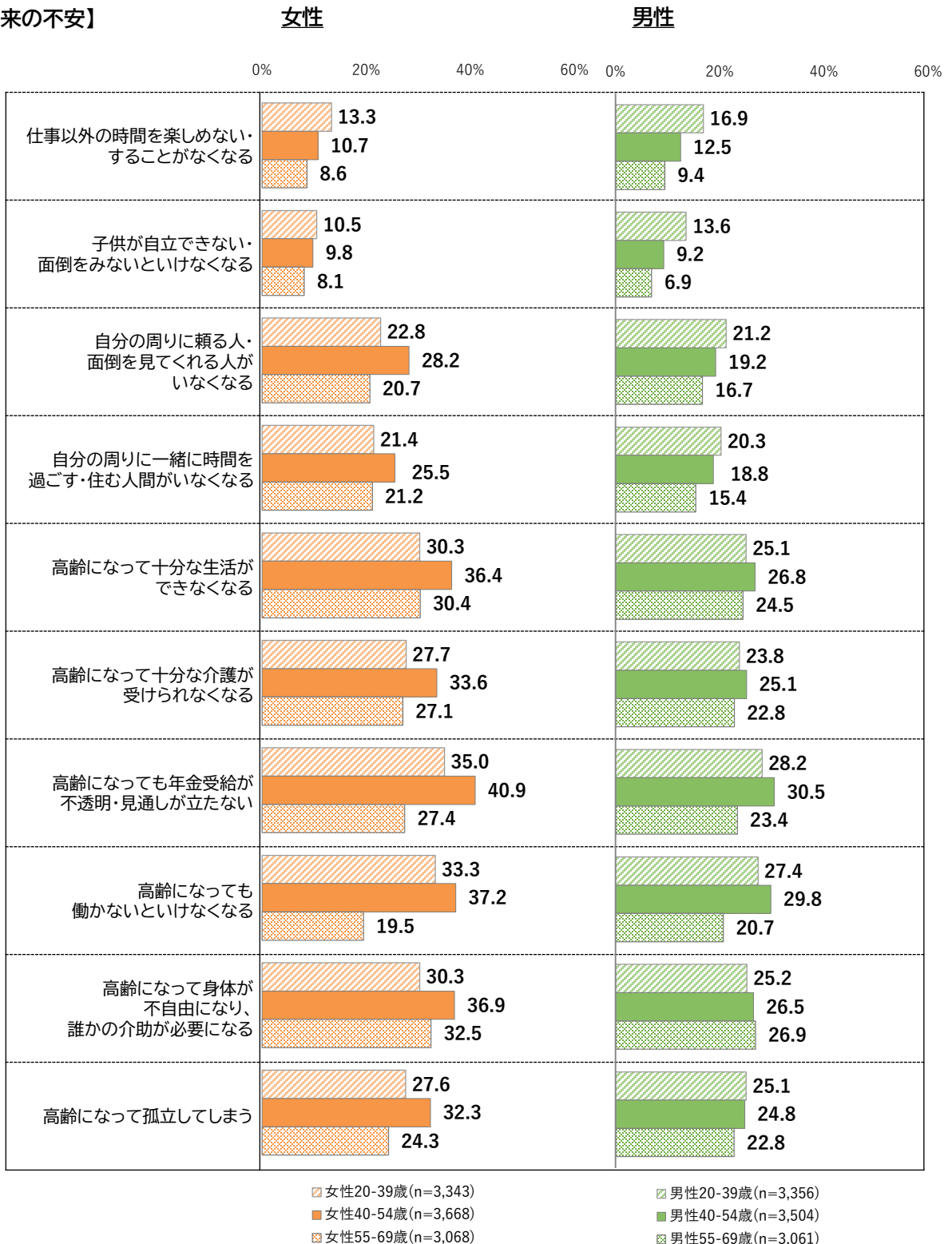
■ 男性40-54歳(n=3,504)

▨ 男性55-69歳(n=3,061)

## (1) 現在の不安、将来の不安

- ・将来の不安について、女性では「40-54歳」が他年代に比べ最も高い項目が多く、中でも「高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない」40.9%が最も高く、次いで「高齢になっても働かないといけなくなる」37.2%も高い。
- ・男性でも「40-54歳」の値が最も高い項目が多い点は女性と同様の傾向も、他年代との差は、女性と比べ小さい。

### 【将来の不安】

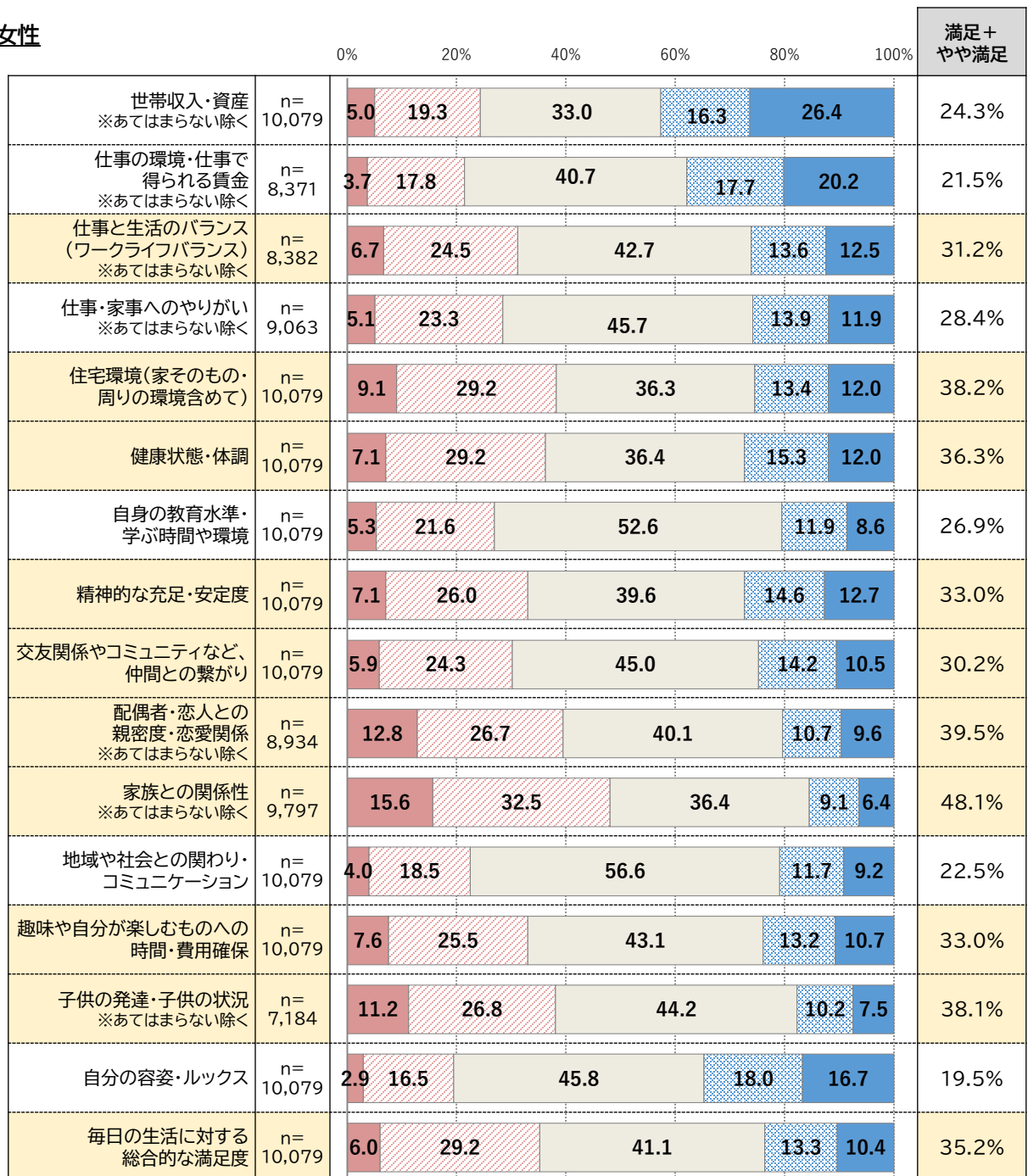


## (2) 現在の満足度

- ・現在の満足度について、女性で「満足+やや満足」の合計が最も高いのは「家族との関係性」で、48.1%と唯一4割を超える項目。次いで「配偶者・恋人との親密度・恋愛関係」39.5%、「住宅環境(家そのもの・周りの環境含めて)」38.2%、「子供の発達・子供の状況」38.1%の順。
- ・一方で、「満足していない+やや満足していない」の合計が最も高いのは、「世帯収入・資産」で42.7%、次いで「仕事の環境・仕事で得られる賃金」が37.9%。

※30%を超えるセルに色掛け

### 女性



■ 満足      □ やや満足      □ どちらとも言えない  
 ■ やや満足していない      ■ 満足していない

※「あてはまらない」がある項目は除外して集計（回答対象数が異なる）

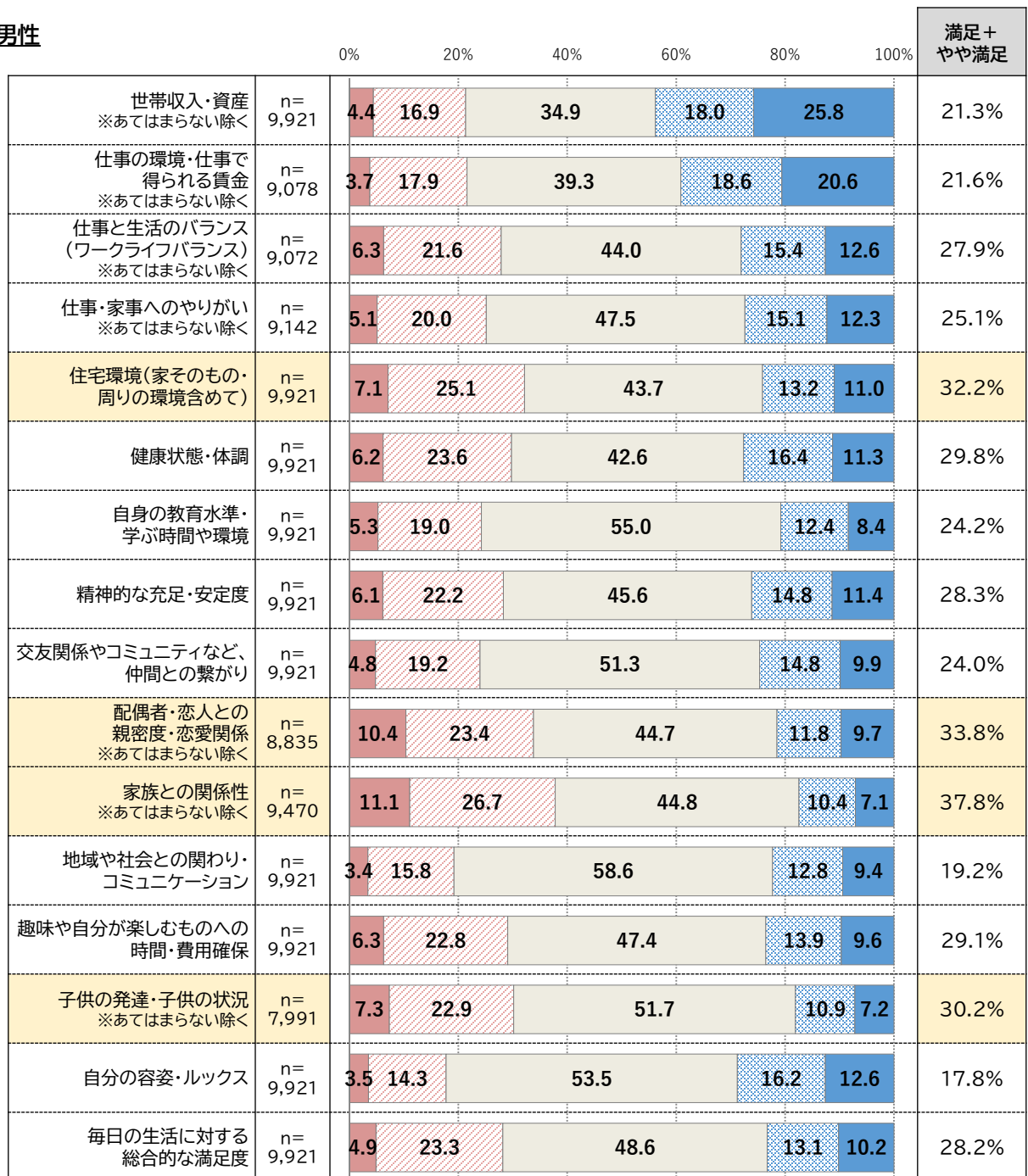
## (2) 現在の満足度

・現在の満足度について、男性で「満足+やや満足」の値が最も高いのは「家族との関係性」で37.8%、次いで「配偶者・恋人との親密度・恋愛関係」33.8%、「住宅環境(家そのもの・周りの環境含めて)」32.2%、「子供の発達・子供の状況」30.2%と、傾向は「女性」と同様。ただし、多くの項目において「女性」より満足度の値は低い。

・一方で、「満足していない+やや満足していない」の値が最も高いのは、女性と同じく「世帯収入・資産」43.8%、次いで「仕事の環境、仕事で得られる賃金」が39.2%。

※30%を超えるセルに色掛け

### 男性



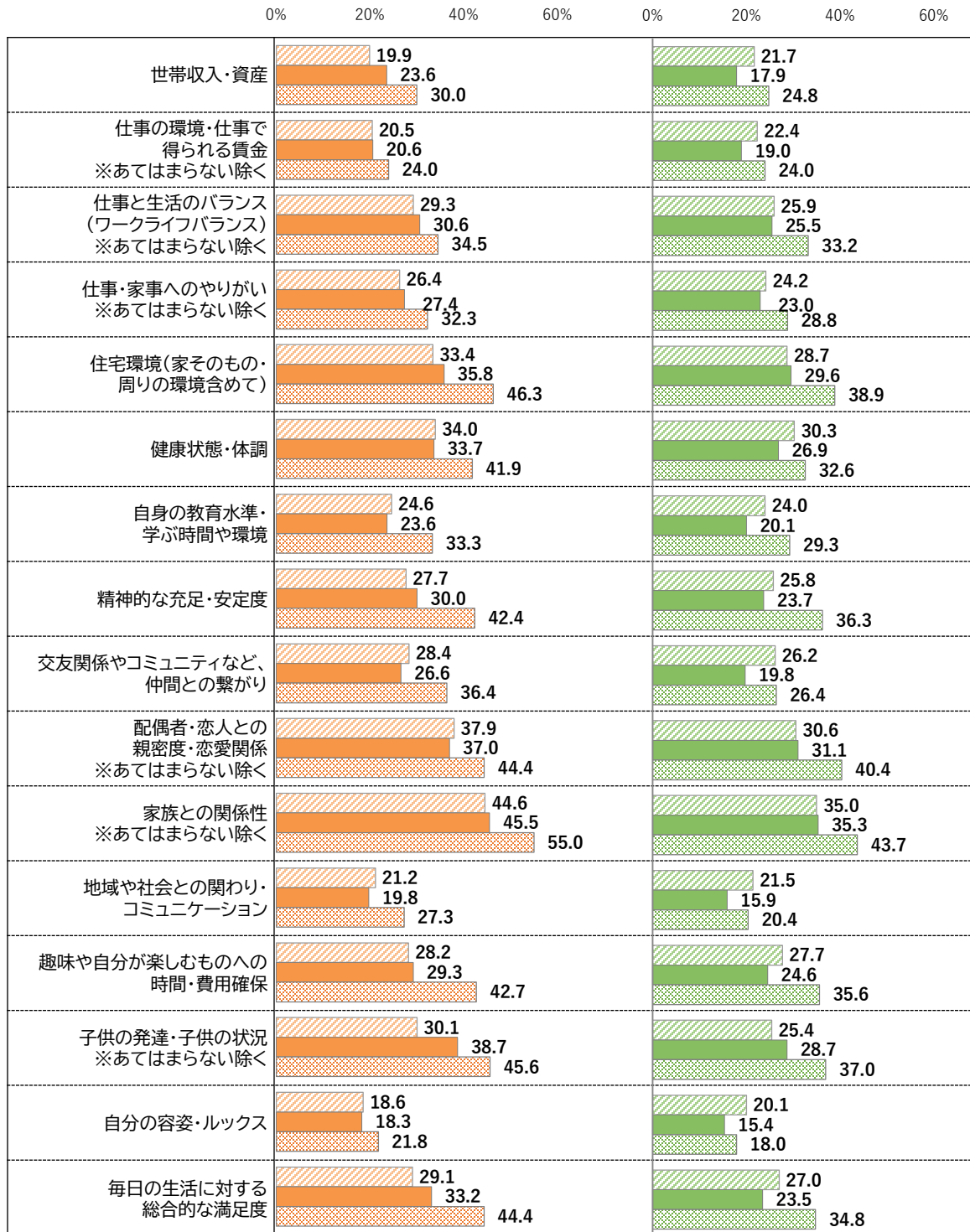
■ 満足      □ やや満足      □ どちらとも言えない  
 ■ やや満足していない      ■ 満足していない

※「あてはまらない」がある項目は除外して集計（回答対象数が異なる）

## (2) 現在の満足度

・現在の満足度について、男女別・年代別に見ると、「毎日の生活に対する総合的な満足度」は男女ともに「55-69歳」で最も高く、特に「女性55-69歳」で44.4%。女性では年代が若いほど総合満足度は低くなるが、男性では「40-54歳」が最も低く、23.5%。

・男女ともに満足度が最も高かった「家族との関係性」では、男女ともに「55-69歳」の値が高く、特に「女性55-69歳」で55.0%と半数以上を占める。逆に満足度が低かった「世帯収入・資産」「仕事の環境・仕事で得られる賃金」については、女性では年代が若くなるほど低く、男性では「40-54歳」で最も低い。



※「あてはまらない」がある項目は除外して集計(回答対象数が異なる)  
※満足度は、「満足」+「やや満足」の累計値

■ 女性20-39歳(n=3,343)  
■ 女性40-54歳(n=3,668)  
■ 女性55-69歳(n=3,068)

■ 男性20-39歳(n=3,356)  
■ 男性40-54歳(n=3,504)  
■ 男性55-69歳(n=3,061)

### (3) 幸福度

・「20歳のころ」の幸福度について、男女ともに年代が高いほど幸福率(6以上の合計)は高く、「女性55-69歳」で63.3%と最も高い。一方で、最も低いのは「男性21-39歳」で38.6%。同年代の「女性」と比べても5%ポイント程度下回る。

・「現在」の幸福度については、「20歳のころ」と同様に、男女ともに年代が高いほど幸福率(6以上の合計)は高く、「女性55-69歳」で60.8%と最も高い。最も低いのは「20歳のころ」と同様に、「男性20-39歳」で38.1%となった。

・「20歳のころ」と「現在」の幸福度の比較では、「現在」は「55-69歳」で男女ともに減少しており、特に男性は5.9%ポイント減少。

※幸福率とは6以上の合計  
※50%を超えるセルに色掛け

#### 【20歳のころの幸福度(※20歳の人を除く)】

	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	幸福率	
女性21-39歳 (n=3,251)	4.6 1.3	3.5	5.8	6.3	34.5			9.5	11.7	11.9	5.3	5.6	43.9%
男性21-39歳 (n=3,255)	4.1 1.6	3.6	5.3	6.0	40.8			9.6	11.0	10.1	3.2	4.6	38.6%
女性40-54歳 (n=3,668)	3.0 1.3	2.5	5.0	5.0	33.6			8.0	11.4	15.7	6.4	7.9	49.5%
男性40-54歳 (n=3,504)	3.7 1.2	2.1	4.4	5.3	38.2			10.3	12.2	13.0	4.5	5.1	45.2%
女性55-69歳 (n=3,068)	1.5 1.1	1.6 3.3	3.0	26.1			8.3	16.1	20.6	9.3	9.0		63.3%
男性55-69歳 (n=3,061)	1.2 0.8	1.5 3.3	3.9	29.9			11.5	15.6	19.2	6.0	7.0		59.4%

#### 【現在の幸福度】

※50%を超えるセルに色掛け

	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	幸福率	
女性20-39歳 (n=3,343)	3.9 2.2	3.4	5.9	6.3	31.0			8.6	11.4	13.2	7.6	6.6	47.3%
男性20-39歳 (n=3,356)	4.4 2.6	4.2	6.7	7.0	37.0			8.8	10.7	9.3	4.5	4.8	38.1%
女性40-54歳 (n=3,668)	3.9 2.3	4.6	5.5	5.9	27.2			8.4	11.6	15.0	8.6	6.8	50.5%
男性40-54歳 (n=3,504)	5.7 3.5	4.2	6.0	6.6	32.7			9.7	10.5	11.7	4.7	4.7	41.4%
女性55-69歳 (n=3,068)	2.2 2.1	3.0	4.5	4.7	22.8			9.0	15.6	20.0	10.2	5.9	60.8%
男性55-69歳 (n=3,061)	3.0 2.7	4.5	5.7	5.9	24.6			10.2	14.1	17.5	7.0	4.7	53.5%

#### (4) ジェンダー・家制度に対する考え方

※「賛成+やや賛成」「反対+やや反対」の合計値を掲載、「どちらとも言えない」の値は割愛  
 ・女性では、「賛成+やや賛成」「反対+やや反対」の値で差が大きいのは、「長男がお墓を守るべきである」「長子が家を継ぐ・家を守るべきである」「長男の嫁は、長男の嫁としての役割を果たすべきである」で「反対」の割合が高く、30%ポイント以上の差。  
 ・一方で、賛成側に高いのは、「男性にある程度収入がないと結婚すべきでない」で、「賛成」40.4%、「反対」14.2%。

女性(n=10,079)

※「賛成」「反対」で10%以上の差があるセルに色掛け

賛成+ やや賛成	40%			0%			反対+ やや反対
	20%	0%	40%	0%	20%	40%	
22.2%		16.5	5.6	男性は外で働き、 女性が家の中で 家事を支えるべきである	15.2	14.4	29.6%
13.2%		10.4	2.8	女性は結婚後は仕事を セーブ~辞めるべきである	19.5	19.8	39.2%
20.6%		16.3	4.3	女性は出産後は仕事を セーブ~辞めるべきである	16.1	17.0	33.1%
40.4%	27.2		13.2	男性にある程度収入が ないと結婚すべきでない	5.9	8.3	14.2%
11.7%		8.8	2.9	女性よりも男性の方が良い 大学・教育を受けるべきである	20.2	17.1	37.4%
25.7%		17.7	8.0	事実婚や同棲よりも結婚 (法律婚)するべきである	9.4	10.5	19.9%
25.2%		17.7	7.5	お見合いや婚活サイト等よりも 自然な恋愛結婚が望ましい	7.5	9.1	16.6%
16.9%		12.4	4.5	男女とも結婚(法律婚)して 一人前と認めるべきである	19.1	14.8	33.9%
12.6%		9.6	3.0	男女とも子供を持って 一人前と認めるべきである	25.2	16.3	41.5%
20.9%		14.3	6.6	結婚したら夫婦で同じ名字 ・姓を名乗るべきである	14.6	12.4	27.0%
29.0%	23.4		5.6	女性は仕事や家事で忙しくて も外見や美容に 気を遣うべきである	8.7	10.0	18.7%
25.1%		20.8	4.3	男性は仕事や家事で忙しくて も外見や美容に 気を遣うべきである	8.9	10.8	19.6%
8.9%		6.8	2.2	長男がお墓を守るべきである	26.2	17.7	43.9%
8.5%		6.6	1.9	長子が家を継ぐ・ 家を守るべきである	27.2	17.7	45.0%
9.5%		7.2	2.3	長男の嫁は、 長男の嫁としての役割を 果たすべきである	30.2	17.1	47.3%

■ 賛成である  
 □ やや賛成である

■ 反対である  
 □ やや反対である



#### (4) ジェンダー・家制度に対する考え方

・男性では、「賛成+やや賛成」の値の方が10%ポイント以上高い項目が、前項の「女性」と比べ多く見られる。特に、「事実婚や同棲よりも結婚(法律婚)すべきである」「お見合いや婚活サイト等よりも自然な恋愛結婚が望ましい」は女性と比べ「反対」の割合が低い。

・また、「男女とも結婚(法律婚)して一人前と認めるべきである」「男女とも子供を持って一人前と認めるべきである」「結婚したら夫婦で同じ名字・姓を名乗るべきである」(黒枠)は、女性に比べて「反対」としている人が少ない。

#### 男性(n=9,921)

※「賛成」「反対」で10%以上の差があるセルに色掛け

賛成+ やや賛成	40%			0%			0%			反対+ やや反対
	20%	0%		0%	20%	40%	0%	20%	40%	
23.1%		17.0	6.2	男性は外で働き、 女性が家の中で 家事を支えるべきである	10.8	12.0				22.8%
16.0%		12.6	3.3	女性は結婚後は仕事を セーブ~辞めるべきである	12.9	15.4				28.3%
20.2%		15.9	4.4	女性は出産後は仕事を セーブ~辞めるべきである	11.0	13.7				24.7%
33.5%		23.4	10.1	男性にある程度収入が ないと結婚すべきでない	5.9	9.8				15.6%
11.1%		8.5	2.6	女性よりも男性の方が良い 大学・教育を受けるべきである	15.9	15.6				31.5%
27.6%		18.8	8.8	事実婚や同棲よりも結婚 (法律婚)するべきである	6.4	8.3				14.7%
28.2%		20.4	7.8	お見合いや婚活サイト等よりも 自然な恋愛結婚が望ましい	4.8	7.6				12.4%
20.6%		15.3	5.3	男女とも結婚(法律婚)して 一人前と認めるべきである	11.7	12.4				24.1%
16.9%		12.6	4.3	男女とも子供を持って 一人前と認めるべきである	14.6	13.4				28.0%
26.0%		16.8	9.2	結婚したら夫婦で同じ名字 ・姓を名乗るべきである	8.0	9.1				17.1%
27.8%		22.3	5.5	女性は仕事や家事で忙しくて も外見や美容に 気を遣うべきである	5.6	7.9				13.5%
24.9%		19.9	5.1	男性は仕事や家事で忙しくて も外見や美容に 気を遣うべきである	5.8	8.7				14.5%
15.1%		11.9	3.3	長男がお墓を守るべきである	13.4	13.5				26.9%
14.6%		11.5	3.1	長子が家を継ぐ・ 家を守るべきである	13.4	13.2				26.6%
14.8%		11.4	3.4	長男の嫁は、 長男の嫁としての役割を 果たすべきである	14.1	13.3				27.3%

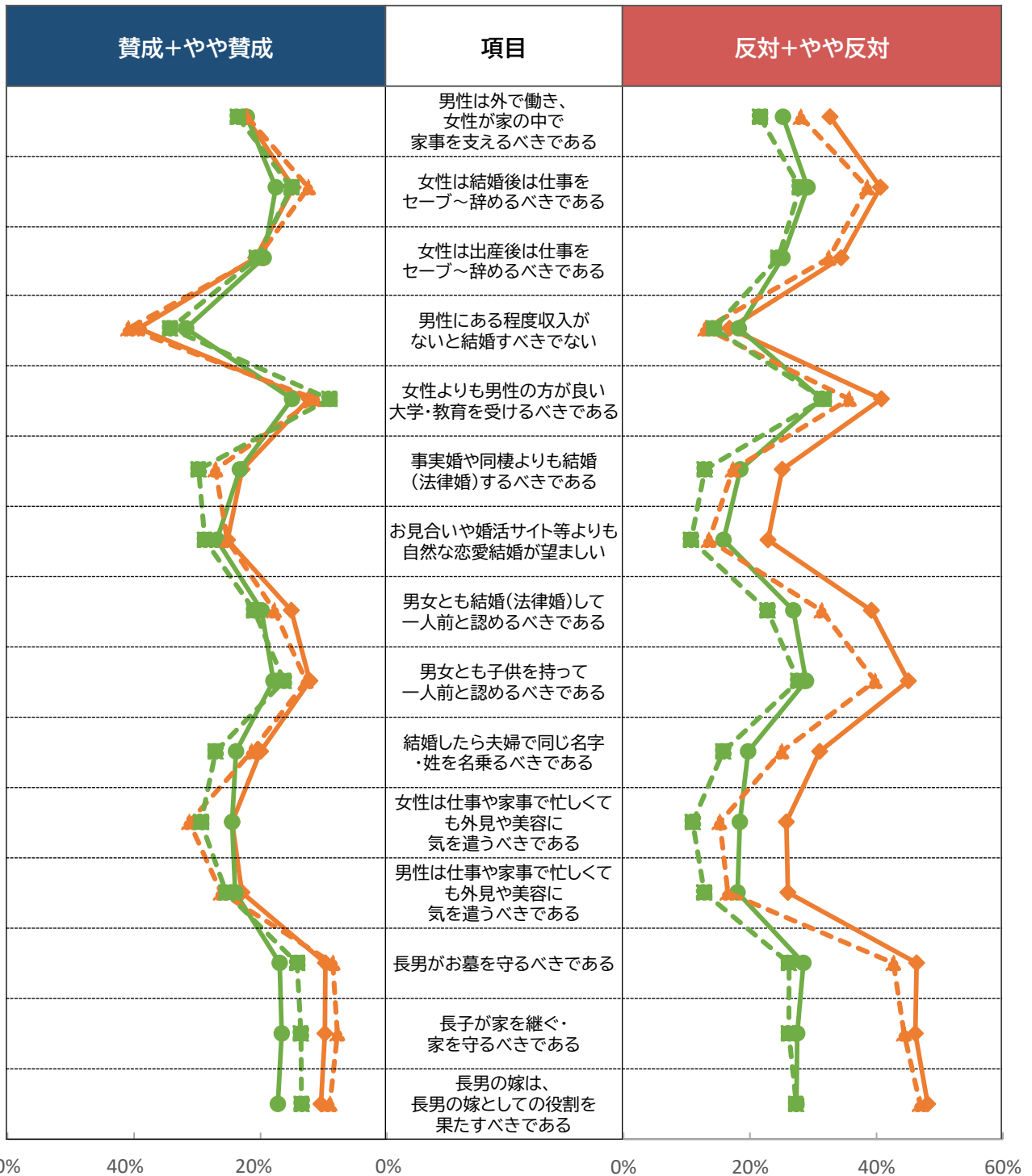
■ 賛成である  
▨ やや賛成である

■ 反対である  
▨ やや反対である

#### (4) ジェンダー・家制度に対する考え方

- ・男女別・年代別に傾向を見ると、「女性20-39歳」で多くの項目で最も「反対+やや反対」の割合が高く、次いで「女性40-69歳」、「男性20-39歳」「男性40-69歳」の順。
- ・「賛成+やや賛成」については、「女性20-39歳」「女性40-69歳」では多くの項目では「賛成」の値が「男性」と比べ低いが、「男性にある程度収入がないと結婚すべきでない」については、逆に「賛成」の値が高い。

—◆— 女性20-39歳 (n=3,343)    —●— 男性20-39歳 (n=3,356)  
-▲- 女性40-69歳 (n=6,736)    -■- 男性40-69歳 (n=6,565)



#### (4) ジェンダー・家制度に対する考え方

	女性/20-39歳 (n=3, 343)		男性/20-39歳 (n=3, 356)		女性/40-69歳 (n=6, 736)		男性/40-69歳 (n=6, 565)	
	賛成+ やや賛成	反対+ やや反対	賛成+ やや賛成	反対+ やや反対	賛成+ やや賛成	反対+ やや反対	賛成+ やや賛成	反対+ やや反対
男性は外で働き、 女性が家の中で 家事を支えるべきである	22.3%	32.7%	22.2%	25.2%	22.1%	28.0%	23.6%	21.6%
女性は結婚後は仕事を セーブ～辞めるべきである	14.8%	40.6%	17.6%	29.1%	12.4%	38.6%	15.1%	27.9%
女性は出産後は仕事を セーブ～辞めるべきである	20.8%	34.4%	19.5%	25.1%	20.5%	32.5%	20.6%	24.5%
男性にある程度収入が ないと結婚すべきでない	39.3%	16.8%	31.8%	18.2%	40.9%	12.9%	34.3%	14.3%
女性よりも男性の方が良い 大学・教育を受けるべきである	12.3%	40.8%	15.0%	31.3%	11.3%	35.7%	9.1%	31.7%
事実婚や同棲よりも結婚 (法律婚)するべきである	22.9%	25.1%	23.3%	18.5%	27.1%	17.3%	29.8%	12.8%
お見合いや婚活サイト等よりも 自然な恋愛結婚が望ましい	25.2%	22.9%	26.9%	15.8%	25.2%	13.5%	28.8%	10.7%
男女とも結婚(法律婚)して 一人前と認めるべきである	15.1%	39.2%	19.8%	26.8%	17.8%	31.3%	21.0%	22.7%
男女とも子供を持って 一人前と認めるべきである	12.2%	45.0%	17.9%	28.8%	12.8%	39.8%	16.3%	27.6%
結婚したら夫婦で同じ名字 ・姓を名乗るべきである	20.0%	31.0%	23.9%	19.7%	21.4%	25.0%	27.1%	15.8%
女性は仕事や家事で忙しくても外 見や美容に 気を遣うべきである	24.5%	25.8%	24.5%	18.4%	31.3%	15.2%	29.4%	10.9%
男性は仕事や家事で忙しくても外 見や美容に 気を遣うべきである	22.9%	26.0%	24.0%	18.0%	26.2%	16.5%	25.4%	12.8%
長男がお墓を守るべきである	9.7%	46.4%	17.0%	28.4%	8.6%	42.7%	14.2%	26.2%
長子が家を継ぐ・ 家を守るべきである	9.8%	46.1%	16.6%	27.4%	7.8%	44.4%	13.6%	26.2%
長男の嫁は、 長男の嫁としての役割を 果たすべきである	10.4%	48.1%	17.3%	27.4%	9.0%	46.9%	13.5%	27.3%

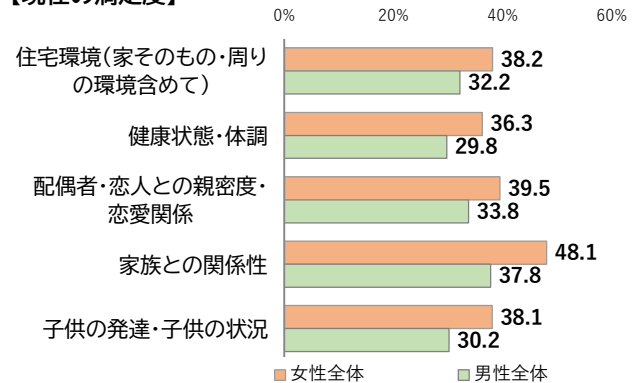
## 調査結果まとめ

### ◆現在、将来の不安と満足度

- 1 「現在」、「将来」ともに女性で「不安」が高く、特に「現在」は、「子供の育児に掛る費用や教育費負担が大変」「生活がぎりぎり、貯金ができない」と金銭面で男性より不安が高い。
- 2 将来の不安は、男女ともに「40-54歳」で不安とする項目が多い。特に女性で顕著であり、「高齢になって十分な介護が受けられるか」「年金受給が出来るか」など。
- 3 現在の満足度は、男女ともに「家族との関係性」が最も高い。全体として上の年代で満足度は高い傾向にあり、男性は「40-54歳」、女性は「20-39歳」で満足度が低い。

		女性全体	男性全体
現在不安	生活がぎりぎり貯金ができない	30.8%	28.1%
	家族の中に居場所がない	7.9%	10.3%
将来不安	高齢になって十分な生活ができない	32.6%	25.5%
	高齢になっても年金受給が不透明	34.9%	27.5%
	高齢になっても働かないといけけない	30.5%	26.2%
	高齢になって身体が不自由になり誰かの介助が必要になる	33.4%	26.2%

【現在の満足度】



### ◆ジェンダー・家制度に対する考え方

- 1 女性では、長男・長子・長男の嫁など「家制度」に対する反対割合が高い。男性では「法律婚すべき」「自然な恋愛結婚が望ましい」等で反対の割合が女性に比べ低い。
- 2 男女別・年代別では、「年代の若い女性」→「上の年代の女性」→「若い男性」→「上の年代の男性」の順に、「反対」の割合が高い。

- ・「女性」では特に「長男がお墓を守るべき」や「長子や長男の嫁に対する役割」に対する反対割合が高く、「家」に対する考え方は既存の家制度に納得できない・反対する考えが男性に比べ大きいと推測される。
- ・一方で、男性は女性と比べ、法律婚や子供を持つ事、夫婦で同姓であることへの「賛成」の割合が高い（反対も少ない）。「法律婚して子供がいることで一人前」という既存の考え方に沿うことが、「社会的に自分がどう見られるか」ということに繋がると意識しており、それがこの結果に繋がっていると推測される。

		女性(n=10,079)		男性(n=9,921)	
		賛成	反対	賛成	反対
収入	男性にある程度収入がないと結婚すべきではない	40.4%	14.2%	33.5%	15.6%
結婚・子供	事実婚や同棲よりも結婚（法律婚）するべきである	25.7%	19.9%	27.6%	14.7%
	お見合いや婚活サイト等よりも自然な恋愛結婚が望ましい	25.2%	16.6%	28.2%	12.4%
	男女とも結婚（法律婚）して一人前と認めるべきである	16.9%	33.9%	20.6%	24.1%
	男女とも子供を持って一人前と認めるべきである	12.6%	41.5%	16.9%	28.0%
	結婚したら夫婦で同じ名字・姓を名乗るべきである	20.9%	27.0%	26.0%	17.1%
家制度	長男がお墓を守るべきである	8.9%	43.9%	15.1%	26.9%
	長子が家を継ぐ・家を守るべきである	8.5%	45.0%	14.6%	26.6%
	長男の嫁は、長男の嫁としての役割を果たすべきである	9.5%	47.3%	14.8%	27.3%